

地域共生社会の実現に向けたピアサポート
(高齢者の支え合い) に関する研究調査報告書

令和 6 年 3 月

昭和女子大学 北本佳子

一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会

目 次

I 調査研究概要	
1. 背景と目的	1
2. 先行研究と調査研究の方法	1
3. 実施体制	2
4. 研究助成	4
II 調査の概要と結果	
1. 地域共生社会の実現に向けた高齢者同士支え合い（ピアサポート）に関する アンケート調査の概要	5
2. 調査の結果	6
III 高齢者の支え合い（ピアサポート）の展開に向けて	
1. 現場の立場から	45
2. 研究の立場から	46
3. おわりに	51
(参考資料)	
1. アンケート調査票	
2. 自由回答記述一覧（問7）、テキストマイニングによる分析	
3. 自由回答記述一覧（問9）、テキストマイニングによる分析	

I 調査研究概要

1. 背景と目的

今日の地域福祉政策で求められている地域共生社会の実現にあたっては、「支え手」「受け手」という関係を超えて、誰もが役割と生きがいを持ち、支え・支えられる関係の形成とそれを可能とする地域社会づくりが要とされる。そうした中で、精神保健福祉分野を中心に同じ疾患や障害を抱える、または同じ経験を持つ人たちが仲間（ピア）として、支援を受ける利用者と支援提供者（ピアサポーター）が相互に体験や情報を共有し合うことで、専門職からの支援では届かない部分を補うとともに、相互に生き生きと生活していく力を得るなどの成果が検証されている。

一方で、日本の地域社会や高齢者施設の中でも高齢者同士の支え合いは、日本独自な形で様々にみられているが、十分に可視化されておらず、自然発生的な支え合いとしての理解に止まっていると言える。本研究では、精神保健福祉分野の先行研究を参照しつつ、高齢者福祉分野におけるピアサポートの実態とそれを可能にしている要因（専門職の支援等）や今後の課題を明らかにし、現場での実践や政策の展開のための基礎的な研究を行うことを目的とした。なお、本研究では、高齢者福祉施設の中でも利用者による多様な助け合いに関する先行研究がある軽費老人ホーム・ケアハウス（以下、軽費・ケアハウス）を主な対象として研究を行うこととした¹。

2. 先行研究と調査研究の方法

(1) 先行研究

ピアサポートは、日本では精神保健福祉分野での研究や実践が先進的に行われていることはすでに述べた通りである。ここでは、高齢者福祉分野におけるピアサポートについて調査研究を行うにあたり、精神保健福祉分野での先行研究をもとに、ピアサポートに関する基礎的な確認を行う。その上で、本調査研究におけるピアサポートの理解や位置づけを明確にしていきたい。

(分類と定義)

ピアサポートについては、大きくは広義と狭義に分類でき、その狭義のピアサポートの中で2つに分類できるとされる（相川 2022:4-5）。以下ではその分類を紹介し、本研究での考え方・定義等を確認する。まず、広義のピアサポートは、相互扶助と同義と言われ、日常のインフォーマルな場面での自然発生的な助け合い・支え合いを意味する。一方、狭義のピアサポートは、「当事者会」や「家族会」などの同じ悩みや生きづらさを共有する仲間同士が自発的・意図的に集うフォーマルな（組織化された）メンバー間での助け合い・支え合いを対象とするとされ、その中でもピアサポートを仕事として行っているか否か（雇用契約の有無）で、さらに2つに分類ができるということである。また、ピアサポートを担う人に対する呼称も、ピアカウンセラー、ピアヘルパー、ピアサポーター、ピアスタッフのように様々ということである。

このように、ピアサポートを担う人に対しては様々な呼称がある中で、ピアサポートの意味や定義を確認すると、まずピア（peer）は、「ラテン語の par に由来し、仲間、対等、同輩などの

意味を持つ」(相川 2022 : 7) という。ただ、ピアサポートに関しては、合意を得た定義はないとのことで、相川は同じ経験によるつながりを重視し、「同様の経験をしている対等な仲間同士の支え合いの営みのすべて」というように包括的な定義をしている(相川 2022 : 7)。また、ピアとして支援する側に関しては、雇用契約がなく無償の場合はピアサポーターと呼び、常勤・非常勤で雇用契約に基づいて有償で働く場合にはピアスタッフと呼ぶとしている(相川 2022:7)。

以上のように、ピアサポートに関しては、相互扶助とほぼ同義の広義のものから、雇用契約に基づいて仕事して行っているものまで含まれていることがわかる。

本調査研究でも、軽費・ケアハウスにおける多様な高齢者同士の助け合い・支え合いの実態を広くとらえるためにも、上記の包括的な定義をもとに研究を行こととする。

ただ、高齢者福祉の現場では、ピアという用語もピアサポーターという用語もなじみがなく、定着しているとは言えないことから、本研究では「高齢者同士の支え合い」と「ピアサポート」を同義としてとらえ、その両方の用語を使用していく。

本調査研究の結果等を踏まえて、高齢者福祉分野における用語の捉え方や使用についてはより研究・精査していくことを念頭においていく必要があると言える。

(文献) 相川章子 (2022) 「ピアサポート/ピアスタッフの歴史的展開と発展可能性」『精神障害とリハビリテーション』 Vol. 26, No. 2, 6-13.

(2) 調査研究の方法

本調査研究では、文献調査とアンケート調査を行い、研究の目的を達成することとした。具体的には、前述したように、ピアサポートに関しては、精神保健福祉分野におけるピアサポートに関する研究が先行して行われていることから、国内外の研究や調査報告書などの先行研究の調査を行い、ピアサポートに関する取組みに関する概要・現状・課題を確認した。その上で、自立した高齢者が入居し、施設内での入居者同士の支援や入居者と地域の高齢者との交流や支援等が見られる軽費・ケアハウスにおけるピアサポートに関する現状や課題等を明らかにするために、アンケート調査を全軽協会員施設に対して行うこととした。

3. 実施体制

本調査研究では、後述するように、令和 5 年度昭和女子大学研究助成金の助成を得て、調査研究を行った。そのため、研究助成を受けた昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科教授の北本佳子が研究代表者として調査研究の統括を担当した。また、調査対象として協力を得た一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会(以下、全軽協)の中の調査研究委員会の委員にも協力を得て調査研究を実施した。実施体制の詳細は、以下に紹介する。

なお、調査の集計・分析に関しては、(株)八千代統計の神田隆宏氏の協力を得たほか、一部のデータ入力の作業や報告書作成にあたっての図表整理等に関して、昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科の北本ゼミの学生(有志)の協力を受けた。学生協力者は、伊藤樹香さん、葛西薫子さん、近藤水咲さん、定方美穂さんの4名である。

最後に、協力団体の全軽協の概要紹介をする。全軽協は、昭和 58 年 6 月沖縄で発足され全国の軽費老人ホーム(ケアハウス)施設(A型・B型・ケアハウス)間の緊密な連携を保と共に各関

係機関と協調し、情報交換、調査研究及び研修などを行っている団体で、特に、利用者の立場に立脚したサービスの構築はもとより、施設経理及び運営の充実と発展を図り「生活支援」を基本とする総合的かつ専門的な老人福祉サービスの向上に資することを目的とする一般社団法人である。現在の会員施設数は490施設にのぼり、全国8ブロックに分けて事業が行われている。

【実施体制】

研究調査代表者	昭和女子大学 教授	北本佳子
---------	-----------	------

令和5年度 全軽協 調査研究委員会 名簿

	所属	氏名	地域
委員	軽費老人ホームだいせん	阿部 孝幸	秋田
委員	ケアハウスマイホーム五浦	荒川 透	茨城
委員	軽費老人ホーム福寿荘	石神 敏明	千葉
委員	ケアハウス白山荘	植村 芳明	高知
委員	軽費老人ホーム悠々の里	岡田 健一	福島
委員	ケアハウス玉沢昭寿園	木下 朝子	静岡
委員	ケアハウスエマオ	小山 順子	長野
委員長	軽費老人ホーム二宮寿考園	里山 樹	神奈川
委員	軽費老人ホーム茨戸ライラックハイツ	友高 美保	北海道
委員	軽費老人ホーム錦寿苑	福田 雅良	山口
委員	ケアハウスカームヒル西円山	増田 智子	北海道
全軽協 理事長	サンシャイン会理事長	川西 基雄	香川

(委員はアイウエオ順 敬称略)

※調査集計協力：(株)八千代統計 神田 隆宏

【調査研究の打ち合わせ・協力担当等】

(調査票作成)

本研究事業では、研究代表者と調査研究委員会委員（主な担当者は里山委員長、石神委員）とともに、調査票の作成を行った。また、仮の調査票作成後、調査研究委員会の委員によるプレ調査を実施し、それを踏まえて、調査票を完成した。この作業過程においては、適宜川西全軽協理事長や八千代統計の神田氏にも参加協力を得た。具体的な作業方法としては、オンライン（zoom）による打ち合わせとメールによる連絡・確認を行った。

(調査実施・調査の集計及び分析、報告書作成・担当)

調査の実施においては、詳細は後述するが、全軽協の事務局の協力を得て、Google フォームと郵送調査（回答は FAX での回収）を併用して実施した。この間、全軽協の事務局には、調査票の配信・受付等の多大な協力を得た。

調査票の集計においては、FAX で回答票に関しては、前述した学生協力者によって回答内容のデータ化（入力作業）を行い、集計作業は八千代統計の神田氏に依頼した。

調査の報告書作成にあたっては、研究代表者を中心に調査研究委員会の協力を得た。また、学生協力者の中の近藤さんには図表の報告書原稿への添付、レイアウト調整等の協力を得た。

報告書作成の執筆担当部分は後述の通りである。

4. 研究助成

本研究調査は、2023 年度昭和女子大学研究助成金の助成を得て実施した。助成期間は、2023 年 6 月 15 日（支給通知）から 2024 年 3 月末である。

今回の調査結果等は、学会等での発表等を通して広く公表する。

ⁱ 全軽協では、職員による利用者に対する支援のほかに、利用者同士による支援に関して、多様な調査研究や出版物の刊行を行っている。近年の主なものをあげると、以下の通りである。

(調査研究)

- ・平成 24 年度老人保健事業推進費補助金老人保健健康増進等事業『地域包括ケアシステムの構築に向けた高齢者が住み続けるための生活支援に関する調査報告書』特定非営利法人日本ソーシャルワーカー協会、2013 年 3 月。
- ・平成 26 年度老人保健事業推進費補助金老人保健健康増進等事業『軽費老人ホームにおける生活困難等による利用者支援のあり方に関する調査研究事業報告書』一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会、2015 年 3 月。

(出版物)

- ・一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会編・北本佳子監修『高齢者の生活の質の向上に向けて 地域共生社会における生活支援－軽費老人ホーム・ケアハウスの実践から－』学文社、2020 年 4 月。
- ・一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会編・北本佳子監修『あなたらしき応援プラン 地域共生社会における生活支援－軽費老人ホーム・ケアハウスの持続可能な機能の展開－』学文社、2022 年 6 月。

Ⅱ 調査の概要と結果

1. 地域共生社会の実現に向けた高齢者同士の支え合い（ピアサポート）に関するアンケート調査の概要

（1）調査の目的

本調査では、精神保健福祉を中心とする障害福祉分野では障害者同士の支え合い（ピアサポート）を行うピアサポーターの養成やそれを可能とする支援等が加算対象として評価されている状況や先行研究を参考にしつつ、高齢者福祉分野における高齢者同士の支え合い（ピアサポート）の実態とそれを可能にしている要因（特に専門職の意図的な支援等）や今後の課題を明らかにし、現場での実践からの政策提案、軽費・ケアハウスの存在意義を可視化するための基礎的な研究を行うことを目的とした。

なお、高齢者の福祉現場では「ピアサポート」という用語になじみがないため、本調査名と調査票内では、回答への抵抗感やハードルを下げるために「高齢者同士の支え合い（ピアサポート）」のように併記するとともに、ピアサポートを括弧書きにした。

（2）調査実施概要

① 調査対象

全軽協に加盟している軽費・ケアハウス全施設（490施設）を対象とした。

② 調査方法

回収率を高めるため、Googleformによる調査実施と調査票の郵送による方法（回答はFAXでの回答）を併用した。また、回収率を高めるため、調査期間中に督促を1回実施した。詳細は以下の調査実施時期に記載の通りである。

③ 倫理的配慮

日本社会福祉学会・日本地域福祉学会の研究倫理規定に基づいて対応した。
アンケートに回答したことで、調査の趣旨等に賛同したとみなし、対応した。

④ 調査実施時期

Googleformによる配信日：2023年11月18日（土）

郵送による配送日：2023年11月17日（金）

第1回締め切り 2023年12月1日（金）

第2回締め切り 2023年12月11日（月）

⑤ 調査票回収状況

発送数	回収数	回収率
490 施設	271 施設	55.3%

(内訳等)

Googleform 回答：191 件、FAX 回答：80 件、合計回答数：271 件

回答率 271 件／490 件=55.3%

※無効票 0 件

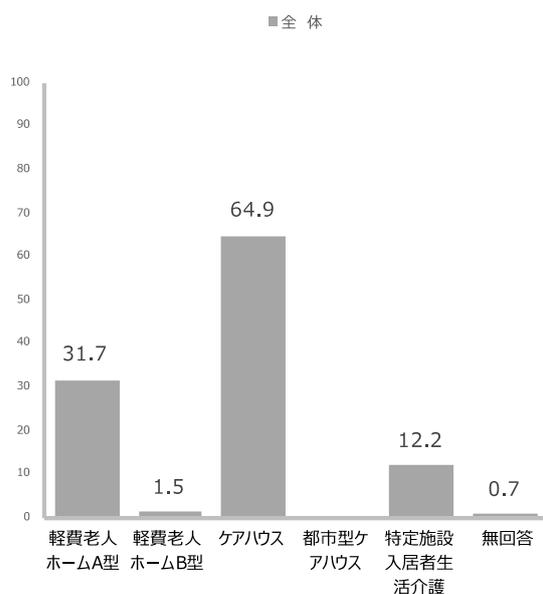
2. 調査結果の概要

(1) 回答施設の概要

1-1) 種類

回答のあった 271 施設の施設種類をみると、「ケアハウス」が 64.9%で最も高く、次いで「軽費老人ホーム A 型」(以下、「軽費 A 型」)が 31.7%で、「軽費老人ホーム B 型」(以下、「軽費 B 型」)は 1.5%、「都市型軽費老人ホーム」が 0%で、「ケアハウス」と「軽費 A 型」が回答施設のほとんどを占めていることがわかる。なお、回答施設の中の特定施設入居者生活介護の割合は、12.2%となっている。

表 1-1 回答施設の種類



1-2) 所在地

回答施設の所在地をブロック別にみると、「関東」が 20.3%で最も高く、以下「北海道」の 15.5%、「四国」の 13.3%、「近畿」と「東北」の 11.4%、「九州」の 11.1%、「東海・北陸」の 5.9%となっている。

図表 1-2 所在地

	n=	北海道	東北	関東	東海北陸	近畿	中国	四国	九州	無回答
全体	(271)	15.5	11.4	20.3	5.9	11.4	10.3	13.3	11.1	0.7

1-3) 定員数

回答施設の定員数は、「41～50人」が 50.6%で最も高く、次いで「21～30人」が 16.6%となっている。以下は、「20人以下」と「31～40人」、「91～100人」が 4.8%で同位になっている。全体では「50人以下」の施設が 76.8%と、8割弱を占めている

図表 1-3 定員数

	n=	～20人	21人～30人	31人～40人	41人～50人	51人～60人	61人～70人	71人～80人	81人～90人	91人～100人	101人～
全体	(271)	4.8	16.6	4.8	50.6	7.7	4.4	3.3	1.8	4.8	1.1

1-4) 職員数

回答施設の職員数(常勤+非常勤(常勤換算数)・委託職員を除く)は、「6人～10人」が 32.1%で最も高く、以下「11人～15人」が 21.4%、「～5人」が 18.8%、「16人～20人」が 15.5%、「21人以上」が 11.8%となっている。全体では「10人以下」の施設が 50.9%で半数を占めている。

図表 1-4 職員数

	n=	～5人	6人～10人	11人～15人	16人～20人	21人～	無回答
全体	(271)	18.8	32.1	21.4	15.5	11.8	0.4

(2) 高齢者の支え合い（ピアサポート）（設問別）

2-1) 施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）の有無

利用者がかかわる高齢者の支え合い（ピアサポート）の有無については、「ある」が70.1%で、「ない」が22.9%、「わからない」が7.0%となっている。ただ、ピアサポートという用語が高齢者福祉現場ではなじみがないため、「ない」や「わからない」と回答した施設にも実態としてはピアサポートがある可能性がある。

図表 2-1 施設内外の高齢者士の支え合い（ピアサポート）の有無

	n=	■ある	■ない	■わからない
全体	(271)	70.1	22.9	7.0

次に、利用者がかかわる高齢者の支え合い（ピアサポート）の有無を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は以下の通りである。

事業所別では、全体の傾向と変わりないが、「ケアハウス」よりも「軽費」の方がピアサポートのある割合が若干高くなっている。

施設定員数別では、全体の傾向と変わりなく定員数の影響はあまりないことがうかがえる。

施設職員数別でも、全体の傾向と変わりなく、「6人～10人」の職員数のところの「ある」割合が、73.6%で最も多く、職員数が多さとピアサポートが「ある」ことに相関関係があるとは言えないことがわかる。

エリア別では、「東北」が83.9%で最も高く、唯一80%を超えている。以下、「東海・北陸」の75.0%、「近畿」の74.2%、「関東」の72.7%が全体の割合を超えている。

図表 2-1) ①施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）の有無（事業所種別）

		調査数	ある	ない	わからない
全体		271	70.1	22.9	7.0
事業所種別	軽費老人ホームA型+B型	90	75.6	18.9	5.6
	軽費老人ホームA型	86	76.7	19.8	3.5
	軽費老人ホームB型	4	50.0	-	50.0
	ケアハウス	176	68.8	24.4	6.8
	都市型ケアハウス	-	-	-	-
	特定施設入居者生活介護	33	69.7	24.2	6.1

図表 2-1) ②施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）の有無（施設定員数別）

		調査数	ある	ない	わからない
全 体		271	70.1	22.9	7.0
定 施 別 員 設 数 の	20人以下	13	69.2	23.1	7.7
	21～50人	195	69.2	24.1	6.7
	51～100人	60	71.7	20.0	8.3
	101人以上	3	100.0	-	-

図表 2-1) ③施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）の有無（施設職員数別）

		調査数	ある	ない	わからない
全 体		271	70.1	22.9	7.0
施 設 員 数 の 別 職	～5人	51	66.7	21.6	11.8
	6人～10人	87	73.6	18.4	8.0
	11人～15人	58	72.4	25.9	1.7
	16人～20人	42	69.0	28.6	2.4
	21人～	32	62.5	25.0	12.5

図表 2-1) ④施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）の有無（エリア別）

		調査数	ある	ない	わからない
全 体		271	70.1	22.9	7.0
エ リ ア 別	北海道	42	64.3	28.6	7.1
	東北	31	83.9	12.9	3.2
	関東	55	72.7	23.6	3.6
	東海北陸	16	75.0	18.8	6.3
	近畿	31	74.2	16.1	9.7
	中国	28	67.9	28.6	3.6
	四国	36	61.1	25.0	13.9
	九州	30	66.7	23.3	10.0

2-2) 施設内外での高齢者の支え合い（ピアサポート）の有無（項目別）（複数回答）

利用者がかかわる高齢者の支え合い（ピアサポート）の有無で「ある」と回答した施設に、その内容を項目別（施設内外の項目別）に回答と求め、その上で、①その高齢者の支え合い（ピアサポート）が「自然発生的に行われている、行われた」か、②「ピアサポートが行われるきっかけに、職員による意図的な支援（かかわり）があった」、③「ピアサポートに対して、職員のサポートやフォローがある、あった」についても質問した。上記の①②③については、以下のような（例示）をして、回答がしやすくなるように工夫した。

（例示）

- ・利用者が職員の関与なく自発的に手足が不自由な方のゴミ出しを手伝っている⇒①に✓
- ・Aさんが手足の不自由なBさんのことを気にしている様子を観察した。AさんにBさんの困っていることをお手伝いしてくださるとBさんは喜ぶと思いますよ、と伝えるなど何らかの

形で強制的ではない形で支え合いが可能となるような意図的な支援を行ったことがある。⇒
②に✓

- ・ AさんがBさんのゴミ出しを手伝ってくれた。Aさんが全部のゴミを持てるかなど見守ったり、分別の確認をしたり、Bさんの気持ちを代弁したり、Aさんに感謝の言葉掛けをしたり、支え合い（ピアサポート）の継続や新たな助け合いが展開されるようなフォロー（意図的な支援）をしたことがある。⇒③に✓

なお、高齢者の支え合い（ピアサポート）に関する項目は、施設内に関しては「食事の配膳の支援」から始まる18項目とその他、施設外に関しては「地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている」から始まる9項目とその他、で回答を求めた。

※図表2-2) は実数に基づく作図となっている。

図表 2-2) 高齢者の支え合い（ピアサポート）の有無（項目別）

	※数値は件数	n=	<small>■ ①高齢者同士の支え合い（ピアサポート）が自然発生的に行われている、行われた。 ■ ②ピアサポートが行われるきっかけに、職員による意図的な支援（かかわり）があった。 ■ ③ピアサポートに対して、職員のサポートやフォローがある、あった。</small>		
(施設内) 食事の配膳の支援	(190)	89	12	30	
(施設内) 食事の介助	(190)	75	12		
(施設内) 歩行や移動の支援	(190)	103	12	30	
(施設内) 外出の同行支援	(190)	76	8	25	
(施設内) 買い物の代行支援	(190)	95	2	27	
(施設内) 入浴の見守り	(190)	59	16	25	
(施設内) 入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(190)	23	113		
(施設内) 居室での見守り	(190)	24	7	11	
(施設内) 居室の整理・清掃等のお手伝い	(190)	33	3	16	
(施設内) 相談に乗る	(190)	133	22	33	
(施設内) 話し相手になっている	(190)	158	32	35	
(施設内) 利用者同士の人間関係の調整	(190)	66	48	52	
(施設内) レクリエーション時の支援	(190)	71	42	43	
(施設内) 利用者同士のお茶会	(190)	78	18	29	
(施設内) 利用者同士での食事会	(190)	56	8	16	
(施設内) 利用者同士の旅行（日帰りを含む）	(190)	18	9	13	
(施設内) ゴミ出し	(190)	88	9	23	
(施設内) 洗濯物の取り込み	(190)	48	7	14	
(施設内) その他	(190)	27	16	18	
(施設外) 地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(190)	27	11	15	
(施設外) 地域の高齢者の方の相談に乗る	(190)	9	2	9	
(施設外) 地域の高齢者の話し相手になっている	(190)	14	3	7	
(施設外) 地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(190)	18	8	9	
(施設外) 地域の高齢者と旅行（日帰りを含む）をしている	(190)	7	3	7	
(施設外) 法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(190)	16	12	12	
(施設外) 法人内の他の施設等の高齢者の方の相談にのっている	(190)	3	4	7	
(施設外) 法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(190)	9	6	7	
(施設外) 法人内の他の施設等の高齢者とお茶会や食事会をしている	(190)	2	4	7	
(施設外) その他	(190)	5	5	8	

方が自然発生的に行われている割合も高くなっている一方、(施設外)の項目は全体的に定員数が少ない方が自然発生的に行われている割合が高くなっていることがわかる。前者の「(施設内)レクリエーション時の支援」や「(施設内)利用者同士のお茶会」に関しては、定員数が少ないとレクリエーションやお茶会自体の開催が少ない可能性がある。

施設職員数別では、「(施設内)入浴の見守り」や「(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い」や「(施設内)居室での見守り」や「(施設内)洗たくの取り込み」などにおいて、職員定数が「～5人以下」の施設とそれ以上の職員定数の施設との間で差がみられ、職員定数が「～5人以下」の場合は、自然発生的に行われている割合が低くなっていることがわかる。また、「(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)」については、それ以上の職員定数の施設では回答があったが「～5人以下」の施設では回答が0%となっている。

エリア別では、「(施設内)入浴の見守り」や「(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い」や「(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い」で、エリアによって割合の差が開いている。入浴や居室に入ることに関する決まりや利用者の要望の有無等が影響している可能性がある。

図表 2-2① ①自然発生的に行われている高齢者同士の支え合い(事業所種別)

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り	
全体	190	46.8	3.7	54.2	40.0	50.0	31.1	12.1	12.6	
事業所種別	経費老人ホームA型+B型	68	50.0	5.9	58.8	39.7	50.0	35.3	13.2	13.2
	経費老人ホームA型	66	50.0	3.0	59.1	39.4	50.0	34.8	13.6	13.6
	経費老人ホームB型	2	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-
	ケアハウス	121	45.5	2.5	52.1	40.5	50.4	28.9	11.6	12.4
	都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定施設入居者生活介護	23	56.5	4.3	56.5	39.1	52.2	21.7	8.7	13.0	

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
17.4	70.0	83.2	34.7	37.4	41.1	29.5	9.5	46.3	25.3	14.2
16.2	70.6	83.8	42.6	44.1	35.3	29.4	10.3	52.9	33.8	19.1
15.2	69.7	83.3	42.4	43.9	33.3	30.3	10.6	53.0	33.3	19.7
50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	-	-	50.0	50.0	-
17.4	69.4	82.6	29.8	33.1	44.6	29.8	9.1	42.1	19.8	11.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26.1	73.9	87.0	34.8	52.2	43.5	21.7	13.0	43.5	17.4	17.4

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
14.2	4.7	7.4	9.5	3.7	8.4	1.6	4.7	1.1	2.6	4.7
11.8	4.4	11.8	10.3	4.4	8.8	2.9	7.4	2.9	7.4	4.4
12.1	4.5	12.1	10.6	4.5	9.1	3.0	6.1	3.0	7.6	4.5
-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
15.7	5.0	5.0	9.1	3.3	7.4	0.8	3.3	-	-	5.0
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8.7	8.7	8.7	8.7	8.7	13.0	4.3	4.3	-	-	4.3

図表 2-2① ②自然発生的に行われている高齢者同士の支え合い(施設定員数別)

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り
全体	190	46.8	3.7	54.2	40.0	50.0	31.1	12.1	12.6
定員数の別	20人以下	9	66.7	-	55.6	11.1	55.6	33.3	-
	21～50人	135	43.0	4.4	54.1	38.5	45.9	28.9	10.4
	51～100人	43	53.5	2.3	58.1	53.5	60.5	37.2	20.9
	101人以上	3	66.7	-	-	-	66.7	33.3	-

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
17.4	70.0	83.2	34.7	37.4	41.1	29.5	9.5	46.3	25.3	14.2
11.1	55.6	66.7	33.3	22.2	22.2	-	-	44.4	22.2	-
17.0	69.6	85.9	32.6	37.0	41.5	28.9	9.6	43.0	27.4	17.8
20.9	76.7	81.4	41.9	44.2	44.2	37.2	11.6	58.1	20.9	7.0
-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
14.2	4.7	7.4	9.5	3.7	8.4	1.6	4.7	1.1	2.6	4.7
11.1	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-	11.1
11.9	3.7	6.7	9.6	5.2	8.1	1.5	5.2	1.5	3.7	3.7
23.3	7.0	9.3	9.3	-	11.6	2.3	4.7	-	4.7	4.7
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3

図表 2-2①) ③自然発生的に行われている高齢者同士の支え合い(施設職員数別)

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り
全体	190	46.8	3.7	54.2	40.0	50.0	31.1	12.1	12.6
施設員数別									
～5人	34	50.0	-	47.1	23.5	47.1	17.6	5.9	5.9
6人～10人	64	39.1	6.3	56.3	50.0	53.1	37.5	15.6	12.5
11人～15人	42	40.5	2.4	57.1	38.1	45.2	31.0	11.9	11.9
16人～20人	29	69.0	-	48.3	48.3	62.1	41.4	17.2	24.1
21人～	20	50.0	10.0	60.0	25.0	35.0	15.0	5.0	10.0

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
17.4	70.0	83.2	34.7	37.4	41.1	29.5	9.5	46.3	25.3	14.2
11.8	70.6	85.3	35.3	29.4	55.9	23.5	-	35.3	17.6	14.7
25.0	67.2	79.7	25.0	28.1	32.8	29.7	15.6	46.9	34.4	14.1
19.0	76.2	85.7	50.0	45.2	40.5	38.1	11.9	57.1	26.2	11.9
6.9	69.0	82.8	31.0	44.8	48.3	31.0	6.9	48.3	24.1	17.2
15.0	65.0	85.0	40.0	55.0	30.0	15.0	5.0	40.0	10.0	15.0

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)その他	無回答	
14.2	4.7	7.4	9.5	3.7	8.4	1.6	4.7	1.1	2.6	4.7
8.8	5.9	5.9	11.8	-	2.9	-	-	-	-	2.9
18.8	3.1	7.8	10.9	7.8	7.8	1.6	7.8	1.6	-	6.3
21.4	7.1	7.1	9.5	2.4	11.9	4.8	7.1	-	4.8	4.8
10.3	3.4	10.3	10.3	3.4	10.3	-	-	3.4	6.9	-
-	5.0	5.0	-	-	10.0	-	5.0	-	5.0	10.0

図表 2-2①) ④自然発生的に行われている高齢者同士の支え合い(エリア別)

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り
全体	190	46.8	3.7	54.2	40.0	50.0	31.1	12.1	12.6
エリア別									
北海道	27	48.1	-	44.4	51.9	63.0	40.7	22.2	11.1
東北	26	53.8	-	65.4	50.0	53.8	30.8	7.7	11.5
関東	40	40.0	5.0	57.5	37.5	47.5	32.5	15.0	15.0
東海北陸	12	41.7	-	58.3	41.7	33.3	41.7	18.7	8.8
近畿	23	47.8	13.0	69.9	39.1	47.8	21.7	13.0	8.7
中国	19	42.1	-	68.4	36.8	47.4	31.6	5.3	15.8
四国	22	36.4	4.5	40.9	18.2	40.9	4.5	4.5	9.1
九州	20	65.0	5.0	35.0	45.0	55.0	50.0	10.0	20.0

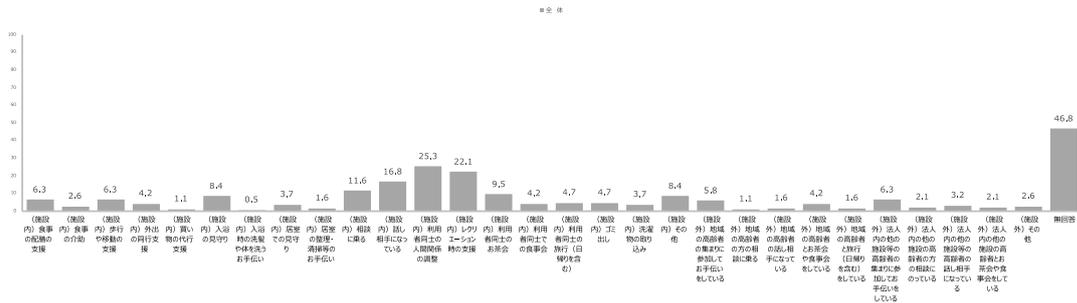
(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
17.4	70.0	83.2	34.7	37.4	41.1	29.5	9.5	46.3	25.3	14.2
14.8	66.7	77.8	37.0	48.1	55.6	44.4	7.4	25.9	11.1	3.7
26.9	76.9	92.3	38.5	46.2	53.8	15.4	7.7	50.0	30.8	26.9
17.5	72.5	75.0	40.0	40.0	45.0	40.0	20.0	55.0	25.0	7.5
33.3	58.3	83.3	25.0	41.7	25.0	16.7	8.3	58.3	16.7	8.3
4.3	82.6	95.7	34.8	47.8	17.4	21.7	6.7	47.8	30.4	21.7
21.1	73.7	100.0	42.1	21.1	68.4	47.4	5.3	47.4	26.3	5.3
4.5	59.1	68.2	9.1	18.2	22.7	18.2	9.1	31.8	22.7	22.7
25.0	60.0	80.0	40.0	25.0	30.0	20.0	-	60.0	35.0	20.0

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
14.2	4.7	7.4	9.5	3.7	8.4	1.6	4.7	1.1	2.6	4.7
22.2	-	3.7	11.1	14.8	7.4	-	-	-	7.4	-
15.4	11.5	11.5	15.4	-	11.5	-	3.8	-	3.8	3.8
22.5	2.5	12.5	12.5	5.0	10.0	-	2.5	-	2.5	10.0
-	-	-	-	-	8.3	-	8.3	-	-	16.7
4.3	8.7	8.7	4.3	4.3	4.3	4.3	8.7	-	4.3	-
10.5	5.3	5.3	5.3	-	10.5	5.3	10.5	-	-	-
13.6	4.5	4.5	13.6	-	4.5	4.5	-	-	-	9.1
10.0	5.0	5.0	5.0	-	10.0	-	5.0	5.0	-	-

2-2) ②ピアサポートが行われるきっかけに、職員による意図的な支援（かかわり）があった

ピアサポートが行われるきっかけに、職員による意図的な支援（かかわり）があった項目については、無回答を除くと、「（施設内）利用者同士の間関係の調整」が25.1%で最も高く、次いで「（施設内）レクリエーション時の支援」の22.1%、「（施設内）話し相手になっている」の16.8%、「（施設内）相談に乗る」の11.6%が続いている。人間関係にかかわることについては、職員による意図的な支援（かかわり）が必要なことが多くあることがうかがえる。

図表 2-2) ②ピアサポートが行われるきっかけに、職員による意図的な支援（かかわり）があった



次に、職員による意図的な支援（かかわり）があった項目内容を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は以下の通りである。

事業所種別、施設定員数別、施設職員数別でも、上述の全体的な傾向と大きく変わらない傾向にある。一方、エリア別では、上述の全体的な傾向で高い割合だった項目もエリアでは差があることがわかる。例えば、「（施設内）利用者同士の間関係の調整」は、「近畿」は39.1%で4割近いのに対し、「東海・北陸」では15.0%となっている。また、「（施設内）レクリエーション時の支援」は、「北海道」は37.1%であるのに対し、「四国」では9.1%になっている。「（施設内）話し相手になっている」は、「九州」が30.0%であるのに対し、「東海・北陸」は0%となっている。

図表 2-2②) ①職員による意図的な支援（かかわり）があった（事業所種別）

	調査数	(施設内) 食事の配膳の支援	(施設内) 食事の介助	(施設内) 歩行や移動の支援	(施設内) 外出の同行支援	(施設内) 買い物の代行支援	(施設内) 入浴の見守り	(施設内) 入浴時の洗濯や体を洗うお手伝い	(施設内) 居室での見守り
全体	190	6.3	2.6	6.3	4.2	1.1	8.4	0.5	3.7
事業所種別									
経費老人ホームA型+B型	68	8.8	2.9	7.4	4.4	-	8.8	1.5	4.4
経費老人ホームA型	66	7.6	1.5	6.1	3.0	-	9.1	1.5	4.5
経費老人ホームB型	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-
ケアハウス	121	5.0	2.5	5.8	4.1	1.7	7.4	-	3.3
都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定施設入居者生活介護	23	-	-	8.7	-	-	8.7	-	4.3

	(施設内) 居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内) 相談に乗る	(施設内) 話し相手になっている	(施設内) 利用者同士の間関係の調整	(施設内) レクリエーション時の支援	(施設内) 利用者同士のお茶会	(施設内) 利用者同士での食事会	(施設内) 利用者同士での旅行(日帰りを含む)	(施設内) ゴミ出し	(施設内) 洗濯物の取り込み	(施設内) その他
	1.6	11.6	16.8	25.3	22.1	9.5	4.2	4.7	4.7	3.7	8.4
	-	8.8	14.7	26.5	27.8	5.8	4.4	2.8	3.8	4.4	10.3
	-	7.6	13.6	25.8	27.3	4.5	3.0	6.1	3.0	4.5	10.6
	-	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-
	1.7	12.4	17.4	24.0	18.2	10.7	4.1	5.8	3.3	2.5	7.4
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4.3	21.7	26.1	39.1	30.4	13.0	8.7	8.7	13.0	13.0	17.4

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
5.8	1.1	1.6	4.2	1.6	6.3	2.1	3.2	2.1	2.6	46.8
5.9	-	1.5	2.9	1.5	4.4	-	-	-	4.4	38.2
6.1	-	1.5	3.0	1.5	4.5	-	-	-	4.5	37.9
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
5.8	1.7	1.7	5.0	1.7	6.6	3.3	5.0	3.3	1.7	52.1
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	13.0	-	-	-	-	47.8

図表 2-2②) ②職員による意図的な支援(かかわり)があった(施設定員数別)

調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り	
全体	190	6.3	2.6	6.3	4.2	1.1	8.4	0.5	3.7
定施設別員数	9	22.2	-	11.1	11.1	-	22.2	-	-
20人以下	135	6.7	3.7	5.2	4.4	1.5	9.6	0.7	4.4
21~50人	43	2.3	-	9.3	2.3	-	2.3	-	2.3
51~100人	3	-	-	-	-	-	-	-	-
101人以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
1.6	11.6	16.8	25.3	22.1	9.5	4.2	4.7	4.7	3.7	8.4
-	11.1	44.4	44.4	22.2	33.3	11.1	-	-	-	11.1
2.2	11.9	17.8	25.9	21.5	9.8	3.7	3.7	5.9	4.4	9.6
-	11.6	9.3	20.9	25.6	4.7	4.7	7.0	2.3	-	4.7
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
5.8	1.1	1.6	4.2	1.6	6.3	2.1	3.2	2.1	2.6	46.8
-	-	-	-	11.1	-	-	11.1	-	-	33.3
6.7	1.5	2.2	4.4	2.2	7.4	3.0	3.0	2.2	3.7	43.7
4.7	-	-	2.3	-	4.7	-	2.3	-	-	55.8
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

図表 2-2②) ③職員による意図的な支援(かかわり)があった(施設職員数別)

調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り	
全体	190	6.3	2.6	6.3	4.2	1.1	8.4	0.5	3.7
職員数別	34	5.9	2.9	5.9	8.8	2.9	2.9	-	2.9
~5人	64	6.3	4.7	7.8	6.3	1.6	15.6	1.6	3.1
6人~10人	42	11.9	-	7.1	2.4	-	4.8	-	2.4
11人~15人	29	-	3.4	3.4	-	-	3.4	-	6.9
16人~20人	20	5.0	-	5.0	-	-	10.0	-	5.0
21人~	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
1.6	11.6	16.8	25.3	22.1	9.5	4.2	4.7	4.7	3.7	8.4
2.9	11.8	20.6	20.6	8.8	11.8	5.9	5.9	2.9	2.9	8.8
1.6	14.1	21.9	28.1	26.6	9.4	3.1	4.7	4.7	3.1	9.4
-	4.8	7.1	21.4	16.7	7.1	4.8	2.4	4.8	2.4	4.8
-	10.3	13.8	17.2	31.0	13.8	3.4	6.9	6.9	6.9	6.9
5.0	20.0	20.0	40.0	25.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	15.0

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
5.8	1.1	1.6	4.2	1.6	6.3	2.1	3.2	2.1	2.6	46.8
5.9	5.9	2.9	5.9	2.9	5.9	8.8	8.8	2.9	2.9	55.9
6.3	-	3.1	4.7	1.6	7.8	1.6	1.6	-	1.6	43.8
2.4	-	-	4.7	-	2.4	-	-	-	2.4	50.0
10.3	-	-	10.3	3.4	3.4	6.9	3.4	3.4	6.9	41.4
5.0	-	-	-	-	15.0	-	5.0	-	-	45.0

図表 2-2②) ④職員による意図的な支援（かかわり）があった（エリア別）

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り
全体	190	6.3	2.6	6.3	4.2	1.1	8.4	0.5	3.7
北海道	27	-	-	3.7	-	-	7.4	-	7.4
東北	26	3.8	-	7.7	7.7	-	11.5	-	-
関東	40	5.0	2.5	10.0	5.0	-	7.5	-	5.0
東海北陸	12	8.3	-	-	-	-	-	-	-
近畿	23	17.4	4.3	8.7	-	-	-	-	-
中国	19	10.5	-	10.5	5.3	-	15.8	-	-
四国	22	4.5	4.5	-	4.5	9.1	9.1	-	9.1
九州	20	5.0	10.0	5.0	10.0	-	10.0	5.0	5.0

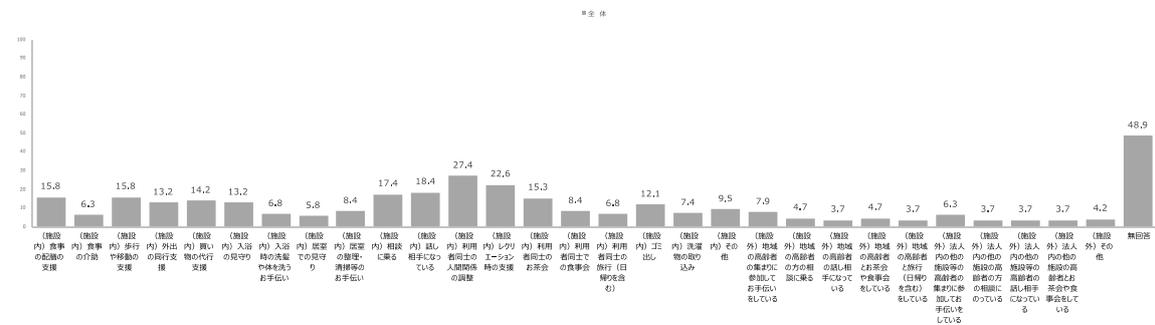
(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
1.6	11.6	16.8	25.3	22.1	9.5	4.2	4.7	4.7	3.7	8.4
-	7.4	22.2	33.3	37.0	7.4	-	-	-	-	3.7
-	3.8	7.7	19.2	11.5	3.8	-	3.8	3.8	-	11.5
2.5	12.5	15.0	15.0	22.5	10.0	5.0	7.5	5.0	-	10.0
-	8.3	-	16.7	25.0	8.3	-	8.3	-	-	-
-	13.0	17.4	39.1	21.7	4.3	4.3	4.3	8.7	4.3	13.0
-	10.5	26.3	21.1	21.1	15.8	5.3	4.5	4.5	4.5	5.3
4.5	13.6	13.6	31.6	9.1	13.6	4.5	4.5	4.5	4.5	9.1
5.0	25.0	30.0	30.0	30.0	15.0	-	5.0	15.0	25.0	10.0

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
5.8	1.1	1.6	4.2	1.6	6.3	2.1	3.2	2.1	2.6	46.8
14.8	3.7	3.7	11.1	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	7.4	37.0
-	-	-	-	-	11.5	3.8	7.7	3.8	3.8	61.5
5.0	-	2.5	10.0	2.5	5.0	2.5	-	-	2.5	50.0
-	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	58.3
4.3	-	-	-	-	8.7	-	4.3	-	-	43.5
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36.8
9.1	4.5	4.5	4.5	4.5	9.1	4.5	9.1	9.1	4.5	54.5
10.0	-	-	-	-	10.0	-	-	-	-	30.0

2-2) ③ピアサポートに対して、職員のサポートやフォローがある（あった）

ピアサポートに対して、職員のサポートやフォローがある（あった）項目については、無回答を除くと、「（施設内）利用者同士の人間関係の調整」が 27.4%で最も高く、以下「（施設内）レクリエーション時の支援」の 22.6%、「（施設内）話し相手になっている」の 18.4%、「（施設内）相談に乗る」の 17.4%が続いており、上述の職員の意図的な支援（かかわり）があった場合と似ている傾向にある。

2-2) ③ピアサポートに対して、職員のサポートやフォローがある（あった）



次に、ピアサポートに対して、職員のサポートやフォローがある（あった）項目内容を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は以下の通りである。

事業所種別、施設定員数別、施設職員数別でも、上述の全体的な傾向と大きく変わらない傾向にある。一方、エリア別では、「(施設内) 外出の同行支援」が「北海道」は7.45であるのに対し、「東海・北陸」は33.3%で、「(施設内) 買い物の代行支援」が「近畿」が4.3%であるのに対し、「九州」は25.0%で、「(施設内) 居室の整理・清掃等のお手伝い」が「九州」が20.0%であるのに対し、「近畿」が0%で、「(施設内) 洗濯物の取り込み」が「東海・北陸」が0%であるのに対し、「九州」が25.0%と差が出ている。全体の母数が小さいことが影響している可能性もあるが、エリアごとの特徴がうかがえる。

図表 2-2③ ①職員のサポートやフォローがある(あった)(事業所種別)

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り
全体	190	15.8	6.3	15.8	13.2	14.2	13.2	6.8	5.8
事業所種別									
経費老人ホームA型+B型	68	19.1	11.8	22.1	14.7	16.2	16.2	8.8	7.4
経費老人ホームA型	66	18.2	9.1	21.2	13.6	16.7	16.7	9.1	7.6
経費老人ホームB型	2	50.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-
ケアハウス	121	14.0	3.3	11.6	12.4	13.2	10.7	5.8	4.1
福祉型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定施設入居者生活介護	23	21.7	17.4	17.4	13.0	17.4	17.4	8.7	13.0

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
8.4	17.4	18.4	27.4	22.6	15.3	8.4	6.8	12.1	7.4	9.5
11.8	22.1	20.6	27.9	22.1	16.2	10.3	8.8	16.2	11.8	14.7
12.1	19.7	18.2	27.3	21.2	15.2	10.6	9.1	18.2	10.6	15.2
-	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-
5.8	14.9	16.5	26.4	22.3	14.0	6.6	5.0	9.1	4.1	6.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13.0	21.7	30.4	34.8	30.4	26.1	17.4	17.4	26.1	21.7	17.4

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
7.9	4.7	3.7	4.7	3.7	6.3	3.7	3.7	3.7	4.2	48.9
7.4	5.9	4.4	7.4	7.4	5.9	2.9	2.9	2.9	10.3	39.7
7.6	6.1	4.5	7.6	7.6	6.1	3.0	3.0	3.0	10.6	40.9
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8.3	4.1	3.3	3.3	1.7	5.8	4.1	4.1	3.3	0.8	54.5
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	17.4	4.3	4.3	8.7	4.3	39.1

図表 2-2③ ②職員のサポートやフォローがある(あった)(施設定員数別)

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り
全体	190	15.8	6.3	15.8	13.2	14.2	13.2	6.8	5.8
定員数別									
20人以下	9	22.2	-	22.2	-	11.1	-	11.1	-
21~50人	135	16.3	5.2	14.8	11.9	14.1	12.6	6.7	5.2
51~100人	43	14.0	11.6	18.6	18.6	18.6	18.6	9.3	9.3
101人以上	3	-	-	-	-	-	-	-	-

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
8.4	17.4	18.4	27.4	22.6	15.3	8.4	6.8	12.1	7.4	9.5
-	11.1	22.2	11.1	-	-	-	-	-	-	-
8.1	16.3	15.6	26.7	23.0	15.6	8.8	5.9	11.1	7.4	10.4
11.6	23.3	27.9	32.6	25.6	18.6	9.3	11.6	18.6	9.3	9.3
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
7.9	4.7	3.7	4.7	3.7	6.3	3.7	3.7	3.7	4.2	48.9
-	-	-	11.1	-	-	-	-	-	-	66.7
8.1	5.2	3.0	5.2	4.4	5.9	3.7	3.0	3.7	5.2	47.4
9.3	4.7	7.0	2.3	2.3	9.3	4.7	7.0	4.7	2.3	46.5
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

図表 2-2③ ③職員のサポートやフォローがある（あった）（施設職員数別）

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り
全体	190	15.8	6.3	15.8	13.2	14.2	13.2	6.8	5.8
施設職員数の別									
～5人	34	8.8	-	2.9	5.9	5.9	-	2.9	-
6人～10人	64	18.8	7.8	21.8	18.8	15.8	17.2	7.8	6.3
11人～15人	42	21.4	4.8	14.3	11.8	16.7	14.3	4.8	4.8
16人～20人	29	10.3	8.9	20.7	6.9	13.8	17.2	10.3	10.3
21人～	20	15.0	15.0	15.0	20.0	20.0	15.0	10.0	10.0

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
8.4	17.4	18.4	27.4	22.6	15.3	8.4	6.8	12.1	7.4	9.5
-	14.7	14.7	14.7	8.8	5.9	2.9	-	2.9	-	5.9
9.4	21.9	20.3	32.8	28.1	18.8	9.4	10.9	12.5	6.3	7.8
7.1	14.3	16.7	26.2	28.6	16.7	9.5	7.1	14.3	11.9	11.9
13.8	17.2	17.2	34.5	20.7	13.8	6.8	-	17.2	6.8	6.8
15.0	15.0	25.0	25.0	20.0	20.0	15.0	15.0	15.0	15.0	20.0

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
7.9	4.7	3.7	4.7	3.7	6.3	3.7	3.7	3.7	4.2	48.9
5.9	-	-	5.9	-	-	-	-	-	-	73.5
9.4	7.8	6.3	3.1	4.7	7.8	7.8	6.3	4.7	1.6	45.3
4.8	2.4	2.4	2.4	4.8	9.5	2.4	4.8	2.4	9.5	38.1
10.3	6.9	3.4	10.3	3.4	-	-	-	3.4	6.9	48.3
10.0	5.0	5.0	5.0	5.0	15.0	5.0	5.0	10.0	5.0	40.0

図表 2-2③ ④職員のサポートやフォローがある（あった）（エリア別）

	調査数	(施設内)食事の配膳の支援	(施設内)食事の介助	(施設内)歩行や移動の支援	(施設内)外出の同行支援	(施設内)買い物の代行支援	(施設内)入浴の見守り	(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	(施設内)居室での見守り
全体	190	15.8	6.3	15.8	13.2	14.2	13.2	6.8	5.8
エリア別									
北海道	27	7.4	3.7	18.5	7.4	14.8	11.1	7.4	3.7
東北	26	15.4	7.7	19.2	15.4	7.7	11.5	3.8	3.8
関東	40	7.5	-	7.5	15.0	10.0	12.5	5.0	5.0
東海北陸	12	8.3	8.3	16.7	33.3	41.7	25.0	16.7	16.7
近畿	23	26.1	4.3	8.7	4.3	4.3	4.3	-	-
中国	19	15.8	-	15.8	10.5	15.8	5.3	5.3	5.3
四国	22	22.7	18.2	9.1	13.6	22.7	18.2	18.2	4.5
九州	20	30.0	15.0	40.0	15.0	15.0	25.0	5.0	15.0

(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	(施設内)相談に乗る	(施設内)話し相手になっている	(施設内)利用者同士の人間関係の調整	(施設内)レクリエーション時の支援	(施設内)利用者同士のお茶会	(施設内)利用者同士での食事会	(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	(施設内)ゴミ出し	(施設内)洗濯物の取り込み	(施設内)その他
8.4	17.4	18.4	27.4	22.6	15.3	8.4	6.8	12.1	7.4	9.5
3.7	11.1	18.5	33.3	14.8	11.1	7.4	3.7	11.1	3.7	3.7
3.8	19.2	15.4	34.6	19.2	7.7	7.7	11.5	7.7	3.8	7.7
5.0	17.5	17.5	32.5	27.5	22.5	7.5	7.5	10.0	-	7.5
16.7	25.0	25.0	16.7	16.7	8.3	8.3	8.3	25.0	16.7	16.7
-	13.0	13.0	21.7	17.4	8.7	8.7	4.3	13.0	4.3	13.0
10.5	10.5	10.5	21.1	10.5	10.5	-	10.5	5.3	5.3	5.3
18.2	18.2	22.7	13.6	22.7	22.7	9.1	4.5	9.1	13.6	13.6
20.0	30.0	30.0	45.0	40.0	25.0	10.0	15.0	20.0	25.0	15.0

(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談にのっている	(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	(施設外)その他	無回答
7.9	4.7	3.7	4.7	3.7	6.3	3.7	3.7	3.7	4.2	48.9
7.4	-	-	7.4	3.7	-	-	-	-	7.4	48.1
7.7	3.8	7.7	3.8	3.8	7.7	3.8	7.7	3.8	7.7	53.8
7.5	5.0	2.5	5.0	2.5	5.0	2.5	5.0	5.0	2.5	45.0
8.3	-	-	-	-	8.3	8.3	-	-	8.3	58.3
4.3	-	-	-	4.3	8.7	-	-	-	-	47.8
5.3	5.3	-	-	-	5.3	5.3	-	-	-	63.2
9.1	13.6	13.6	9.1	4.5	9.1	9.1	9.1	9.1	4.5	54.5
10.0	10.0	5.0	10.0	10.0	10.0	5.0	5.0	10.0	10.0	30.0

2-3) 施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の参加割合

施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の参加割合については、「1割程度」が 50.5%で最も高く、「2～3割」が 35.8%で続いている。「4～5割」も 1割弱（6.8%）ある。

図表 2-3 施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者の参加割合



次に、施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の参加割合を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は以下の通りである。

事業所種別と施設職員数別では、上述の全体的な傾向と同様と言えるが、施設定員数別では、「20人以下」の施設では「1割程度」が11.1%で、「2～3割程度」が55.6%となっており、他の定員数の施設よりも参加割合が高くなっている。また、エリア別では「1割程度」の回答が、「近畿」で69.6%、「東北」で65.4%と他のエリアより高めになっている。一方、「2～3割程度」の回答が、「九州」で60.0%、「中国」で47.4%と他のエリアより高くなっており、地域による差がみられる。

図表 2-3 ①施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の参加割合（事業所種別別）

	調査数	1割程度	2割～3割程度	4割～5割程度	6割～7割程度	8割～9割程度	ほぼ全員	その他	無回答
全体	190	50.5	35.8	6.8	0.5	1.1	3.7	1.6	
事業所種別									
経費老人ホームA型+B型	68	47.1	33.8	10.3	-	-	5.9	2.9	
経費老人ホームA型	66	48.5	33.3	10.6	-	-	4.5	3.0	
経費老人ホームB型	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-	
ケアハウス	121	52.9	37.2	4.1	0.8	1.7	2.5	0.8	
都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定施設入居者生活介護	23	60.9	21.7	13.0	-	-	4.3	-	

図表 2-3 ②施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の参加割合（施設定員数別）

	調査数	1割程度	2割～3割程度	4割～5割程度	6割～7割程度	8割～9割程度	ほぼ全員	その他	無回答
全体	190	50.5	35.8	6.8	0.5	1.1	3.7	1.6	
施設定員数別									
20人以下	9	11.1	55.6	11.1	-	11.1	-	11.1	
21～50人	135	51.1	37.0	5.9	0.7	-	-	4.4	
51～100人	43	58.1	27.9	9.3	-	2.3	-	2.3	
101人以上	3	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3	

図表 2-3 ③施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の参加割合（施設職員数別）

	調査数	1割程度	2割～3割程度	4割～5割程度	6割～7割程度	8割～9割程度	ほぼ全員	その他	無回答
全体	190	50.5	35.8	6.8	0.5	1.1	3.7	1.6	
施設職員数別									
～5人	34	52.9	35.3	5.9	-	2.9	-	2.9	
6人～10人	64	46.9	43.8	6.3	-	-	-	3.1	
11人～15人	42	47.6	31.0	9.5	-	2.4	-	2.4	
16人～20人	29	58.6	37.9	3.4	-	-	-	-	
21人～	20	50.0	20.0	10.0	5.0	-	-	5.0	

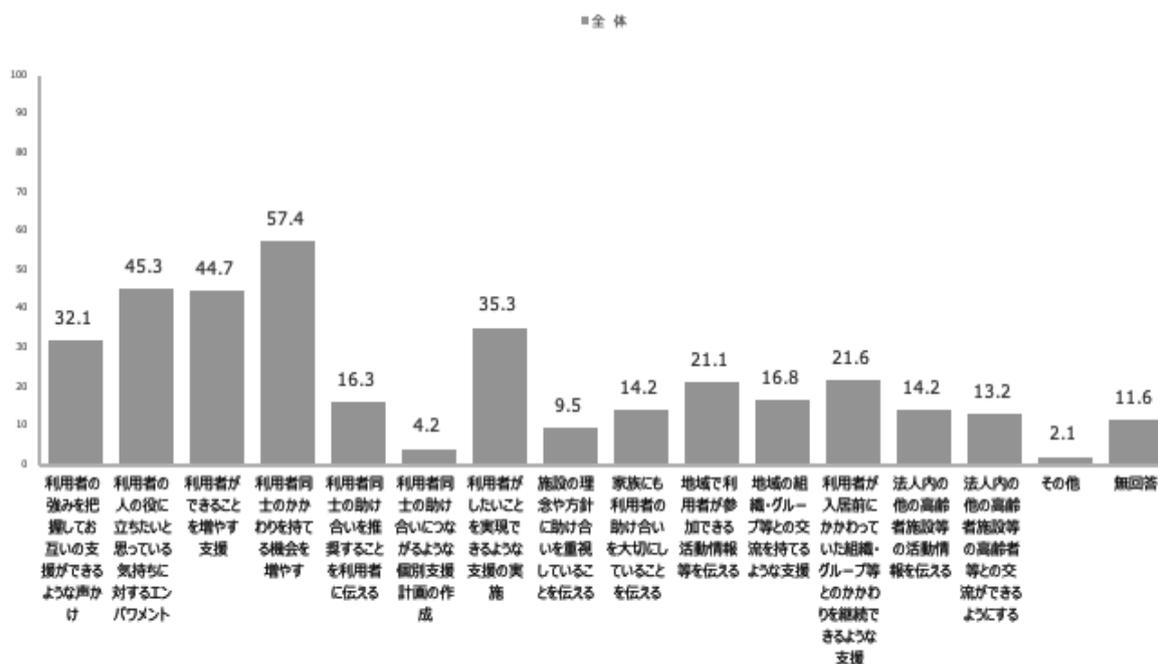
図表 2-3) ④施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の参加割合（エリア別）

	調査数	1割程度	2割～3割程度	4割～5割程度	6割～7割程度	8割～9割程度	ほぼ全員	その他	無回答
全体	190	50.5	35.8	6.8	0.5	1.1	-	3.7	1.6
北海道	27	51.9	37.0	7.4	-	-	-	3.7	-
東北	26	35.4	26.3	-	-	3.8	-	3.8	-
関東	40	50.0	35.0	7.5	-	2.5	-	2.5	2.5
東海北陸	12	50.0	25.0	8.3	-	-	-	16.7	-
近畿	23	69.6	17.4	4.3	4.3	-	-	-	4.3
中国	19	42.1	47.4	5.3	-	-	-	-	5.3
四国	22	45.5	36.4	13.6	-	-	-	4.5	-
九州	20	25.0	60.0	10.0	-	-	-	5.0	-

2-4) 施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた職員の意図的支援（複数回答可）

施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた職員の意図的支援の内容については、「利用者のかかわりを持てる機会を増やす」が 57.4%で最も高く、「利用者の人の役に立ちたいと思っている気持ちに対するエンパワメント」が 45.3%、「利用者ができることを増やす支援」が 44.7%、「利用者がしたいことを実現できるような支援の実施」が 35.3%、「利用者の強みを把握してお互いの支援ができるような声かけ」が 32.1%で続いている。様々な支援が行われている一方で、「利用者同士の助け合いにつながるような個別支援計画の作成」は 4.2%と低いことから、個別支援計画に落とし込まれた形になるまでの意図的な支援にはなっていないことがうかがえる。

図表 2-4 施設内外の高齢者の支え合いに向けた職員の意図的支援



次に、施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた職員の意図的支援を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は以下の通りである。

事業所種別、施設定員数別、施設職員数別とも、全体の傾向とほぼ同様の傾向にあることがわかる。その中で、「利用者のかかわりを持てる機会を増やす」に関しては、施設定員数や施設職員数が少ない方の割合が高くなっていることがわかる。利用者の人数が少ない中で、利用者同士のかかわりの機会を意図的に増やす努力をしていることがうかがえる。

一方、エリア別では「利用者がしたいことを実現できるような支援の実施」で「東海・北陸」では58.3%であるのに対し、「中国」では5.3%と大きく開きが出ている。そのほかにも「利用者同士の助け合いを推奨することを利用者に伝える」、「施設の理念や方針に助け合いを重視していることを伝える」、「利用者が入居前にかかわっていた組織・グループ等とのかかわりを継続できるような支援」などにおいて、エリアによる差がみられる。

図表 2-4) ①施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた職員の意図的支援（事業所種別）

	調査数	利用者の強みを把握してお互いの支えができるような声かけ	利用者の人の役に立ちたいと思っている気持ちに対するエンパワメント	利用者ができることを増やす支援	利用者同士のかかわりを持てる機会を増やす	利用者同士の助け合いを推奨することを利用者に伝える	利用者同士の助け合いにつながるような個別支援計画の作成	利用者がしたいことを実現できるような支援の実施	
全体	190	32.1	45.3	44.7	57.4	16.3	4.2	35.3	
事業所種別	経費老人ホームA型+B型	88	28.5	45.8	52.8	55.3	17.8	5.9	35.3
	経費老人ホームA型	66	27.3	47.0	53.0	56.1	18.2	6.1	38.4
	経費老人ホームB型	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-
	ケアハウス	121	35.5	44.6	39.7	57.9	14.9	3.3	34.7
	都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-
特定施設入居者生活介護	23	39.1	56.5	47.8	47.8	17.4	-	30.4	

施設の理念や方針に助け合いを重視していることを伝える	家族にも利用者の助け合いを大切にしていることを伝える	地域で利用者が参加できる活動情報等を伝える	地域の組織・グループ等との交流を持てるような支援	利用者が入居前にかかわっていた組織・グループ等とのかかわりを継続できるような支援	法人内の他の高齢者施設等の活動情報を伝える	法人内の他の高齢者施設等の高齢者等との交流ができるようにする	その他	無回答
9.5	14.2	21.1	16.8	21.6	14.2	13.2	2.1	11.6
13.2	14.7	23.5	17.6	17.6	13.2	13.2	-	11.8
13.6	15.2	24.2	18.2	18.2	13.6	13.6	-	10.6
-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
7.4	14.0	19.8	16.5	23.1	14.9	12.4	3.3	11.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-
8.7	13.0	21.7	21.7	21.7	13.0	21.7	-	21.7

図表 2-4) ②施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた職員の意図的支援（施設定員数別）

	調査数	利用者の強みを把握してお互いの支えができるような声かけ	利用者の人の役に立ちたいと思っている気持ちに対するエンパワメント	利用者ができることを増やす支援	利用者同士のかかわりを持てる機会を増やす	利用者同士の助け合いを推奨することを利用者に伝える	利用者同士の助け合いにつながるような個別支援計画の作成	利用者がしたいことを実現できるような支援の実施	
全体	190	32.1	45.3	44.7	57.4	16.3	4.2	35.3	
施設定員数の別	20人以下	9	55.6	44.4	44.4	66.7	11.1	11.1	44.4
	21～50人	135	29.6	46.7	47.4	60.0	17.0	3.0	35.6
	51～100人	43	34.9	41.9	39.5	48.8	16.3	7.0	34.9
	101人以上	3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-

施設の理念や方針に助け合いを重視していることを伝える	家族にも利用者の助け合いを大切にしていることを伝える	地域で利用者が参加できる活動情報等を伝える	地域の組織・グループ等との交流を持てるような支援	利用者が入居前にかかわっていた組織・グループ等とのかかわりを継続できるような支援	法人内の他の高齢者施設等の活動情報を伝える	法人内の他の高齢者施設等の高齢者等との交流ができるようにする	その他	無回答
9.5	14.2	21.1	16.8	21.6	14.2	13.2	2.1	11.6
11.1	11.1	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	-
6.7	13.3	20.0	15.6	23.7	14.1	13.3	1.5	10.4
18.6	18.6	25.6	20.9	16.3	16.3	14.0	2.3	16.3
-	-	33.3	-	-	-	-	-	33.3

図表 2-4) ③施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた職員の意図的支援（施設職員数別）

	調査数	利用者の強みを把握してお互いの支え合いができるような声かけ	利用者の人の役に立ちたいと思っている気持ちに対するエンパワメント	利用者ができることを増やす支援	利用者同士のかかわりを持てる機会を増やす	利用者同士の助け合いを推奨することを利用者に伝える	利用者同士の助け合いにつながるような個別支援計画の作成	利用者がしたいことを実現できるような支援の実施	
全体	190	32.1	45.3	44.7	57.4	16.3	4.2	35.3	
施設職員数別	～5人	34	35.3	38.2	29.4	61.8	17.6	2.9	38.2
	6人～10人	64	28.1	51.6	50.0	60.9	12.5	1.6	37.5
	11人～15人	42	35.7	40.5	50.0	57.1	21.4	4.8	38.1
	16人～20人	29	41.4	48.3	37.9	51.7	13.8	13.8	27.6
	21人～	20	20.0	45.0	50.0	45.0	15.0	-	30.0
	施設理念や方針に助け合いを重視していることを伝える	9.5	14.2	21.1	16.8	21.6	14.2	13.2	2.1
家族にも利用者の助け合いを大切にしていることを伝える	8.8	11.8	11.8	14.7	14.7	11.8	8.8	5.9	11.8
地域で利用者が参加できる活動情報等を伝える	4.7	12.5	20.3	18.8	26.6	18.8	18.8	3.1	7.8
地域の組織・グループ等との交流を持てるような支援	21.4	21.4	31.0	23.8	21.4	16.7	11.9	-	11.9
利用者が入居前にかかわっていた組織・グループ等とのかかわりを継続できるような支援	3.4	10.3	17.2	10.3	24.1	6.9	3.4	-	6.9
法人内の他の高齢者施設等の活動情報を伝える	10.0	15.0	20.0	10.0	15.0	10.0	20.0	-	30.0
法人内の他の高齢者施設等の高齢者等との交流ができるようになる	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図表 2-4) ④施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた職員の意図的支援（エリア別）

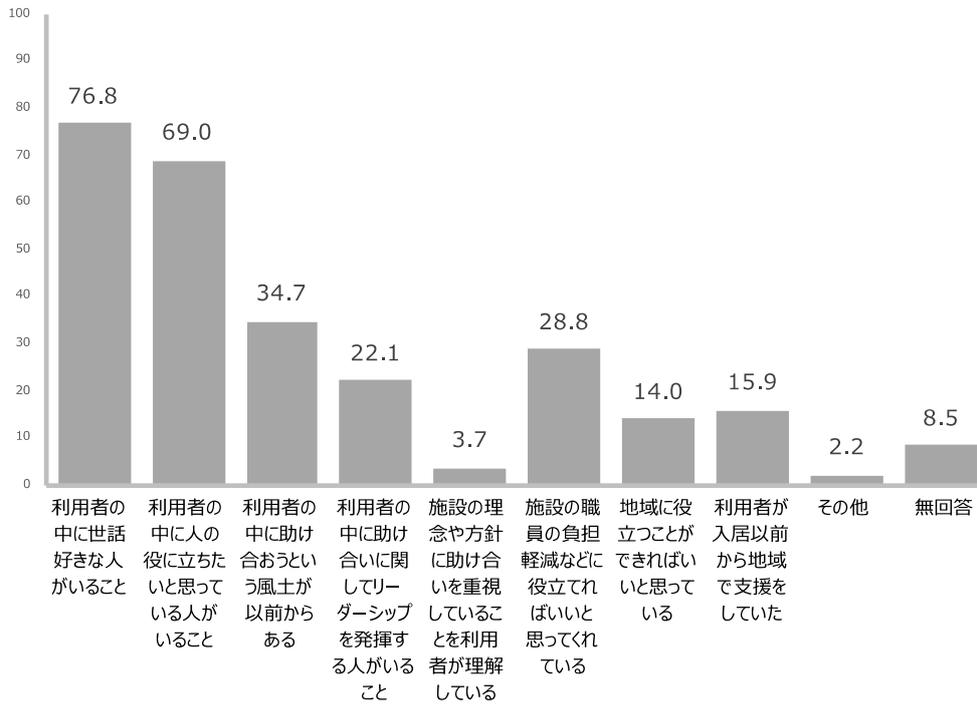
	調査数	利用者の強みを把握してお互いの支え合いができるような声かけ	利用者の人の役に立ちたいと思っている気持ちに対するエンパワメント	利用者ができることを増やす支援	利用者同士のかかわりを持てる機会を増やす	利用者同士の助け合いを推奨することを利用者に伝える	利用者同士の助け合いにつながるような個別支援計画の作成	利用者がしたいことを実現できるような支援の実施		
全体	190	32.1	45.3	44.7	57.4	16.3	4.2	35.3		
エリア別	北海道	27	37.0	59.3	40.7	55.6	11.1	7.4	33.3	
	東北	26	30.8	38.5	38.5	69.2	15.4	-	42.3	
	関東	40	32.5	45.0	50.0	55.0	12.5	2.5	42.5	
	東海北陸	12	41.7	50.0	58.3	58.3	41.7	-	58.3	
	近畿	23	30.4	43.5	34.8	43.5	13.0	-	21.7	
	中国	19	31.6	31.6	42.1	63.2	21.1	5.3	5.3	
	四国	22	18.2	40.9	40.9	63.6	9.1	4.5	31.8	
	九州	20	40.0	55.0	55.0	55.0	25.0	15.0	50.0	
	施設理念や方針に助け合いを重視していることを伝える	9.5	14.2	21.1	16.8	21.6	14.2	13.2	2.1	11.6
	家族にも利用者の助け合いを大切にしていることを伝える	3.7	18.5	22.2	25.9	29.6	7.4	11.1	-	3.7
地域で利用者が参加できる活動情報等を伝える	11.5	11.5	30.8	15.4	26.9	15.4	15.4	-	15.4	
地域の組織・グループ等との交流を持てるような支援	12.5	17.5	17.5	20.0	17.5	20.0	15.0	2.5	15.0	
利用者が入居前にかかわっていた組織・グループ等とのかかわりを継続できるような支援	33.3	16.7	33.3	25.0	25.0	8.3	33.3	-	-	
法人内の他の高齢者施設等の活動情報を伝える	-	17.4	21.7	8.7	30.4	8.7	4.3	8.7	13.0	
法人内の他の高齢者施設等との交流ができるようになる	10.5	5.3	10.5	15.8	5.3	15.8	-	-	15.8	
その他	4.5	9.1	18.2	13.6	18.2	13.6	18.2	4.5	22.7	
無回答	5.0	15.0	15.0	10.0	20.0	15.0	10.0	-	-	

2-5) 施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた支援の中で職員の意図的な支援とかわりなく自然発生的に生まれる理由・背景（複数回答可）

施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた支援の中で職員の意図的な支援とかわりなく自然発生的に生まれる理由・背景については、「利用者の中に世話好きな人がいること」が76.8%で最も高く、「利用者の中に人の役に立ちたいと思っている人がいること」が69.0%で続いており、他の項目より際立って高くなっている。その点から、自然発生的な支え合い（ピアサポート）に関しては、利用者の属人的な要素が強い傾向がうかがわれる。そのほかとしては、「利用者の中に助け合おうという風土が以前からある」が34.7%あることから、この風土は軽費・ケアハウスが長年重視してきた支援のあり方等と関連している可能性がある。

図表 2-5 職員の意図的な支援とかわりなく自然発生的に生まれる理由・背景

■全体



次に、施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた支援の中で職員の意図的な支援とかかわりなく自然発生的に生まれる理由・背景を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は以下の通りである。

事業所種別・施設定員数別・施設職員数別とも全体の傾向と同様の傾向にあると言えるが、施設定員別の中で、定員が20名以下のところでは「施設の職員の負担軽減などに役立てればよいと思ってくれている」が46.2%と約半数の回答があり、他の定員数よりも高くなっている。施設職員数別のところではあまり差がないことから、回答施設における利用者と職員との関係性等が影響している可能性がある。エリア別では全体では最も回答割合が高かった「利用者の中に世話好きな人がいること」が「中国」では60.7%で唯一平均を下回っている。また、「利用者の中に人の役に立ちたいと思っている人がいること」については、「四国」が55.6%で低めになっている。「中国」も「四国」も「その他」の回答割合が、それぞれ14.3%、11.1%と他のエリアより高くなっていることから、選択肢にあてはまらない理由・背景があることがうかがえる。

図表2-5) ①施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた支援の中で職員の意図的な支援とかかわりなく自然発生的に生まれる理由・背景（事業所種別）

	調査数	利用者の中に世話好きな人がいること	利用者の中に人の役に立ちたいと思っている人がいること	利用者の中に助け合おうという風土が以前からある	利用者の中に助け合いに関してリーダーシップを発揮する人がいること	施設の理念や方針に助け合いを重視していることを利用者が理解している	施設の職員の負担軽減などに役立てればよいと思ってくれている	地域に役立つことができたいと思っている	利用者が入居以前から地域で支援をしていた	その他	無回答	
全体	271	76.8	69.0	34.7	22.1	3.7	28.8	14.0	15.9	2.2	8.5	
事業所種別	経営者人ホームA型+B型	80	82.2	77.8	35.6	30.0	2.2	32.2	17.8	16.7	1.1	6.7
	経営者人ホームA型	89	81.4	76.7	34.9	29.1	2.3	31.4	17.4	16.3	1.2	7.0
	経営者人ホームB型	4	100.0	100.0	50.0	50.0	-	50.0	25.0	25.0	-	-
種別	ケアハウス	178	74.4	64.8	34.7	18.2	4.5	25.7	11.8	15.3	2.8	9.7
	都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	特定施設入居者生活介護	33	63.6	78.8	33.3	12.1	3.0	21.2	9.1	9.1	3.0	6.1

図表 2-5) ②施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた支援の中で職員の意図的な支援とかかわりなく自然発生的に生まれる理由・背景（施設定員数別）

	調査数	利用者の中に世話好きな人がいること	利用者の中に人の役に立ちたいと思っている人がいること	利用者の中に助け合いという風土が以前からある	利用者の中に助け合いに關してリーダーシップを発揮する人がいること	施設の理念や方針に助け合いを重視していることを利用者が理解している	施設の職員の負担軽減などに役立ててもらいたいと思ってくれている	地域に役立つことができればよいと思っている	利用者が入居前から地域で支援をしていた	その他	無回答
全体	271	78.8	69.0	34.7	22.1	3.7	28.8	14.0	15.9	2.2	8.5
定員数別											
20人以下	13	76.9	53.8	30.8	15.4	7.7	46.2	7.7	7.7	-	-
21～50人	195	77.9	69.7	36.4	22.8	6.1	29.2	13.8	18.9	2.1	8.2
51～100人	60	71.7	70.0	31.7	23.3	1.7	23.3	16.7	15.0	1.7	11.7
101人以上	3	100.0	66.7	-	-	-	-	33.3	-	-	-

図表 2-5) ③施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた支援の中で職員の意図的な支援とかかわりなく自然発生的に生まれる理由・背景（施設職員数別）

	調査数	利用者の中に世話好きな人がいること	利用者の中に人の役に立ちたいと思っている人がいること	利用者の中に助け合いという風土が以前からある	利用者の中に助け合いに關してリーダーシップを発揮する人がいること	施設の理念や方針に助け合いを重視していることを利用者が理解している	施設の職員の負担軽減などに役立ててもらいたいと思ってくれている	地域に役立つことができればよいと思っている	利用者が入居前から地域で支援をしていた	その他	無回答
全体	271	78.8	69.0	34.7	22.1	3.7	28.8	14.0	15.9	2.2	8.5
職員数別											
1～5人	51	76.3	64.7	37.3	25.3	3.9	27.8	9.8	17.6	3.9	7.8
6～10人	67	78.2	69.7	38.8	18.4	4.6	32.2	13.8	13.8	1.1	10.3
11～15人	58	79.3	74.1	34.5	31.0	5.2	31.0	19.0	19.0	-	6.9
16～20人	42	81.0	73.8	35.7	21.4	-	21.4	14.3	21.4	4.8	4.8
21人～	32	62.5	68.8	21.9	12.5	3.1	28.1	12.5	6.3	3.1	12.5

図表 2-5) ④施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）に向けた支援の中で職員の意図的な支援とかかわりなく自然発生的に生まれる理由・背景（エリア別）

	調査数	利用者の中に世話好きな人がいること	利用者の中に人の役に立ちたいと思っている人がいること	利用者の中に助け合いという風土が以前からある	利用者の中に助け合いに關してリーダーシップを発揮する人がいること	施設の理念や方針に助け合いを重視していることを利用者が理解している	施設の職員の負担軽減などに役立ててもらいたいと思ってくれている	地域に役立つことができればよいと思っている	利用者が入居前から地域で支援をしていた	その他	無回答
全体	271	78.8	69.0	34.7	22.1	3.7	28.8	14.0	15.9	2.2	8.5
エリア別											
北海道	42	81.0	78.6	29.6	23.8	4.8	21.4	19.0	23.8	2.4	7.1
東北	31	80.6	64.5	32.3	32.3	-	32.3	9.7	3.2	-	6.5
関東	55	78.2	76.4	30.9	12.7	7.3	29.1	18.2	18.2	3.6	9.1
関西圏	16	87.5	81.3	30.0	14.3	-	31.3	18.8	-	-	6.2
関東圏	31	80.6	74.2	32.3	29.8	-	35.5	9.7	19.4	-	9.7
中部	28	60.7	60.7	39.3	21.4	3.6	25.0	10.7	7.1	-	14.3
四国	36	72.2	55.6	36.1	25.0	5.6	22.2	8.3	19.4	5.6	11.1
九州	30	73.3	60.0	43.3	28.7	3.3	33.3	13.3	23.3	3.3	3.3

2-6) 施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をしている利用者による支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）行っている利用者の有無

施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をしている利用者による支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）行っている利用者の有無については、「いない」が 71.2%で最も高くなっている。一方、「いる」は 8.9%に止まっているが、役割として（対価等を得て）支え合い（ピアサポート）が行われている実態があることがわかる。

図表 2-6 施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者による支援の中で、役割として行っている利用者の有無

	n=	いる	いない	わからない	無回答
全体	(271)	8.9	71.2	13.3	6.6

次に、施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者による支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）行っている利用者の有無を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は以下の通りである。

事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別にみても、全体の傾向と同様であることがわかる。その中で、「いる」割合は、施設定員数別、施設職員数別では、人数が多いほど割合が高くなっていることがわかる。

2-6) ①施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者による支援の中で、役割として行っている利用者の有無（事業所種別）

		調査数	いる	いない	わからない	無回答
全体		271	8.9	71.2	13.3	6.6
事業所種別	軽費老人ホームA型+B型	90	11.1	65.6	15.6	7.8
	軽費老人ホームA型	86	11.6	68.6	12.8	7.0
	軽費老人ホームB型	4	-	-	75.0	25.0
	ケアハウス	176	8.0	73.9	12.5	5.7
	都市型ケアハウス	-	-	-	-	-
特定施設入居者生活介護		33	15.2	63.6	6.1	15.2

2-6) ②施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者による支援の中で、役割として行っている利用者の有無

（施設定員数別）

		調査数	いる	いない	わからない	無回答
全体		271	8.9	71.2	13.3	6.6
施設別員数	20人以下	13	7.7	76.9	7.7	7.7
	21～50人	195	7.2	72.8	12.3	7.7
	51～100人	60	13.3	65.0	18.3	3.3
	101人以上	3	33.3	66.7	-	-

2-6) ③施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者による支援の中で、役割として行っている利用者の有無

（施設職員数別）

		調査数	いる	いない	わからない	無回答
全体		271	8.9	71.2	13.3	6.6
施設別員数の職	～5人	51	3.9	68.6	21.6	5.9
	6人～10人	87	8.0	71.3	14.9	5.7
	11人～15人	58	8.6	69.0	12.1	10.3
	16人～20人	42	11.9	83.3	4.8	-
	21人～	32	15.6	65.6	6.3	12.5

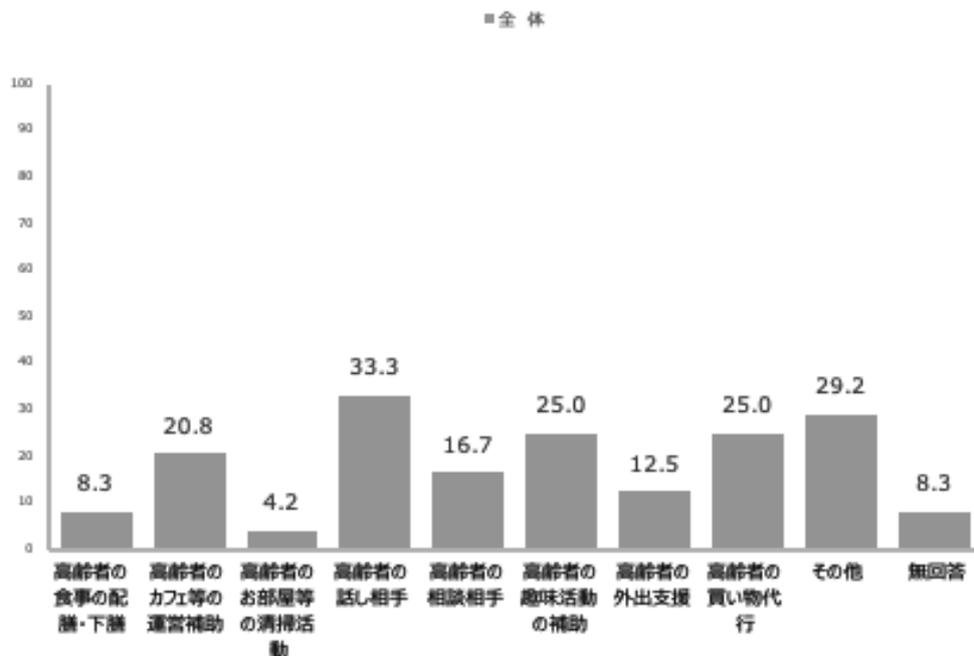
2-6) ④施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者による支援の中で、役割として行っている利用者の有無（エリア別）

		調査数	いる	いない	わからない	無回答
全体		271	8.9	71.2	13.3	6.6
エリア別	北海道	42	11.9	69.0	14.3	4.8
	東北	31	6.5	71.0	12.9	9.7
	関東	55	9.1	67.3	20.0	3.6
	東海北陸	16	6.3	75.0	18.8	-
	近畿	31	9.7	71.0	6.5	12.9
	中国	28	7.1	75.0	7.1	10.7
	四国	36	8.3	77.8	8.3	5.6
	九州	30	6.7	70.0	16.7	6.7

2-7) 施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をしている利用者による支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）行っているもの（複数回答可）

施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をしている利用者による支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）行っている利用者が「いる」と回答した施設に、その役割の内容を質問した。その結果、「高齢者の話し相手」が33.3%で最も高く、その他を除くと「高齢者の趣味活動の補助」と「高齢者の買い物代行」が25.0%で同位となっており、「高齢者のカフェ等の運営の補助」が20.8%で続いている。

図表 2-7 役割として行っているもの



次に、施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者による支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）行っていると回答した施設の利用者の役割の内容を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果

は、全体の傾向と大きく変わりなく同様の傾向にあることがわかる。

2-7) ①役割として行っているもの（事業所種別）

	調査数	高齢者の食事の配 給・下膳	高齢者のカフェ等の 運営補助	高齢者のお部屋等 の清掃活動	高齢者の話し相手	高齢者の相談相手	高齢者の趣味活動 の補助	高齢者の外出支援	高齢者の買い物代 行	その他	無回答	
全体	24	8.3	20.8	4.2	33.3	16.7	25.0	12.5	25.0	29.2	8.3	
事業 所種 別	経営者一人ホームA型+B型	10	10.0	20.0	10.0	30.0	30.0	40.0	10.0	20.0	40.0	10.0
	経営者一人ホームA型	10	10.0	20.0	10.0	30.0	30.0	40.0	10.0	20.0	40.0	10.0
	経営者一人ホームB型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ケアハウス	14	7.1	21.4	-	35.7	7.1	14.3	14.3	28.6	21.4	7.1
都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定施設入居者生活介護	5	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0	40.0	20.0	

2-7) ②役割として行っているもの（施設定員数）

	調査数	高齢者の食事の配 給・下膳	高齢者のカフェ等の 運営補助	高齢者のお部屋等 の清掃活動	高齢者の話し相手	高齢者の相談相手	高齢者の趣味活動 の補助	高齢者の外出支援	高齢者の買い物代 行	その他	無回答
全体	24	8.3	20.8	4.2	33.3	16.7	25.0	12.5	25.0	29.2	8.3
定 規 別 員 設 の 数	20人以下	1	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	21～50人	14	-	21.4	-	35.7	21.4	14.3	-	28.6	7.1
	51～100人	8	12.5	25.0	12.5	25.0	12.5	37.5	25.0	37.5	12.5
	101人以上	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-

2-7) ③役割として行っているもの（施設職員数）

	調査数	高齢者の食事の配 給・下膳	高齢者のカフェ等の 運営補助	高齢者のお部屋等 の清掃活動	高齢者の話し相手	高齢者の相談相手	高齢者の趣味活動 の補助	高齢者の外出支援	高齢者の買い物代 行	その他	無回答
全体	24	8.3	20.8	4.2	33.3	16.7	25.0	12.5	25.0	29.2	8.3
施 設 の 職 員 数	～5人	2	50.0	-	-	100.0	-	-	-	50.0	-
	6人～10人	7	-	14.3	-	28.6	28.6	14.3	14.3	42.9	14.3
	11人～15人	5	20.0	-	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	80.0	-
	16人～20人	5	-	20.0	-	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-
	21人～	5	-	20.0	-	20.0	-	40.0	-	20.0	-

2-7) ④役割として行っているもの（エリア別）

	調査数	高齢者の食事の配 給・下膳	高齢者のカフェ等の 運営補助	高齢者のお部屋等 の清掃活動	高齢者の話し相手	高齢者の相談相手	高齢者の趣味活動 の補助	高齢者の外出支援	高齢者の買い物代 行	その他	無回答
全体	24	8.3	20.8	4.2	33.3	16.7	25.0	12.5	25.0	29.2	8.3
エ リ ア 別	北海道	5	-	40.0	-	20.0	-	20.0	20.0	-	20.0
	東北	2	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	関東	5	-	-	-	-	-	40.0	-	20.0	60.0
	関東近畿	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	近畿	3	-	33.3	-	100.0	33.3	66.7	33.3	33.3	-
	中国	2	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	四国	3	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-
	九州	2	-	-	-	50.0	100.0	-	-	-	-

2-8) 施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）、行っている利用者の人数

施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をしている利用者の支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）、行っている利用者が「いる」と回答した施設に、その利用者の人数を質問した。その結果、「2～3人」が29.2%で最も高く、「1人」が25.0%で続いている。全体に、現状ではごく一部の利用者限定されていることがわかる一方、「6～7人」という回答も8.3%あることがわかる。

図表 2-8 役割として行っている利用者の人数



次に、施設内外の高齢者の支え合い（ピアサポート）をしている利用者による支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）行っていると回答した施設の利用者の人数を事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は、全体の傾向と大きく変わりなく同様の傾向にあることがわかる。その中で、「6～7人」という回答に注目すると、事業所種別では「ケアハウス」の方が「軽費」より高く、施設定員数別、施設職員数別では、人数が多い方に割合が高くなっている傾向がある。エリア別では、「6～7人」を回答しているのは「北海道」「東北」「関東」「近畿」の4エリアとなっており、地域差がある。

2-8) ①役割として行っている利用者の人数（事業所種別）

		調査数	1人	2人～3人	4人～5人	6人～7人	その他	無回答
全体		24	25.0	29.2	8.3	16.7	4.2	16.7
事業所種別	軽費老人ホームA型+B型	10	20.0	30.0	10.0	10.0	10.0	20.0
	軽費老人ホームA型	10	20.0	30.0	10.0	10.0	10.0	20.0
	軽費老人ホームB型	-	-	-	-	-	-	-
	ケアハウス	14	28.6	28.6	7.1	21.4	-	14.3
	都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-
	特定施設入居者生活介護	5	60.0	40.0	-	-	-	-

2-8) ②役割として行っている利用者の人数（施設定員数）

		調査数	1人	2人～3人	4人～5人	6人～7人	その他	無回答
全体		24	25.0	29.2	8.3	16.7	4.2	16.7
施設定員数の別	20人以下	1	-	100.0	-	-	-	-
	21～50人	14	14.3	28.6	-	28.6	-	28.6
	51～100人	8	50.0	12.5	25.0	-	12.5	-
	101人以上	1	-	100.0	-	-	-	-
		1	-	100.0	-	-	-	-

2-8) ③役割として行っている利用者の人数（施設職員数）

		調査数	1人	2人～3人	4人～5人	6人～7人	その他	無回答
全体		24	25.0	29.2	8.3	16.7	4.2	16.7
施設職員数の別	～5人	2	-	100.0	-	-	-	-
	6人～10人	7	28.6	14.3	-	14.3	-	42.9
	11人～15人	5	-	20.0	40.0	20.0	20.0	-
	16人～20人	5	20.0	40.0	-	20.0	-	20.0
	21人～	5	60.0	20.0	-	20.0	-	-
		5	60.0	20.0	-	20.0	-	-

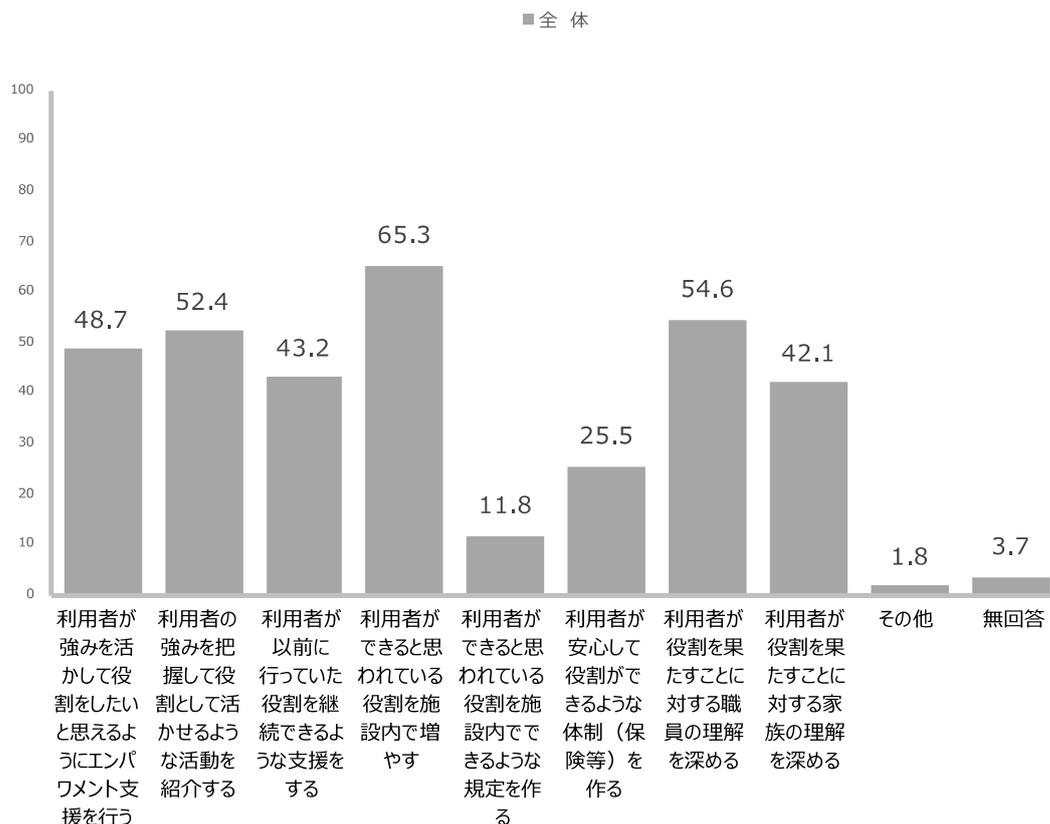
2-8) ④役割として行っている利用者の人数（エリア別）

		調査数	1人	2人～3人	4人～5人	6人～7人	その他	無回答
全体		24	25.0	29.2	8.3	16.7	4.2	16.7
エリア別	北海道	5	20.0	40.0	20.0	20.0	-	-
	東北	2	50.0	-	-	50.0	-	-
	関東	5	20.0	40.0	20.0	20.0	-	-
	東海北陸	1	100.0	-	-	-	-	-
	近畿	3	-	-	-	33.3	-	66.7
	中国	2	-	50.0	-	-	50.0	-
	四国	3	33.3	33.3	-	-	-	33.3
	九州	2	-	50.0	-	-	-	50.0
		2	-	50.0	-	-	-	50.0
		2	-	50.0	-	-	-	50.0

2-9) 施設内外で高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をする利用者が増えるための支援として有効だと思うもの。（複数回答可）

施設内外で高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をする利用者が増えるための支援として有効だと思うものについては、「利用者ができると思われている役割を施設内で増やす」が65.3%で最も高く、「利用者が役割を果たすことに対する職員の理解を深める」が54.6%、「利用者の強みを把握して役割として活かせるような活動を紹介する」が52.4%で続いている。利用者が支え合い（ピアサポート）の推進にあたって、職員の理解を深めることが高い回答割合になっていることから、利用者の支え合い（ピアサポート）はできないと考えているか、利用者の支援は職員の仕事としてとらえている職員がいることがうかがえる。利用者による支え合い（ピアサポート）によって、利用者が利益（自己効力感、生きがい等）を得ることについての実感や理解が求められると言える。

図表 2-9 施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者増加のための支援として有効なもの



次に、施設内外で高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をする利用者が増えるための支援として有効だと思うものについて、事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は、全体の傾向と大きく変わりなく同様の傾向にあることがわかる。ただ、「利用者が安心して役割ができるような体制（保険等）を作る」に関しては、エリア別でみると差があり、「関東」は40.0%の回答になっている一方で、「東海・北陸」は6.3%となっている。地域におけ

るリスクマネジメント等に関する理解や考え方の違いの影響等が考えられる。

2-9) ①施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者増加のための支援として有効なもの（事業所種別）

	調査数	利用者が強みを活かして役割をしたいと思えるようにエンパワメント支援を行う	利用者の強みを把握して役割として活かせるような活動を紹介する	利用者が以前に行っていた役割を継続できるような支援をする	利用者ができると思われている役割を施設内で増やす	利用者ができると思われている役割を施設内でできるような規定を作る	利用者が安心して役割ができるような体制(保険等)を作る	利用者が役割を果たすことに対する職員の理解を深める	利用者が役割を果たすことに対する家族の理解を深める	その他	無回答	
全体	271	48.7	52.4	43.2	65.3	11.8	25.5	54.6	42.1	1.8	3.7	
事業所種別	経営者一人ホームA型+B型	90	54.4	58.8	52.2	73.3	8.9	22.2	60.0	38.9	2.2	1.1
	経営者一人ホームA型	88	54.7	59.3	53.5	74.5	8.9	22.1	59.5	39.5	1.2	1.2
	経営者一人ホームB型	4	50.0	50.0	25.0	50.0	—	25.0	75.0	25.0	25.0	—
	ケアハウス	178	47.2	50.0	38.1	60.8	13.1	26.7	50.6	43.2	1.7	5.1
	都市型ケアハウス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特定施設入居者生活介護	31	39.4	54.5	51.5	60.6	9.1	33.3	69.7	54.5	—	3.0	

2-9) ②施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者増加のための支援として有効なもの（施設定員数別）

	調査数	利用者が強みを活かして役割をしたいと思えるようにエンパワメント支援を行う	利用者の強みを把握して役割として活かせるような活動を紹介する	利用者が以前に行っていた役割を継続できるような支援をする	利用者ができると思われている役割を施設内で増やす	利用者ができると思われている役割を施設内でできるような規定を作る	利用者が安心して役割ができるような体制(保険等)を作る	利用者が役割を果たすことに対する職員の理解を深める	利用者が役割を果たすことに対する家族の理解を深める	その他	無回答	
全体	271	48.7	52.4	43.2	65.3	11.8	25.5	54.6	42.1	1.8	3.7	
施設定員数別	20人以下	13	61.5	61.5	61.5	53.8	23.1	15.4	38.5	38.5	—	7.7
	21～50人	185	47.7	51.3	43.1	65.6	11.8	24.1	54.9	43.1	2.1	3.6
	51～100人	60	50.0	55.0	38.3	68.3	10.0	31.7	58.3	40.0	1.7	3.3
	101人以上	3	33.3	33.3	66.7	33.3	—	33.3	33.3	33.3	—	—

2-9) ③施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者増加のための支援として有効なもの（施設職員数別）

	調査数	利用者が強みを活かして役割をしたいと思えるようにエンパワメント支援を行う	利用者の強みを把握して役割として活かせるような活動を紹介する	利用者が以前に行っていた役割を継続できるような支援をする	利用者ができると思われている役割を施設内で増やす	利用者ができると思われている役割を施設内でできるような規定を作る	利用者が安心して役割ができるような体制(保険等)を作る	利用者が役割を果たすことに対する職員の理解を深める	利用者が役割を果たすことに対する家族の理解を深める	その他	無回答	
全体	271	48.7	52.4	43.2	65.3	11.8	25.5	54.6	42.1	1.8	3.7	
施設職員数別	～5人	51	56.9	45.1	35.3	51.0	9.8	9.8	31.4	23.5	3.9	9.8
	6人～10人	87	49.4	44.8	44.8	70.1	19.5	34.5	55.2	42.5	2.3	3.4
	11人～15人	58	43.1	60.3	34.5	72.4	5.2	22.4	38.6	50.0	—	—
	16人～20人	47	52.4	58.8	50.0	61.9	7.1	26.2	38.5	50.0	2.4	—
	21人～	32	40.6	56.3	56.3	65.6	12.5	31.3	59.4	48.9	—	6.3

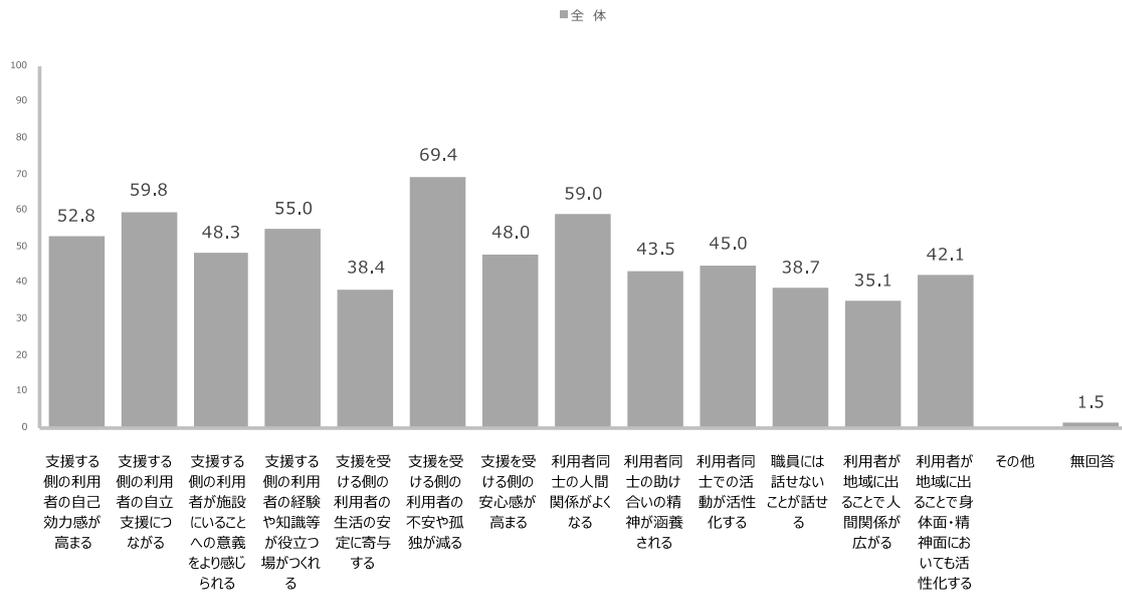
2-9) ④施設内外の高齢者の支え合いをしている利用者増加のための支援として有効なもの（エリア別）

	調査数	利用者が強みを活かして役割をしたいと思えるようにエンパワメント支援を行う	利用者の強みを把握して役割として活かせるような活動を紹介する	利用者が以前に行っていた役割を継続できるような支援をする	利用者ができると思われている役割を施設内で増やす	利用者ができると思われている役割を施設内でできるような規定を作る	利用者が安心して役割ができるような体制(保険等)を作る	利用者が役割を果たすことに対する職員の理解を深める	利用者が役割を果たすことに対する家族の理解を深める	その他	無回答	
全体	271	48.7	52.4	43.2	65.3	11.8	25.5	54.6	42.1	1.8	3.7	
エリア別	北海道	42	47.6	59.5	47.6	64.3	11.9	33.3	57.1	47.6	7.1	2.4
	東北	31	58.1	54.8	41.9	77.4	19.4	16.1	51.6	35.5	—	3.2
	関東	53	47.3	52.7	41.9	58.2	14.5	40.0	47.5	38.4	1.8	3.6
	関西圏	16	56.3	68.8	31.9	82.5	—	6.3	62.5	31.9	—	6.3
	近畿	31	48.4	48.4	54.8	71.0	12.9	25.8	54.8	35.5	3.2	3.2
	中国	28	42.9	50.0	32.1	64.3	7.1	17.9	42.9	32.1	—	—
	四国	38	50.0	41.7	44.4	58.2	11.1	22.2	50.0	44.4	—	11.1
	九州	30	43.1	50.0	40.0	70.0	6.7	16.7	38.7	66.7	—	—

3) 高齢者同士の支え合い（ピアサポート）の利用者にとっての効果（メリット）（複数回答可）

高齢者同士の支え合い（ピアサポート）の利用者にとっての効果（メリット）については、「支援を受ける側の不安や孤独が減る」が69.4%で最も高く、「支援する側の利用者の自立支援につながる」が59.8%、「利用者同士の人間関係がよくなる」が59.0%、「支援する側の利用者の経験や知識等が役立つ場がくれる」が55.0%、「支援する側の利用者の自己効力感が高まる」が52.8%と続いている。全体に支え合い（ピアサポート）が支援を受ける側の利用者で支援する側の利用者の双方に効果（メリット）があることがわかる。

図表3 ピアサポートの利用者にとっての効果



次に、高齢者同士の支え合い（ピアサポート）の利用者にとっての効果（メリット）について、事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は、全体の傾向と大きく変わらないが、事業所種別では施設内では独立した生活が可能なことから、「軽費B型」については、他の施設種別と異なり、地域に出ることでの効果（メリット）の割合が高くなっている。

施設定員数別、施設職員数別、エリア別でも全体の傾向と大きく変わらないが、エリア別の中では「支援する側の利用者が施設にいることの意義をより感じられる」について、「近畿」では71.0%であるのに対し、「東海北陸」では25.0%と低く、「支援を受ける側の安心感が高まる」については「東海北陸」が81.3%であるのに対し、「中国」が35.7%と低く、エリアによる差がみられる回答がある。

3) ①ピアサポートの利用者にとっての効果（事業所種別）

事業所種別	調査数	支援する側の利用者の自己効力感が高まる	支援する側の利用者の自立支援につながる	支援する側の利用者が施設にいることへの意義をより感じられる	支援する側の利用者の経験や知識等が役立つ場がつけられる	支援を受ける側の利用者の生活の安定に寄与する	支援を受ける側の利用者の不安や孤独が減る
全体	271	52.8	59.8	48.3	55.0	38.4	69.4
軽費老人ホームA型+B型	90	53.3	61.1	50.0	61.1	43.3	71.1
軽費老人ホームA型	86	54.7	60.5	50.0	59.3	43.0	72.1
軽費老人ホームB型	4	25.0	75.0	50.0	100.0	50.0	50.0
ケアハウス	176	53.4	59.1	47.2	52.8	36.4	69.3
都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-
特定施設入居者生活介護	33	66.7	57.6	69.7	54.5	42.4	69.7

支援を受ける側の安心感が高まる	利用者同士の人間関係がよくなる	利用者同士の助け合いの精神が涵養される	利用者同士での活動が活性化する	職員には話せないことが話せる	利用者が地域に出ることで人間関係が広がる	利用者が地域に出ることで身体面・精神面においても活性化	その他	無回答
48.0	59.0	43.5	45.0	38.7	35.1	42.1	-	1.5
55.6	56.7	46.7	50.0	43.3	44.4	44.4	-	-
55.8	58.1	47.7	50.0	43.0	43.0	43.0	-	-
50.0	25.0	25.0	50.0	50.0	75.0	75.0	-	-
44.3	59.7	42.6	42.0	36.9	31.3	41.5	-	1.7
-	-	-	-	-	-	-	-	-
48.5	66.7	36.4	51.5	54.5	33.3	51.5	-	-

3) ②ピアサポートの利用者にとっての効果（施設定員数別）

	調査数	支援する側の利用者の自己効力感が高まる	支援する側の利用者の自立支援につながる	支援する側の利用者が施設にいることへの意義をより感じられる	支援する側の利用者の経験や知識等が役立つ場がつけられる	支援を受ける側の利用者の生活の安定に寄与する	支援を受ける側の利用者の不安や孤独が減る
全体	271	52.8	59.8	48.3	55.0	38.4	69.4
定員数別							
20人以下	13	30.8	61.5	46.2	61.5	46.2	53.8
21～50人	195	52.3	60.0	48.2	53.8	39.5	71.3
51～100人	60	61.7	56.7	51.7	56.7	35.0	68.3
101人以上	3	-	100.0	-	66.7	-	33.3

支援を受ける側の安心感が高まる	利用者同士の人間関係がよくなる	利用者同士の助け合いの精神が涵養される	利用者同士での活動が活性化する	職員には話せないことが話せる	利用者が地域に出ることで人間関係が広がる	利用者が地域に出ることで身体面・精神面においても活性化	その他	無回答
48.0	59.0	43.5	45.0	38.7	35.1	42.1	-	1.5
30.8	53.8	46.2	61.5	38.5	30.8	38.5	-	-
49.2	61.0	45.1	43.6	38.5	36.4	44.6	-	1.5
50.0	53.3	40.0	46.7	40.0	31.7	33.3	-	1.7
-	66.7	-	33.3	33.3	33.3	66.7	-	-

3) ③ピアサポートの利用者にとっての効果（施設職員数別）

	調査数	支援する側の利用者の自己効力感が高まる	支援する側の利用者の自立支援につながる	支援する側の利用者が施設にいることへの意義をより感じられる	支援する側の利用者の経験や知識等が役立つ場がつけられる	支援を受ける側の利用者の生活の安定に寄与する	支援を受ける側の利用者の不安や孤独が減る
全体	271	52.8	59.8	48.3	55.0	38.4	69.4
施設職員別							
～5人	51	45.1	62.7	41.2	52.9	43.1	64.7
6人～10人	87	49.4	54.0	48.3	57.5	35.6	67.8
11人～15人	58	53.4	60.3	53.4	55.2	36.2	70.7
16人～20人	42	64.3	50.0	47.6	45.2	28.6	73.8
21人～	32	59.4	81.3	53.1	62.5	56.3	71.9

支援を受ける側の安心感が高まる	利用者同士の人間関係がよくなる	利用者同士の助け合いの精神が涵養される	利用者同士での活動が活性化する	職員には話せないことが話せる	利用者が地域に出ることで人間関係が広がる	利用者が地域に出ることで身体面・精神面においても活性化	その他	無回答
48.0	59.0	43.5	45.0	38.7	35.1	42.1	-	1.5
43.1	49.0	37.3	35.3	31.4	31.4	39.2	-	2.0
50.6	60.9	50.6	41.4	39.1	36.8	41.4	-	2.3
41.4	62.1	36.2	48.3	32.8	29.3	41.4	-	1.7
57.1	52.4	42.9	50.0	45.2	38.1	38.1	-	-
50.0	71.9	46.9	59.4	53.1	43.8	53.1	-	-

3) ④ピアサポートの利用者にとっての効果（エリア別）

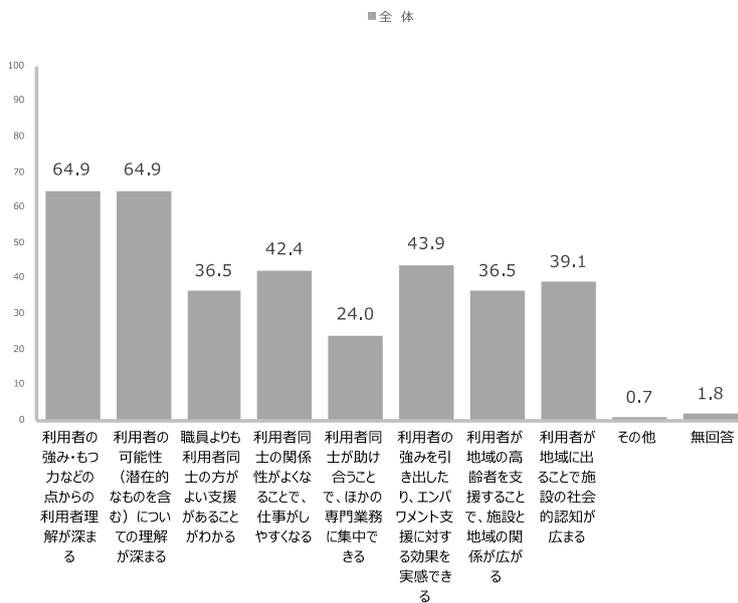
	調査数	支援する側の利用者の自己効力感が高まる	支援する側の利用者の自立支援につながる	支援する側の利用者が施設にいることへの意義をより感じられる	支援する側の利用者の経験や知識等が役立つ場がつけられる	支援を受ける側の利用者の生活の安定に寄与する	支援を受ける側の利用者の不安や孤独が減る
全体	271	52.8	59.8	48.3	55.0	38.4	69.4
エリア別							
北海道	42	57.1	47.6	47.6	69.0	35.7	81.0
東北	31	35.5	59.1	39.7	61.3	41.9	71.0
関東	55	56.4	67.3	45.5	52.7	40.0	63.6
東海北陸	16	56.3	62.5	25.0	43.8	50.0	68.8
近畿	31	64.5	71.0	71.0	67.7	51.6	58.1
中国	28	46.4	57.1	57.1	32.1	14.3	71.4
四国	36	55.6	58.3	38.9	50.0	33.3	66.7
九州	30	43.3	56.7	53.3	53.3	43.3	73.3

支援を受ける側の安心感が高まる	利用者同士の人間関係がよくなる	利用者同士の助け合いの精神が涵養される	利用者同士での活動が活性化される	職員には話せないことが話せる	利用者が地域に出ることで人間関係が広がる	利用者が地域に出ることで身体面・精神面においても活性化される	その他	無回答
48.0	59.0	43.5	45.0	38.7	35.1	42.1	-	1.5
50.0	61.9	45.2	47.6	38.1	35.7	52.4	-	-
45.2	48.4	35.5	41.9	32.3	25.8	35.5	-	3.2
40.0	52.7	45.5	45.5	34.5	41.8	43.6	-	-
81.3	68.8	56.3	50.0	56.3	31.3	31.3	-	-
61.3	67.7	54.8	54.8	38.7	41.9	48.4	-	-
35.7	57.1	25.0	28.6	42.9	17.9	28.6	-	3.6
44.4	61.1	33.3	50.0	33.3	38.9	41.7	-	2.8
43.3	63.3	56.7	40.0	46.7	36.7	43.3	-	3.3

4) 利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）が職員・施設にもたらす効果（メリット）（複数回答可）

利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）が職員・施設にもたらす効果（メリット）については、「利用者の強み・もつ力などの点からの利用者理解が深まる」と「利用者の可能性（潜在的なものを含む）についての理解が深まる」が64.9%で最も高く、「利用者の強みを引き出したり、エンパワメント支援に対する効果を実感できる」が43.9%、「利用者同同士関係性がよくなることで、仕事がしやすくなる」が42.4%で続いている。高齢者同士の支え合い（ピアサポート）は利用者だけでなく、職員にも様々な効果（メリット）があることがわかる。

図表4 ピアサポートが職員・施設にもたらす効果



次に、利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）が職員・施設にもたらす効果（メリット）について、事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は、全体の傾向と変わらないが、施設定員数別では「利用者同同士関係性がよくなることで、仕事がしやすくなる」が「51～100名」では33.3%であるのに対し、「20名以下」では69.2%となっ

ており、差が出ている。また、エリア別では「利用者同士が助け合うことで、ほかの専門的業務に集中できる」が「九州」では36.0%であるのに対し、「東海北陸」は12.5%と低くなっている。さらに、「利用者が地域の高齢者を支援することで、施設と地域の関係が広がる」が「近畿」では45.2%であるのに対し、「中国」は17.9%と低く、「利用者が地域に出ることで施設の社会的認知が広がる」も「四国」は47.2%であるのに対し、「中国」は17.9%と低くなっており、エリアによる差がある。

4) ①ピアサポートが職員・施設にもたらす効果（事業所種別）

事業所種別	調査数	利用者の強み・もつ力などの点からの利用者理解が深まる	利用者の可能性(潜在的なものを含む)についての理解が深まる	職員よりも利用者同士の方がよい支援があることがわかる	利用者同士の関係性がよくなることで、仕事がいやすくなる	利用者同士が助け合うことで、ほかの専門業務に集中できる	利用者の強みを引き出し、エンパワメント支援に対する効果を実感できる	利用者が地域の高齢者を支援することで、施設と地域の関係が広がる	利用者が地域に出ることで施設の社会的認知が広がる	その他	無回答
全体	271	64.9	64.9	36.5	42.4	24.0	43.9	36.5	39.1	0.7	1.8
事業所種別											
障害老人ホームA型+B型	90	65.6	73.3	35.6	44.4	23.3	51.1	37.8	41.1	1.1	1.1
障害老人ホームA型	88	66.3	72.1	36.0	43.0	23.3	50.0	37.2	39.5	1.2	1.2
障害老人ホームB型	4	50.0	100.0	25.0	75.0	25.0	75.0	50.0	75.0	-	-
ケアハウス	176	65.3	69.2	36.9	40.3	23.9	40.3	36.4	36.6	0.6	2.3
障害型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定施設入居者生活介護	33	64.6	81.8	45.5	45.5	24.2	51.5	30.3	39.4	-	-

4) ②ピアサポートが職員・施設にもたらす効果（施設定員数別）

施設定員数別	調査数	利用者の強み・もつ力などの点からの利用者理解が深まる	利用者の可能性(潜在的なものを含む)についての理解が深まる	職員よりも利用者同士の方がよい支援があることがわかる	利用者同士の関係性がよくなることで、仕事がいやすくなる	利用者同士が助け合うことで、ほかの専門業務に集中できる	利用者の強みを引き出し、エンパワメント支援に対する効果を実感できる	利用者が地域の高齢者を支援することで、施設と地域の関係が広がる	利用者が地域に出ることで施設の社会的認知が広がる	その他	無回答
全体	271	64.9	64.9	36.5	42.4	24.0	43.9	36.5	39.1	0.7	1.8
定員数別											
10人以下	13	76.9	48.2	30.8	89.2	23.1	53.8	38.8	53.8	-	2.3
11～50人	195	64.6	69.2	39.0	44.1	24.6	44.1	37.4	40.0	1.0	1.5
51～100人	60	63.3	58.3	30.0	33.3	21.7	43.3	33.3	35.0	-	3.3
101人以上	3	66.7	66.7	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-	-

4) ③ピアサポートが職員・施設にもたらす効果（施設職員数別）

施設職員数別	調査数	利用者の強み・もつ力などの点からの利用者理解が深まる	利用者の可能性(潜在的なものを含む)についての理解が深まる	職員よりも利用者同士の方がよい支援があることがわかる	利用者同士の関係性がよくなることで、仕事がいやすくなる	利用者同士が助け合うことで、ほかの専門業務に集中できる	利用者の強みを引き出し、エンパワメント支援に対する効果を実感できる	利用者が地域の高齢者を支援することで、施設と地域の関係が広がる	利用者が地域に出ることで施設の社会的認知が広がる	その他	無回答
全体	271	64.9	64.9	36.5	42.4	24.0	43.9	36.5	39.1	0.7	1.8
職員数別											
1～5人	51	64.7	47.1	27.5	41.2	17.6	37.3	27.5	33.3	2.0	2.3
6～10人	87	65.1	62.1	39.1	49.3	29.9	40.2	41.4	48.3	1.1	2.3
11～15人	98	65.1	70.7	34.6	34.6	20.7	46.9	46.9	23.6	-	3.4
16～20人	42	59.5	76.2	45.2	40.3	21.4	47.6	33.3	49.5	-	-
21人～	32	81.3	78.1	34.4	46.9	28.1	50.0	40.6	40.6	-	-

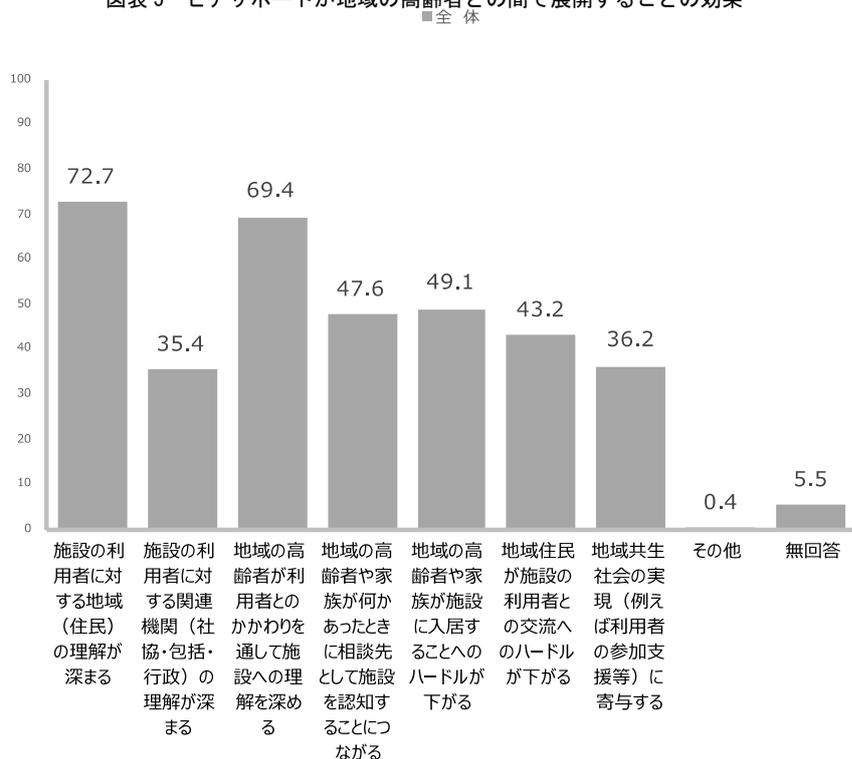
4) ④ピアサポートが職員・施設にもたらす効果（エリア別）

エリア別	調査数	利用者の強み・もつ力などの点からの利用者理解が深まる	利用者の可能性(潜在的なものを含む)についての理解が深まる	職員よりも利用者同士の方がよい支援があることがわかる	利用者同士の関係性がよくなることで、仕事がいやすくなる	利用者同士が助け合うことで、ほかの専門業務に集中できる	利用者の強みを引き出し、エンパワメント支援に対する効果を実感できる	利用者が地域の高齢者を支援することで、施設と地域の関係が広がる	利用者が地域に出ることで施設の社会的認知が広がる	その他	無回答
全体	271	64.9	64.9	36.5	42.4	24.0	43.9	36.5	39.1	0.7	1.8
エリア別											
北海道	42	62.4	71.4	40.5	31.0	24.0	35.7	45.2	24.4	-	3.2
東北	31	67.1	61.3	32.3	41.8	22.6	54.8	29.8	35.3	-	-
関東	55	72.7	60.0	25.5	43.6	23.6	43.6	38.2	49.0	-	1.8
東海北陸	16	93.8	62.5	31.3	37.5	12.5	50.0	43.8	31.3	-	-
近畿	31	71.0	74.2	54.8	45.2	22.6	48.4	45.2	45.2	3.2	-
中国	29	53.8	67.9	39.3	36.7	21.4	42.8	17.9	17.9	-	7.1
四国	39	62.6	63.9	30.6	50.0	27.8	44.4	38.9	47.2	-	2.9
九州	30	66.7	60.0	46.7	53.3	36.7	36.7	36.7	43.3	-	-

5) 利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）が地域の高齢者との間で展開することの効果（メリット）（複数回答可）

利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）が地域の高齢者との間で展開することの効果（メリット）については、「施設の利用者に対する地域（住民）の理解が深まる」が72.7%で最も高く、「地域の高齢者が利用者とのかかわりを通して施設への理解を深める」が69.4%で続いている。全体に施設の利用者や施設に対する理解が深まる効果（メリット）が回答されている。

図表5 ピアサポートが地域の高齢者との間で展開することの効果



次に、利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）が地域の高齢者との間で展開することの効果（メリット）について、事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は、全体の傾向と変わらないと言える。ただ、施設定員数別では、母数の差があるので、単純な比較はできないが、「101人以上」の施設の場合は、「施設の利用者に対する地域（住民）の理解が深まる」は33.3%と低い一方で、「施設の利用者に対する関連機関（社協・包括・行政）の理解が深まる」が66.7%と高くなっている。施設職員数別では、「地域の高齢者や家族が何かあったときに相談先として施設を認知することにつながる」が「21人以上」の施設では65.6%であるのに対し、「～5人」の施設では31.4%と低くなっている。エリア別では「施設の利用者に対する関連機関（社協・包括・行政）の理解が深まる」が58.1%であるのに対し、「北海道」では19.0%と低くなっている。エリアでの関連機関（社協・包括・行政）との関係が影響している可能性がある。

5) ①ピアサポートが地域の高齢者との間で展開することの効果（事業所種別）

	調査数	施設の利用者に対する地域の理解が深まる	施設の利用者に対する関連機関(社協・包括・行政)の理解が深まる	地域の高齢者や家族が何かあったときに相談先として施設を認知することにつながる	地域の高齢者や家族が施設に入居することへのハードルが下がる	地域の高齢者や家族が施設の利用者との交流へのハードルが下がる	地域共生社会の実現(例えば利用者への参加支援等)に寄与する	その他	無回答	
全体	271	72.7	35.4	69.4	47.6	49.1	36.2	0.4	5.5	
事業所種別	軽費老人ホームA型+B型	90	71.1	42.2	72.2	50.0	50.0	43.3	45.6	1.1
	軽費老人ホームA型	86	70.9	41.9	70.9	50.0	51.2	43.0	46.5	1.2
	軽費老人ホームB型	4	75.0	50.0	100.0	50.0	25.0	50.0	25.0	-
	ケアハウス	176	72.7	31.8	68.2	46.0	47.7	42.0	31.8	6.8
種別	都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	特定施設入居者生活介護	33	84.8	36.4	84.8	63.6	51.5	51.5	39.4	-

5) ②ピアサポートが地域の高齢者との間で展開することの効果（施設定員数別）

	調査数	施設の利用者に対する地域(住民)の理解が深まる	施設の利用者に対する関連機関(社協・包括・行政)の理解が深まる	地域の高齢者が利用者とのかわりを通して施設への理解を深める	地域の高齢者や家族が何かあったときに相談先として施設を認知することにつながる	地域の高齢者や家族が施設に入居することへのハードルが下がる	地域住民が施設の利用者との交流へのハードルが下がる	地域共生社会の実現(例えば利用者の参加支援等)に寄与する	その他	無回答
全体	271	72.7	35.4	69.4	47.6	49.1	43.2	36.2	0.4	5.5
定員数別										
20人以下	13	76.9	30.8	61.5	46.2	61.5	23.1	23.1	-	7.7
21~50人	195	74.9	35.9	73.3	45.6	49.7	47.2	37.9	0.5	4.1
51~100人	80	88.7	33.3	80.0	35.0	45.0	35.0	35.0	-	10.0
101人以上	3	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-

5) ③ピアサポートが地域の高齢者との間で展開することの効果（施設職員数別）

	調査数	施設の利用者に対する地域(住民)の理解が深まる	施設の利用者に対する関連機関(社協・包括・行政)の理解が深まる	地域の高齢者が利用者とのかわりを通して施設への理解を深める	地域の高齢者や家族が何かあったときに相談先として施設を認知することにつながる	地域の高齢者や家族が施設に入居することへのハードルが下がる	地域住民が施設の利用者との交流へのハードルが下がる	地域共生社会の実現(例えば利用者の参加支援等)に寄与する	その他	無回答
全体	271	72.7	35.4	69.4	47.6	49.1	43.2	36.2	0.4	5.5
施設別										
~5人	51	76.5	29.4	54.9	31.4	41.2	41.2	23.5	-	5.9
6人~10人	87	71.3	35.6	66.7	48.3	55.2	43.7	34.5	1.1	6.9
11人~15人	58	70.7	34.5	72.4	51.7	46.6	39.7	36.2	-	6.9
16人~20人	42	69.0	35.7	76.2	47.6	45.2	35.7	47.6	-	4.8
21人~	32	78.1	46.8	84.4	65.6	56.3	59.4	46.8	-	-

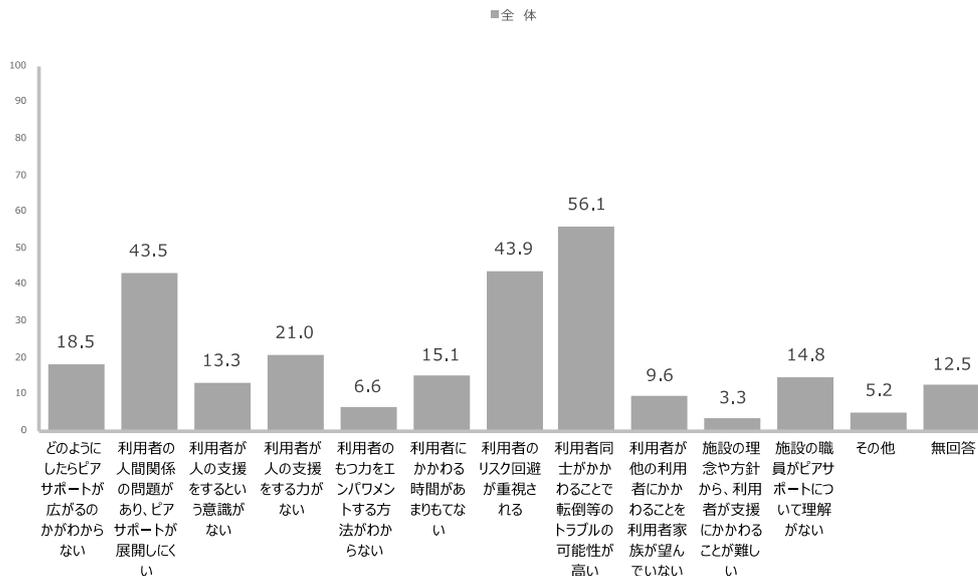
5) ④ピアサポートが地域の高齢者との間で展開することの効果（エリア別）

	調査数	施設の利用者に対する地域(住民)の理解が深まる	施設の利用者に対する関連機関(社協・包括・行政)の理解が深まる	地域の高齢者が利用者とのかわりを通して施設への理解を深める	地域の高齢者や家族が何かあったときに相談先として施設を認知することにつながる	地域の高齢者や家族が施設に入居することへのハードルが下がる	地域住民が施設の利用者との交流へのハードルが下がる	地域共生社会の実現(例えば利用者の参加支援等)に寄与する	その他	無回答
全体	271	72.7	35.4	69.4	47.6	49.1	43.2	36.2	0.4	5.5
エリア別										
北海道	42	73.8	19.0	76.2	57.1	47.6	42.9	38.1	2.4	4.8
東北	31	80.6	35.5	71.0	38.7	35.5	51.6	41.8	-	8.7
関東	55	55.5	39.2	61.8	45.5	52.7	35.4	40.0	-	5.5
東海北陸	16	81.3	43.8	62.5	50.0	62.5	37.5	37.5	-	6.3
近畿	31	77.4	58.1	67.7	61.3	58.1	64.5	41.9	-	-
中国	28	67.9	25.0	82.1	32.1	32.1	32.1	21.4	-	7.1
四国	38	61.1	27.8	66.7	47.2	47.2	41.7	27.8	-	8.3
九州	30	83.3	43.3	70.0	46.7	56.7	36.7	36.7	-	3.3

6) 利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）を実施ないしは広めるための課題として該当するもの（複数回答可）

利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）を実施ないしは広めるための課題としては、「利用者同士がかかわることで転倒等のトラブルの可能性が高い」が56.1%で最も高く、「利用者のリスク回避が重視される」が43.9%、「利用者の人間関係の問題があり、ピアサポートが展開しにくい」が43.5%と続いている。全体にリスク回避の傾向が課題になっていることがうかがえる。

図表6 ピアサポートを実施・広めるための課題



次に、利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）を実施ないし広めるための課題について、事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は、全体の傾向と変わらないと言える。ただ、エリア別では「利用者同士がかかわることで転倒等のトラブルの可能性が高い」が「近畿」では64.5%と高くなっているが、「東海北陸」は31.3%に止まっている。また、「利用者のリスク回避が重視される」も「近畿」では58.1%と高くなっているが、「九州」では20.0%と低くなっており、地域差が見られる。

6) ①ピアサポートを実施・広めるための課題（事業所種別）

	調査数	どのようにしたらピアサポートが広がるのかわからない	利用者の人間関係の問題があり、ピアサポートが展開しにくい	利用者が人の支援をするという意識がない	利用者が人の支援をする力がない	利用者のもつ力をエンパワメントする方法がわからない	
全体	271	18.5	43.5	13.3	21.0	6.6	
事業所種別	軽費老人ホームA型+B型	90	16.7	42.2	14.4	21.1	7.8
	軽費老人ホームA型	86	16.3	43.0	14.0	20.9	8.1
	軽費老人ホームB型	4	25.0	25.0	25.0	25.0	-
	ケアハウス	176	17.6	45.5	13.1	21.0	6.3
	都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-
	特定施設入居者生活介護	33	21.2	24.2	9.1	27.3	9.1

利用者がかかわる時間があまりもない	利用者のリスク回避が重視される	利用者同士がかかわることで転倒等のトラブルの可能性が高い	利用者が他の利用者にかかわることを利用者家族が望んでいない	施設の理念や方針から、利用者が支援にかかわることが難しい	施設の職員がピアサポートについて理解がない	その他	無回答
15.1	43.9	56.1	9.6	3.3	14.8	5.2	12.5
15.6	44.4	46.7	5.6	4.4	16.7	5.6	13.3
15.1	45.3	47.7	5.8	3.5	17.4	5.8	14.0
25.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-
14.8	44.3	61.4	11.4	2.8	13.6	5.1	11.9
-	-	-	-	-	-	-	-
21.2	60.6	66.7	24.2	-	15.2	3.0	12.1

6) ②ピアサポートを実施・広めるための課題（施設定員数別）

	調査数	どのようにしたらピアサポートが広がるのかわからない	利用者の人間関係の問題があり、ピアサポートが展開しにくい	利用者が人の支援をするという意識がない	利用者が人の支援をする力がない	利用者のもつ力をエンパワメントする方法がわからない	
全体	271	18.5	43.5	13.3	21.0	6.6	
定施設別員数の	20人以下	13	15.4	38.5	15.4	15.4	7.7
	21～50人	195	19.5	44.1	15.9	22.6	6.7
	51～100人	60	16.7	41.7	5.0	16.7	6.7
	101人以上	3	-	66.7	-	33.3	-

利用者がかかわる時間があまりもない	利用者のリスク回避が重視される	利用者同士がかかわることで転倒等のトラブルの可能性が高い	利用者が他の利用者にかかわることを利用者家族が望んでいない	施設の理念や方針から、利用者が支援にかかわることが難しい	施設の職員がピアサポートについて理解がない	その他	無回答
15.1	43.9	56.1	9.6	3.3	14.8	5.2	12.5
7.7	30.8	53.8	-	-	23.1	15.4	-
15.4	47.7	57.9	10.3	3.6	14.9	3.1	12.8
16.7	36.7	51.7	10.0	1.7	13.3	8.3	15.0
-	-	33.3	-	33.3	-	33.3	-

6) ③ピアサポートを実施・広めるための課題（施設職員数別）

	調査数	どのようにしたらピアサポートが広がるのかがわからない	利用者の人間関係の問題があり、ピアサポートが展開しにくい	利用者が人の支援をするという意識がない	利用者が人の支援をする力がない	利用者のもつ力をエンパワメントする方法がわからない	
全体	271	18.5	43.5	13.3	21.0	6.6	
施設別の職員数	～5人	51	15.7	43.1	11.8	21.6	-
	6人～10人	87	20.7	51.7	17.2	18.4	10.3
	11人～15人	58	19.0	37.9	13.8	17.2	10.3
	16人～20人	42	14.3	42.9	9.5	28.6	7.1
	21人～	32	18.8	34.4	9.4	25.0	-

利用者がかかわる時間があまりもない	利用者のリスク回避が重視される	利用者同士がかかわることで転倒等のトラブルの可能性が高い	利用者が他の利用者にかかわることを利用者家族が望んでいない	施設の理念や方針から、利用者が支援にかかわることが難しい	施設の職員がピアサポートについて理解がない	その他	無回答
15.1	43.9	56.1	9.6	3.3	14.8	5.2	12.5
21.6	37.3	51.0	7.8	5.9	9.8	-	11.8
10.3	43.7	55.2	10.3	4.6	16.1	9.2	11.5
13.8	44.8	63.8	8.6	-	15.5	-	10.3
11.9	52.4	50.0	7.1	2.4	14.3	11.9	11.9
25.0	43.8	62.5	15.6	3.1	18.8	3.1	21.9

6) ④ピアサポートを実施するための課題（エリア別）

	調査数	どのようにしたらピアサポートが広がるのかがわからない	利用者の人間関係の問題があり、ピアサポートが展開しにくい	利用者が人の支援をするという意識がない	利用者が人の支援をする力がない	利用者のもつ力をエンパワメントする方法がわからない	
全体	271	18.5	43.5	13.3	21.0	6.6	
エリア別	北海道	42	14.3	40.5	23.8	19.0	7.1
	東北	31	9.7	54.8	12.9	32.3	3.2
	関東	55	23.6	34.5	10.9	12.7	9.1
	東海北陸	16	12.5	56.3	12.5	25.0	-
	近畿	31	22.6	58.1	9.7	16.1	9.7
	中国	28	21.4	42.9	3.6	10.7	14.3
	四国	36	19.4	41.7	16.7	33.3	5.6
	九州	30	20.0	33.3	10.0	26.7	-

利用者がかかわる時間があまりもない	利用者のリスク回避が重視される	利用者同士がかかわることで転倒等のトラブルの可能性が高い	利用者が他の利用者にかかわることを利用者家族が望んでいない	施設の理念や方針から、利用者が支援にかかわることが難しい	施設の職員がピアサポートについて理解がない	その他	無回答
15.1	43.9	56.1	9.6	3.3	14.8	5.2	12.5
7.1	42.9	59.5	9.5	2.4	16.7	4.8	11.9
16.1	58.1	61.3	16.1	-	22.6	-	6.5
14.5	40.0	49.1	10.9	5.5	9.1	7.3	18.2
18.8	43.8	31.3	-	-	18.8	-	25.0
16.1	58.1	64.5	12.9	3.2	12.9	12.9	6.5
14.3	39.3	60.7	-	-	3.6	3.6	10.7
22.2	50.0	61.1	11.1	2.8	13.9	-	13.9
13.3	20.0	50.0	10.0	6.7	23.3	10.0	10.0

7) 利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）で今後もできたり、広めたりするとよいと思う事例（過去の事例も含む）（自由回答記述）

利用者がかかわる高齢者同士の支え合い（ピアサポート）で今後もできたり、広めたりするとよいと思う事例（過去の事例も含む）については多くの回答事例があった。実際の回答は、資料編に掲載している。今後、導入する施設や新たに展開をする施設に参考になると言える。

また、この7)と9)の自由回答記述に関しては、全軽協の調査研究委員会において、一定のとりまとめをしてもらった。その内容については、9)のところで紹介をする。

8-1) 高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の有無

高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の有無については、全体では「ある」が48.0%、「ない」が48.3%、でほぼ半数ずつの同数となっている。

高齢者同士の支援（ピアサポート）以外にも、利用者が支援をしている事例の存在が一定以上あることがわかる。

図表 8-1 高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の有無



次に、高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の有無について、事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は、全体の傾向と大きくは変わらないと言える。ただ、その中でも施設定員数別では「20人以下」の場合、「ある」が30.8%と低めになっているほか、施設職員数別でも「～5人」の場合、「ある」が35.3%と低めになっていることがわかる。また、エリア別でも「九州」が「ある」と回答した割合が33.3%と低めになっており、定員数や職員数、エリアによる違いが若干うかがえる。

8-1) ①高齢者に対するピアサポート以外に視線する側になったことがある事例の有無（事業所種別）

		調査数	ある	ない	無回答
全体		271	48.0	48.3	3.7
事業所種別	軽費老人ホームA型+B型	90	58.9	33.3	7.8
	軽費老人ホームA型	86	59.3	32.6	8.1
	軽費老人ホームB型	4	50.0	50.0	-
	ケアハウス	176	43.8	54.5	1.7
	都市型ケアハウス	-	-	-	-
	特定施設入居者生活介護	33	42.4	54.5	3.0

8-1) ②高齢者に対するピアサポート以外に視線する側になったことがある事例の有無（施設定員数別）

		調査数	ある	ない	無回答
全体		271	48.0	48.3	3.7
施設定員数の	20人以下	13	30.8	69.2	-
	21～50人	195	45.6	49.7	4.6
	51～100人	60	58.3	40.0	1.7
	101人以上	3	66.7	33.3	-

8-1) ③高齢者に対するピアサポート以外に視線する側になったことがある事例の有無（施設職員数別）

		調査数	ある	ない	無回答
全 体		271	48.0	48.3	3.7
施 設 の 職 員 数 の 別	～5人	51	35.3	62.7	2.0
	6人～10人	87	55.2	41.4	3.4
	11人～15人	58	51.7	43.1	5.2
	16人～20人	42	45.2	50.0	4.8
	21人～	32	46.9	50.0	3.1

8-1) ④高齢者に対するピアサポート以外に視線する側になったことがある事例の有無（エリア別）

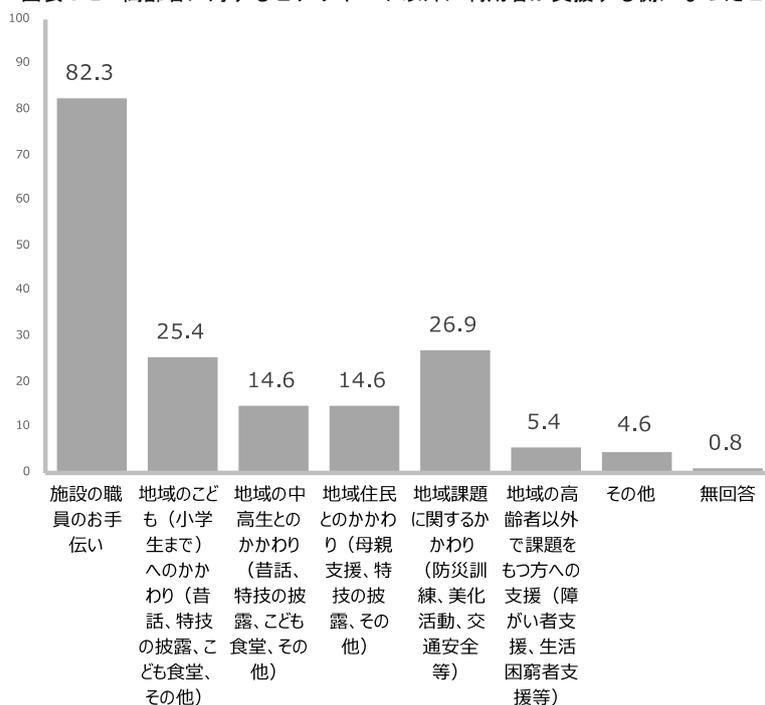
		調査数	ある	ない	無回答
全 体		271	48.0	48.3	3.7
エ リ ア 別	北海道	42	57.1	40.5	2.4
	東北	31	54.8	35.5	9.7
	関東	55	52.7	47.3	-
	東海北陸	16	50.0	50.0	-
	近畿	31	48.4	41.9	9.7
	中国	28	39.3	60.7	-
	四国	36	38.9	61.1	-
	九州	30	33.3	56.7	10.0

8-2) 高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の対象

高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の対象については、「施設職員のお手伝い」が82.3%で圧倒的に高いことがわかる。次いで「地域課題に関するかかわり（防災訓練、美化活動、交通安全等）」が26.9%、「地域のこども（小学生まで）へのかかわり（昔話、特技の披露、子ども食堂、その他）」が25.4%で続いている。

■全体

図表 8-2 高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の対象



次に、高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の対象について、事業所種別・施設定員数別・施設職員数別・エリア別に見た結果は、全体の傾向と大きくは変わらないと言える。その中で、「施設職員のお手伝い」に関しては、施設定員数別では、定員数が少ない方に実施割合が高くなっている傾向がある。また、エリア別では「施設職員のお手伝い」に関して、「北海道」では95.8%であるのに対し、「九州」は70.0%と差がある。

8-2) ①高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の対象(事業所種別)

	調査数	施設職員の介助	地域のこども(小学生まで)へのサポート(昔話、特技の披露、こども食堂、その他)	地域の高中生とのサポート(昔話、特技の披露、こども食堂、その他)	地域住民とのサポート(母親支援、特技の披露、その他)	地域課題に関するサポート(防災訓練、美化活動、交通安全等)	地域の高齢者以外へのサポート(障がい者支援、生活困窮者支援等)	その他	無回答
全体	130	82.3	25.4	14.6	14.6	26.9	5.4	4.6	0.8
事業所種別									
経費老人ホームA型+B型	53	81.1	30.2	15.1	20.8	22.6	7.5	7.5	-
経費老人ホームA型	51	80.4	31.4	15.7	21.6	23.5	5.9	7.8	-
経費老人ホームB型	2	100.0	-	-	-	-	50.0	-	-
ケアハウス	77	83.1	22.1	14.3	10.4	29.9	3.9	2.6	1.3
都市型ケアハウス	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定施設入居者生活介護	14	71.4	21.4	-	28.6	14.3	14.3	-	7.1

8-2) ②高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の対象(施設定員数別)

	調査数	施設職員の介助	地域のこども(小学生まで)へのサポート(昔話、特技の披露、こども食堂、その他)	地域の高中生とのサポート(昔話、特技の披露、こども食堂、その他)	地域住民とのサポート(母親支援、特技の披露、その他)	地域課題に関するサポート(防災訓練、美化活動、交通安全等)	地域の高齢者以外へのサポート(障がい者支援、生活困窮者支援等)	その他	無回答
全体	130	82.3	25.4	14.6	14.6	26.9	5.4	4.6	0.8
定員数別									
20人以下	4	100.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-
21~50人	89	84.3	23.6	12.4	16.9	25.8	5.6	3.4	-
51~100人	35	77.1	31.4	22.9	8.6	34.3	5.7	5.7	2.9
101人以上	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-

8-2) ③高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の対象(施設職員数別)

	調査数	施設の職員のお手伝い	地域のこども(小学生まで)へのかかわり(電話、特技の披露、こども食堂、その他)	地域の中高生とのかかわり(電話、特技の披露、こども食堂、その他)	地域住民とのかかわり(母親支援、特技の披露、その他)	地域課題に関するかかわり(防災訓練、美化活動、交通安全等)	地域の高齢者以外で課題をもつ方への支援(障がい者支援、生活困窮者支援等)	その他	無回答
全体	130	82.3	25.4	14.6	14.6	26.9	5.4	4.6	0.8
施設別									
～5人	18	83.3	16.7	5.6	5.6	22.2	5.6	5.6	--
6人～10人	48	81.3	25.0	20.8	14.6	37.5	4.2	2.1	--
11人～15人	30	90.0	30.0	13.3	16.7	20.0	10.0	6.7	--
16人～20人	19	73.7	36.8	21.1	26.3	38.8	5.3	5.3	--
21人～	15	80.0	13.3	--	6.7	--	--	6.7	6.7

8-2) ④高齢者に対するピアサポート以外に利用者が支援する側になったことがある事例の対象（エリア別）

	調査数	施設の職員のお手伝い	地域のこども(小学生まで)へのかかわり(電話、特技の披露、こども食堂、その他)	地域の中高生とのかかわり(電話、特技の披露、こども食堂、その他)	地域住民とのかかわり(母親支援、特技の披露、その他)	地域課題に関するかかわり(防災訓練、美化活動、交通安全等)	地域の高齢者以外で課題をもつ方への支援(障がい者支援、生活困窮者支援等)	その他	無回答
全体	130	82.3	25.4	14.6	14.6	26.9	5.4	4.6	0.8
エリア別									
北海道	24	95.8	33.3	25.0	16.7	29.2	8.3	4.2	--
東北	17	88.2	23.5	5.9	11.8	23.5	5.9	11.8	--
関東	29	65.5	34.5	20.7	17.2	41.4	6.9	6.9	--
東海北陸	8	87.5	12.5	--	--	--	--	12.5	--
近畿	15	86.7	26.7	26.7	26.7	6.7	--	--	6.7
中国	11	90.9	18.2	--	9.1	27.3	9.1	--	--
四国	14	78.6	7.1	--	7.1	42.9	--	--	--
九州	10	70.0	30.0	20.0	20.0	20.0	10.0	--	--

9) 本調査に関する感想・期待・質問等（自由回答記述）

本調査に関する感想・期待・質問等については、多くの回答があった。実際の回答内容は、資料編に掲載している。ピアサポートに関する現場の率直な感想や意見等が多々あるので、今後の導入や展開にあたって参考になると言える。

また、この9)と7)の自由回答記述に関しては、全軽協の調査研究委員会において、以下のようなとりまとめをしてもらった。

（とりまとめの概要）

アンケート調査に寄せていただいた全軽協社員からの自由記述は、かなりの分量となっている。記述内容には、ピアサポートを中心のテーマとしながら様々、かつ貴重な情報が数多く、また様々な形で示されている。調査研究委員会では、アンケート調査結果に示されている実践例や意見・感想などから、今後の施設運営・利用者支援に活用できる手掛かりを見出そうと考えた。結果、以下の4項目（①自由回答記述の傾向、②自由回答記述からの気づき、③発見、感想、④自由回答記述の問題点・課題、⑤調査全体を通しての感想、今後の課題や期待）に分類・整理した。

① 自由回答記述の傾向

ピアサポート具体例については、様々な着眼点があったが、記述の傾向を把握するために、委員のメンバーによりピアサポート記述項目を類別化するための分類基準を検討してみた。その結果、ピアサポートの「行為の種類」（余暇、食事等日常等）、行為や実践の「場」（施設内、利用者間、地域等）、行為に対する「評価」（リスク、メリットデメリット、価値実現等）、行為を「関係」（弱者補助、相互補完、業務補助等）などの着目点（傾向把握の観点）があげられた。委員から提示された具体的な内容は以下の通りである。

（記述の傾向）

・入居者がそれぞれ抱える生活課題をお互いが解決しあう、活動が行われている事例や職員が介入するのではなく、入居者自らがすすんで弱い方を支える事例が多い傾向にある。また、援助する側にとっては、やりがいや生きがい、生活意欲の向上につながっている記述が多く見受けられる。事例の分類としては、・話し相手・見守り、サークル活動・余暇活動・茶話会、地域活動・地域貢献・奉仕活動・ボランティアなどがあげられる（阿部委員）

（その他の事例の分類例・内容区分）

・認知症の方への見守り、支援サポート、ADL低下気味の方への外出、付き添い・買い物などのサポート、お話、交流などによる精神的なサポート、趣味活動やクラブ活動としての自主的活動による楽しみ作り活動の4分類」(友高委員)

・日常生活の中でのピアサポート、趣味、余暇活動の中でのピアサポート、地域交流の中のピアサポート」(石神委員)

・入居者同士の精神的支柱、労働報酬、地域での奉仕活動(ボランティア)、施設内での手伝い(ボランティア)」(岡田委員)

・互助、共助 自治、行事 地域活動(外部との交流)、(ご自身の)活躍の場、やりがい、自己肯定、(入居者同士の)共感、共有、相互支援、生活支援、他の角度から、ピアサポートのよい事例、注意点、懸念される点、誰に対してのピアサポートなのか(メリット、意義として) (植村委員)

・利用者間の弱者(認知症者、聴覚機能低下、精神疾患、車いす利用等の人々)サポート 職員業務協力や、促しへの協力による他者支援、地域 民との交流や協力、助け合い、利用者間同士の交流や協力、助け合い」(里山委員)

② 自由回答記述からの気づき、発見、感想

ピアサポートに関する自由記述回答の中から委員としての気づき、発見、感想については、ピアサポートについて多くの肯定的意見、実施されている現実が記述されていることから、ピアサポートを基軸や視点として取り入れた場合の軽費老人ホーム・ケアハウスの独自サービスの発展可能性についての言及もあった。また、ピアサポート認識の有無による理解の差も着眼点となっている。

(気づき、発見、感想の内容)

・ピアサポートについての可能性を感じる。多くの施設において、入居者同士の支え合いが行われている事実が分かる。また、ピアサポートに対しての前向きな意見が多く寄せられている。現代の契約文化の中で、責任やリスクを重視する風潮となり、入居者同士の助け合いの価値が非常に高くなっていると思う。このアンケート結果の素材は、軽費老人ホームにとっての武器となる。他の大学教授等にもぜひ見てもらいたい。(石神委員)

・「設問が多すぎて回答に苦慮した」、「意義のある設問が多数あった」ピアサポートを認識しているか否かでアンケートのとらえ方に差が生じると感じた。(阿部委員)

③ 自由回答記述における問題点、課題

②を踏まえつつ、自由回答記述から見出される問題点や、課題について検討した。その結果、ピアサポートの行為に伴うリスクや事故防止のこと、利用者間の価値観の差異のこと、職員の業務としての判断基準や関係調整などの支援技術の課題、ピアサポートの行為の定義や判断基準の不分明、ピアサポート行為の時間的な変化や変容に伴う問題派生対処のことなどが挙げられた。具体的な委員の課題提起は次の通りである。

(問題点・課題)

・属人的行為は持てる能力を活かしたピアサポートが可能も、ある程度のコミュ力、やさしさあればできる範囲での支え合いは広く浸透する可能性も。ピアサポートに対する職員のポジショニ

ング、距離感が大切（難しいですが）アンケート結果を題材に、家族懇談会などでご家族と情報共有したい。支え合い、お互いさまのピアサポートによって、その人らしく生きるということをも満足させることができる場面もあり、逆に、対職員だけでなく、他入居者との関わりの深さがコミュニティの中で生活する心の豊かさになるのでは（個人により捉え方が逆の場合もありますが）」（植村委員）

・エンパワメント支援として、強みを生かして生き生きと活動されている取り組みが書かれていたがそれはピアサポートとして事例になるか？きちんと理解できていないのかもしれない、と思った。私の理解としては利用者同士の助け合い（利用者の強みや利用者の弱みをサポート）していた利用者が地域にある課題や地域の人々の課題の、助けとなっていることをピアサポートと理解している。」（友高委員）

④ その他調査全体を通しての感想、今後の課題や期待

最後に、9) の自由回答記述内容に対する委員から感想等である。

・9) については、前向きな意見・課題を感じている意見・事例に大別できるのかなと思う。

（石神委員）

・当初、善意で行っていたことも、長期間続くことで入居者の負担にならないよう支援（目配り、気配り、心配り）することも必要と考える。（阿部委員）

・経営サイドとしての捉え方、安全対策、リスク管理、（職員、ご家族ともに）ピアサポートの考え方、認知度（理解度）、職員側の力量が必要、今後の課題、利用者との人間関係が問題となるケース」（植村委員）

・アンケート結果を社員施設に公表し、これをもとに、ピアサポートの研修などを実施することで、より軽費老人ホームの価値が高まる。ピアサポートを実践している施設に発表などをしてもらい、ピアサポート実践研修などを企画できると面白いと思った。（石神委員）

・沢山の記述があり、個人的には有益な情報を得ることができた。（阿部委員）

・施設利用者は入居してしまったからといって役割が何もないわけではなく、また本当はできることがたくさんあるのに、職員が入居者の「できる活動」「する活動」をなくしてしまっているとも感じられる。そこには、ケガをしてしまったら、させてしまったら・・・といったリスクを先に考えてしまっていることもあるかと思われるが、入居者のやる気を阻害してしまわないように、施設ではもっと入居者の「できる活動」「する活動」に目を向け支援していく必要があり、また施設職員と入居者が一緒になって施設をつくりあげることができれば、入居者の自立支援や QOL 向上につながると思われる。そのことで、多少なりともこれからの介護の人材不足も少しは解消できるのではないかと思われる。（岡田委員）

・支え合い、お互いさまのピアサポートによって、その人らしく生きるということをも満足させることができる場面もあり、逆に、対職員だけでなく、他入居者との関わりの深さがコミュニティの中で生活する心の豊かさになるのでは（個人により捉え方が逆の場合もあるが）」（植村委員）

・今回のピアサポート・アンケート調査の具体事例には、意味や価値の再発見、再認識と捉えられる事象が示されていると感じられた。（里山委員）

Ⅲ 高齢者の支え合い（ピアサポート）の展開に向けて

1. 現場の立場から

今回、高齢者の支え合い（ピアサポート）に関する調査をしたが、ピアサポートを時代の変遷の中でとらえ直してみることで、現状のピアサポートの位置や意義が見えてくるのではないかということが調査研究委員の中で議論となった。以下では、そこでの木下委員からの言及をもとに、ピアサポートにかかわる施設風土や文化に対する評価の変化について紹介する。この内容は、概ね高齢者福祉事業に関する環境の変遷に伴う評価の変化として捉えることも可能と考られる。以下、時代区分別に大まかに見てみる。

・1970・80年代

軽費老人ホームには、A型B型創設当初から1970年代80年代を通じて、利用者同士の支え合いや助け合い、また利用者が地域との交流（老人会等）を促す施設コミュニティや地域コミュニティを大切にする価値観を持ち、実践する「施設独自の風土や文化」を築いてきた歴史がある。

・1990年代

ゴールドプランや、新ゴールドプランによってケアハウスの施設整備が進み、従来の軽費老人ホーム特有の「元気な高齢者」による施設のコミュニティ的な特性を大切にする意識や価値観が広まったと言える。ただ、一方で社会の個人主義化も背景に、コミュニティ意識に対する消極的あるいは、否定的反応も萌してきた。

・2000年代

2000年紀をまたいで、福祉の基礎構造改革や介護保険制度の導入という高齢者福祉サービスに対する転換が図られ、サービス利用者がより重視される転機となった。それに伴いサービス提供の渡し手受け手のはっきりした線引きを求めるサービス利用者視点（消費者意識的要素を含む）が導かれるようになり、その結果、従来の利用者間相互支援や家族的な施設コミュニティの形成が肯定的に評価されない（場合によっては否定的）傾向が生じたことは否めない。さらに、介護保険制度の浸透に伴い、高齢者サービスの事故防止やリスク管理の意識が強まり、その観点からも利用者間相互支援は評価の対象とはならない（あるいは否定的）事象として扱われてきた経緯がある。もちろん、従来通りのコミュニティ意識や相互支援を大切にする施設文化を承継・持続し続けてきた軽費・ケアハウスも少なくない。しかしながら、新自由主義的な社会の個人重視化や自己責任論のような社会意識の変化が背景となって、利用者間はもとより、サービスを提供する現場職員にとっても相互支援やコミュニティ意識を留保条件なしに肯定できない状況にあった。

・2010年代以降

2010年代以降、厚労省から「地域包括ケアシステムの構築」や「地域共生社会の実現」という目標が高齢者福祉に掲げられ、基本前提とされる「自助・互助・共助・公助」のうちの「互助」のひとつとして、また、「共生」の具体的事象として、あらためて利用者間相互支援が見直しできると、今回のアンケート調査を通じて理解できると言える。

調査研究委員会の委員にとっては、軽費老人ホーム・ケアハウスの事業に携わる事業者として、あまり評価されず（あるいは否定的に捉えられていた）、かつてあった（あるいは、現在も保持している）ピアサポートや家族的な施設コミュニティの復古再生（ないしは再評価）が、あらためて求められているようにも感じられた。このことが、時代の変遷による評価の変化を意識する要因にもなっている。

2. 研究の立場から

本研究調査研究全体を通しての、概要とそれを踏まえた今後の方向性（地域共生社会の実現に向けて）についてまとめる。

(1) 本調査研究の意義・意図の確認

今日の地域福祉政策で求められている地域共生社会の実現にあたっては、はじめにも述べたように、「支え手」「受け手」という関係を超えて、誰もが役割と生きがいをもち、支え・支えられる関係の形成とそれを可能とする地域社会づくりが要とされる。そうした中で、本研究調査では先行している精神保健福祉分野での研究等を参考にしつつ高齢者同士の支え合いをピアサポートとして捉え、実態把握をした。日本の地域社会や高齢者施設の中でもピアサポートは、実態としては行われていても、十分に可視化されているとは言えない中、全軽協の協力を得て、高齢者の支え合い（ピアサポート）の実態を明らかにしたことの意義は大きいと言える。特に、施設に入居している利用者はどうしても支援を受ける側としてとらえられがちであるため、支援を受けるだけでなく、支援をする側として捉えて実態を把握した点と、施設内だけでなく地域において利用者が支える側になっているかどうかからの実態把握は、これからの地域共生社会の実現を図っていくうえで重要な視点と言える。さらに、ピアサポートは利用者同士の間で、現象的には自然発生的に行われているように見えても、その背景には職員による多様な配慮や支援などが実施されていることが多いと言える。しかしながら、それについて職員は必ずしも意識化していないことが多く、可視化されることがほとんどなかった。そこで本研究調査ではそれを可視化することを意図した。本研究調査のみでは十分とは言えないが、ピアサポートの支援という軽費・ケアハウスの職員による意図的な支援（専門性）の向上と、利用者と環境への働きかけによるピアサポートの実現という点からのソーシャルワーク機能の発揮の可視化につながる基礎的な研究調査が実現したと言えた。

一方、高齢者のピアサポートに関しては十分な研究が行われていないこともあり、実践現場ではなじみのない用語(概念)である。そこで、本研究調査においては調査票の作成にあたり、調査票の質問事項に回答することで高齢者同士のピアサポートに関する理解が深まるように設計をした。具体的には、Ⅱの調査結果の概要でも示した通り、調査票に「自然発生的な高齢者同士の助け合い(ピアサポート)事例」の例示と併せて、職員による意図的な支援や職員によるサポートやフォローに関する例示もしたほか、各質問項目の選択肢を読むことで、ピアサポートの内容やピアサポートを可能にする方法(支援内容)等が理解できるようにした。また、本研究調査の調査名・調査票では回答への抵抗感やハードルを下げるとともに「高齢者同士の支え合い（ピアサポート）」のように併記した。このように、高齢者のピアサポート研究は端についたばかりと言えるが、以下にまとめるように、今後の展開やそれによる効果に関しては大きな期待が持てると言える。

(2) 高齢者の支え合い（ピアサポート）の実態と展開に向けて

（実態の可視化：現状把握）

今回の調査研究の結果では、回答のあった軽費・ケアハウスの約 7 割において、ピアサポートが「ある」ことが明らかになった。特に、今回の調査では全軽協会施設の協力により、55.3%という高い回答率を得た中で、7 割を超える施設においてピアサポートが実態として見られることを確認できたことは一つの大きな成果と言える。ピアサポートという用語（概念）が現場で定着していない中での調査であったため、繰り返しになるが、丁寧に説明をし、その内容やピアサポートを可能にする方法（支援）等を理解できるような調査票を設計したことを踏まえると、この調査の実施がピアサポートに対する現場への教育啓発的な機能を果たした部分もあると言える。実際に自由回答記述の中でも「アンケート調査を通じてピアサポートの重要性を理解することができた」という記載が見られたことから、今回の調査への回答がピアサポートの理解につながる機能を果たしたことがわかる。また、調査回答ではピアサポートについて、「ない」と「わからない」という回答を合わせると約 3 割あるが、特に「わからない」という回答に関しては日頃から意識化することで、ピアサポートの存在が見えてくる可能性もあると言えることから、実態としては 7 割以上の施設で展開がされている可能性もあると言える。

実際に行われているピアサポートの内容に関しては、「(施設内) 話し相手になっている」や「(施設内) 相談に乗る」の実施割合が高かったが、こうした利用者同士の関係性をベースに、「(施設内) 歩行や移動の支援」や「(施設内) 買い物の代行支援」、「(施設内) 食事の配膳の支援」、「(施設内) ゴミ出し」などの日常生活支援がピアサポートとして、自然発生的に行われていることも明らかになった。また、施設外でのピアサポートに関しては、全体的に施設内でのピアサポートに比べると実施割合は低いが、「(施設外) 地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている」などをはじめ、地域でも利用者によるピアサポートが行われていることが明かになった。

また、そうした自然発生的なピアサポートが可能となっている理由や背景を確認すると、「利用者の中に世話好きな人がいること」や「利用者の中に人の役に立ちたいと思っている人がいること」など、どちらかというとなり者の属人的な要素が強い傾向がうかがわれた。また、「利用者の中に助け合おうという風土が以前からある」という施設での利用者同士の生活の中で生み出された助け合いの精神や暗黙の理解のようなものがあることも示唆された。そうした中でも、それが継続的に行われるためには、利用者の属人的な要素だけでなく、施設の風土を含めた職員の対応等の環境要因が不可欠と言える。そうした観点から、職員による意図的な支援を見ると、「(施設内) 利用者同士の人間関係の調整」や「(施設内) レクリエーション時の支援」、「(施設内) 話し相手になっている」、「(施設内) 相談に乗る」などの利用者同士の関係形成や利用者自身への支援が、そのきっかけとして行われていることがわかる。さらに、ピアサポートに関する職員のサポートやフォローに関しても、同様に「(施設内) 利用者同士の人間関係の調整」や「(施設内) レクリエーション時の支援」、「(施設内) 話し相手になっている」、「(施設内) 相談に乗る」が行われていることがわかった。つまり、職員による利用者同士の関係形成の支援や、利用者への相談対応などによって利用者が施設で安心して生活ができる基盤形成がされたことで、利用者によるピアサポートも可能になっていることがうかがわれる。その意味では、ピアサポートが行われるためには、ピアサポートを促すような直接的な支援よりも、利用者一人ひとりを大切にする職員の支援の延長上にピアサポートが成り立っていると言えた。

実際に、施設内外の高齢者のピアサポートに向けた職員の意図的支援については、「利用者のかかわりを持てる機会を増やす」や「利用者の人の役に立ちたいと思っている気持ちに対するエンパワメント」、「利用者ができることを増やす支援」、「利用者がしたいことを実現できるような支援の実施」、「利用者の強みを把握してお互いの支援ができるような声かけ」のように、利用者一人ひとりへの支援がベースになっていることがわかる。ただ、「利用者同士の助け合いにつながるような個別支援計画の作成」については低いことから、意図的な支援といっても、個別支援計画との連動までは至っていない状況にあると言える。しかしながら、上記のような意図的支援にはエンパワメントや利用者のできることやしたいことを実現するという内容が入っていることから、全軽協が開発した「あなたらしさ応援プラン」(利用者の強み・望みを活かした個別支援計画)を活用することで、今後はアセスメントに基づくピアサポート支援の展開と可視化が可能になると言える。さらに、「あなたらしさ応援プラン」では、アセスメント項目に「地域とのかかわり」があることから、今回の調査結果では多くはなかった施設外でのピアサポートの展開や支援も可能になることが予測される。それでも、こうした施設内外のピアサポートをしている利用者の参加割合は、「1割程度」が約半数を占め、「2～3割」が3割強となっており、ピアサポートを行っている利用者はまだ一部であることがわかる。ただ、「4～5割」も1割弱ほど存在していることから、支援のあり方等によってはより多くの展開が期待できる。

なお、精神保健福祉分野でのピアサポートでは、有償でピアサポートを行うピアスタッフが増えており、その育成も行われている。そうしたことから、今回の調査研究では、施設内外の高齢者同士の支え合い（ピアサポート）をしている利用者による支援の中で、役割として（有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て）行っている利用者の有無についても確認した。結果としては、「いない」7割で、「いる」という明確な回答は1割弱にとどまった。経済的な自立のために有償でピアサポートを行うということとは別に、対価を得てピアサポートにかかわることでの社会性や責任感の維持、満足感や達成感など得るものは多々あると思われる。ピアサポートがすべて有償化される必要はないと言えるが、元気で働く意欲のある利用者の「生きがい就労」という観点からの有償のピアサポートについて、今後さらに検討する余地は多々あると考えられる。

（ピアサポートの効果・メリット）

精神保健福祉分野でのピアサポート（有償のピアスタッフを含む）に関する研究では、その導入による変化の可能性として「①利用者の変化、②サービスの変化、③ピアスタッフの変化、④職員（専門職）の変化、⑤組織文化の変化、⑥社会の変化」（相川 2022:11）の6つの枠組みが示されている。今回の調査研究では、ピアサポートによって①利用者にとっての効果（メリット）、②職員・施設にとっての効果（メリット）、③地域の高齢者との間で展開することの効果（メリット）という観点から確認した。本来であれば、ピアサポートにはメリットのみならず、デメリットもあると考えられるが、今回は今後の展開に向けた基本データを収集するという意図から効果（メリット）を確認した。

その結果、ピアサポートの利用者にとっての効果（メリット）については、「支援を受ける側の不安や孤独が減る」や「支援する側の利用者の自立支援につながる」、「利用者同士の人間関係がよくなる」、「支援する側の利用者の経験や知識等が役立つ場がとれる」、「支援する側の利用者の自己効力感が高まる」が5割以上となっており、支援を受ける側と支援する側の双方に効果（メ

リット)があることが明かになった。また、利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)が職員・施設にもたらす効果(メリット)については、「利用者の強み・もつ力などの点からの利用者理解が深まる」と「利用者の可能性(潜在的なものを含む)についての理解が深まる」などの利用者理解が可能となるほか、「利用者の強みを引き出したり、エンパワメント支援に対する効果を実感できる」、「利用者同同士関係性がよくなることで、仕事がしやすくなる」など、ピアサポートは職員にも様々な効果(メリット)があることがわかった。さらに、利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)が地域の高齢者との間で展開することの効果(メリット)については、「施設の利用者に対する地域(住民)の理解が深まる」、「地域の高齢者が利用者とのかかわりを通して施設への理解を深める」など、施設の利用者や施設に対する地域(住民)の理解が深まる効果(メリット)があることがわかる。今回は、地域(住民)の理解の深まりの部分までしか調査ができなかったが、こうした地域(住民)の理解が利用者や施設との交流や関係等にどのように展開するか、影響するかなどを明らかにしていくことが重要と言える。それによって、ピアサポートが地域共生社会の実現にどうつながるのかの解明に近づくと言える。

(文献)相川章子(2022)「ピアサポート/ピアスタッフの歴史的展開と発展可能性」『精神障害とリハビリテーション』Vol.26, No.2, 6-13.

(ピアサポートに対する職員の理解の必要性とリスクマネジメント)

さまざまな効果(メリット)があることが明かになったと言えるピアサポートだが、本調査研究ではピアサポートをさらに増やしていくためには何が有効か、またそこでの課題も確認した。その結果、「利用者ができると思われている役割を施設内で増やす」とともに、「利用者が役割を果たすことに対する職員の理解を深める」が半数以上を占める高い割合となった。そのほかにも、「利用者の強みを把握して役割として活かせるような活動を紹介する」のように、単に利用者に関与してもらおうという支援以上に、強みを活かすという視点が多くもたれていることが特徴と言えた。ただ、それでも利用者が役割を果たすことに対する職員の理解ができていないという割合が高いことへの対応が不可欠と言える。

一方、利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)を実施しないしは広めるための課題を確認すると、「利用者同士がかかわることで転倒等のトラブルの可能性が高い」、「利用者のリスク回避が重視される」、「利用者の人間関係の問題があり、ピアサポートが展開しにくい」が高い割合を占めていることがわかる。自由回答記述の中でも、「職員による制御が最大の阻害要因となっている」という指摘があるように、前述の回答で多くあった利用者が役割を果たすことに対する職員の理解ができていないとうことの意味の背景には、ピアサポートの実施による様々なトラブルや事故等のリスク回避志向があることがわかる。そのため、自由回答記述でも「高齢者同士の活動によるリスクマネジメントの体制整備が重要」というように、リスクマネジメントに関する整備を指摘する声がある。

その一方で、「職員の見えないところで、入居者様同士でたくさんの支え合いが行われていると思いますが、〈ピアサポート〉という視点が職員に不足しているような気がしました。あらためて、入居者様のもっている力、強みを把握してピアサポートが実現できるような関わり方を意識して業務にあたりたい」という自由回答記述もあった。このことから、職員の見えないところで、把握していないところで、利用者同士の助け合いは行われているという実態がうかがえる。その意味では、リスク回避という観点からピアサポートを避けるよりも可視化して、現在見えていない、

把握していない助け合いの支援を行うことこそが、リスクマネジメントにもつながると考えられる。また、ピアサポートを可視化するとともに、利用者・家族が安心できるピアサポート支援の体制整備や事前の十分な説明と理解を得るためのあり方等に関する研究も不可欠であり、今後の課題と言える。

(地域共生社会の実現に向けて)

今回の調査では、はじめにも述べたように、量的な調査の結果として7割の施設でピアサポートの実態があることが明らかになったほか、今後もできたり広めたりするとよいと思う事例に関する自由回答記述では、多くの事例の記載があり、ピアサポートのさらなる展開の可能性を強く感じた。上述したように、利用者間のトラブルや事故等のリスクに対する懸念があることも事実ではあるが、それでも「これまでも入居者が自主的に関わろうとしてくれたこと(食事の配下膳、歩行への手引き)に対して、職員側がリスク回避のために『止めて下さい』という否定的な声掛けになることが多くあった。できることに目を向ける前向きになる支援により、施設内が前向きな方向になることは結果として職員にプラスで戻ってくることを改めて考え、取り組んで行きたい。」というような自由回答記述に見られるように、今回の調査をきっかけにピアサポートは利用者にとってメリットがあるだけでなく、職員にプラスで戻ってくることを改めて考え、取り組んで行きたい。という内容があることから、研修の活用や事例集の作成などが求められる。

特に、ピアサポートではそれを強制するのではなく、利用者の主体性が重要であり、「支援を受ける側の不安や孤独が減る」「支援する側の利用者の自立支援につながる」「利用者同士の間関係がよくなる」「支援する側の利用者の経験や知識等が役立つ場がつけれる」「支援する側の利用者の自己効力感が高まる」というような効果的な支援やその継続にあたっては、自然発生的な助け合い(ピアサポート)に対する職員の専門性に基づく意図的な支援が重要である。また、自然発生的な助け合いと見えるピアサポートに関しても、それが生まれる土壌づくりなどにおいて、職員のかかわりや支援が求められる。さらに、そうした意図的な支援を施設内のみならず、地域に展開できるような支援を行うことは、利用者の自立や自己実現を強化するとともに、地域共生社会の実現にも寄与するといえ、重要な意義を持つ。

今回の調査では、ピアサポートの実態把握と意図的な支援の概要把握はできたが、利用者個々への具体的な支援やピアサポートの支援プロセスの解明までは至っていない。特に、個別のピアサポート支援から地域におけるピアサポートにつながる支援プロセスを含めて明らかにすることで、軽費・ケアハウスのもつ支援機能が地域共生社会の実現にどのように寄与するかも見えてくるのではないだろうか。全軽協では、利用者の持つ力をエンパワメントし、利用者の自立や自己実現を支援することを可能とする個別支援計画(あなたらしさ応援プラン)を開発しているので、その活用によってピアサポートの展開過程の解明とそこでの職員の専門的支援の内容を明らかにすることが今後の研究課題といえる。

3. おわりに

軽費老人ホームは昭和 38 年老人福祉法施行と同時に契約施設として創設された老人福祉施設ですが、近年サービス付き高齢者向け住宅等の台頭により、影が薄くなってまいりました。自立の人から重度要介護者まで多様な心身状態の人が暮らす施設として地域共生社会の実現に向けて、なくてはならない施設であると確信しています。配置職員は非常に少ないため施設と一緒に暮らす人達が共に助け合い支え合って暮らす施設であり、それは地域社会の縮図と言っても過言ではありません。介護保険は障がいや病気の後遺症等で不自由になった弱い点に着目して支援や介護を計画し支援しますが、全国軽費老人ホーム協議会の社員施設ではあなたらしき応援プランを導入して支援していますが、この考え方は対象者の強みに着目して支援するという介護保険制度でいうケアプランの考え方とは全く違った発想で支援をしております。今回のピアサポートは利用者が互いに支え合って生活支援する非常に有意義なものであると確信します。

このピアサポートを広く高齢者福祉に導入・活用して介護人材が減少する超高齢社会において救世的な支援方法として関係者が取り入れて下さることを切望いたし、結びに言葉といたします。

(一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会理事長 川西 基雄)

(執筆分担)

昭和女子大学 北本佳子(研究代表者)：Ⅰ 調査研究概要、Ⅱ 調査の概要と結果、Ⅲ 高齢者の支え合い（ピアサポート）の展開に向けて（2）

全国軽費老人ホーム協議会調査研究委員会：Ⅱ 調査結果の概要と結果 9)、Ⅲ 高齢者の支え合い（ピアサポート）の展開に向けて：（1）

全国軽費老人ホーム協議会理事長 川西基雄：Ⅲ 高齢者の支え合い（ピアサポート）の展開に向けて：（3）

參考資料

全国軽費老人ホーム協議会__地域共生社会の実現に向けた 高齢者同士の支え合い(ピアサポート)に関する研究調査

※この調査票は、回答することで高齢者同士の支え合い(ピアサポート)に関する理解が深まるよう設計されています。

(趣旨)

今日の地域福祉政策で求められている地域共生社会の実現にあたっては、「支え手」「受け手」という関係を超えて、誰もが役割と生きがいをもち、支え・支えられる関係の形成とそれを可能とする地域社会づくりが求められています。そうした中で、高齢者施設の中でも高齢者同士の自然な支え合いや、それを支える職員の意図的な支援(専門的支援)は、日本独自の形で様々にみられていますが、十分に可視化されていません。本研究では、障害福祉の分野では障害者同士の支え合い(ピアサポート)を行うピアサポーターの養成やそれを可能とする支援等が加算対象として評価されている状況や先行研究を参考にしつつ、高齢者福祉分野における高齢者同士の支え合い(ピアサポート)の実態とそれを可能にしている要因(特に専門職の意図的な支援等)や今後の課題を明らかにし、現場での実践からの政策提案、軽費・ケアハウスの存在意義を可視化するための基礎的な研究を行うことを目的としています。

なお、アンケート結果について、数的な処理を行い活用する予定です。自由記述部分から個人や施設が特定されることはありません。

(補足事項)

* 本調査は昭和女子大学研究助成金を得て実施し、日本地域福祉学会での発表をはじめ研究成果は公表します。併せて、全軽協会員にも研究成果を還元するとともに、今後の実践に向けた資料(報告書等)を作成・配布します。

* (定義)ピアサポートとは: 同じような経験をしている対等な関係の仲間同士の支え合いを意味します。

→本調査では、軽費・ケアハウスの施設内の利用者同士の支え合い、軽費・ケアハウスの利用者と地域の高齢者や他の施設等の高齢者の間における支え合いを意味します。

アンケート回答締め切り: 令和5年 月 日

アンケート問い合わせ先: 調査研究委員 千葉県 軽費老人ホーム福寿荘 副施設長 石神

TEL: 047-462-2021 mail: t.ishigami@shuokai.org

FAX 返信先: 047-462-7638 軽費老人ホーム福寿荘

送信枚数: 回答用紙 枚(送付状無しで送信してください)

1)あなたの施設についてお伺いします。

1-1)事業所の種別を教えてください。

- 軽費老人ホーム A 型 軽費老人ホーム B 型 ケアハウス 都市型ケアハウス
特定施設入居者生活介護(特定施設の場合は、施設種別にチェックを入れて、こちらにもチェックを入れてください)

1-2)事業所の所在地を教えてください。

- 北海道
東北(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)
関東(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県)
東海北陸(富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県)
近畿(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)
中国(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)
四国(徳島県、香川県、愛媛県、高知県)
九州(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

1-3)施設の定員数を教えてください。

- ~20人 21人~30人 31人~40人 41人~50人 51人~60人
61人~70人 71人~80人 81人~90人 91人~100人 101人~

1-4)施設の職員数を教えてください。(常勤+非常勤(常勤換算数))(委託職員を除く)

- ~5人 6人~10人 11人~15人 16人~20人 21人~

2)高齢者同士の支え合い(ピアサポート)についてお伺いします。

2-1)施設内外で利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)はありますか？

- ある→2-2)・3)・4)へ ない→2-5)へ わからない→2-5)へ

2-2)以下の項目を見て、施設内外で①利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)が自然発生的に(職員の関与なく)行われた場合には、①の欄に✓をつけてください。②その高齢者同士の支え合い(ピアサポート)が行われるにあたり、職員による声掛けや促し(意図的な支援)があった場合には、②の欄に✓をつけてください。③その高齢者同士の支え合い(ピアサポート)に対して、職員が見守っていたり、サポートやフォローをした場合には、③の欄にも✓をつけてください。(過去の事例でも可です。)(複数回答可)※①②③には、当てはまる部分にすべて✓をつけてください。

[例示]

- ・利用者が職員の関与なく自発的に手足が不自由な方のゴミ出しを手伝っている⇒①に✓
- ・Aさんが手足の不自由なBさんのことを気にしている様子を観察した。AさんにBさんの困っていることをお手伝いしてくださるとBさんは喜ぶと思いますよ、と伝えるなど何らかの形で強制的ではない形で支え合いが可能となるような意図的な支援を行ったことがある。⇒②に✓
- ・AさんがBさんのゴミ出しを手伝ってくれた。Aさんが全部のゴミを持てるかなど見守ったり、分別の確認をしたり、Bさんの気持ちを代弁したり、Aさんに感謝の言葉掛けをしたり、支え合い(ピアサポート)の継続や新たな助け合いが展開されるようなフォロー(意図的な支援)をしたことがある。⇒③に✓

取り組み	① 高齢者同士の支え合い(ピアサポート)が自然発生的に行われている、行われた。	② ピアサポートが行われるきっかけに、職員による意図的な支援(かかわり)があった。	③ ピアサポートに対して、職員のサポートやフォローがある、あった。
(施設内)食事の配膳の支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)食事の介助	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)歩行や移動の支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)外出の同行支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)買い物の代行支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)入浴の見守り	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)入浴時の洗髪や体を洗うお手伝い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)居室での見守り	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)居室の整理・清掃等のお手伝い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)相談に乗る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)話し相手になっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)利用者同士の人間関係の調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(施設内)レクリエーション時の支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)利用者同士のお茶会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)利用者同士での食事会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)利用者同士の旅行(日帰りを含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)ゴミ出し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)洗濯物の取り込み	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設内)その他()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)地域の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)地域の高齢者の方の相談に乗る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)地域の高齢者の話し相手になっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)地域の高齢者とお茶会や食事会をしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)地域の高齢者と旅行(日帰りを含む)をしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の集まりに参加してお手伝いをしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)法人内の他の施設の高齢者の方の相談に乗る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)法人内の他の施設等の高齢者の話し相手になっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)法人内の他の施設の高齢者とお茶会や食事会をしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(施設外)その他()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2-3)施設内外での利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)をしている利用者の参加割合はどのくらいですか。

- 1割程度
2割～3割
4割～5割
6割～7割
8割～9割
ほぼ全員
その他()

2-4)施設内外での高齢者の支え合い(ピアサポート)に向けた支援として職員が行ったことがある意図的な支援を選んでください。(複数回答可)

- 利用者の強みを把握してお互いの支援ができるような声かけ
- 利用者の人の役に立ちたいと思っている気持ちに対するエンパワメント
- 利用者ができることを増やす支援
- 利用者同士のかかわりを持てる機会を増やす
- 利用者同士の助け合いを推奨することを利用者に伝える
- 利用者同士の助け合いにつながるような個別支援計画の作成
- 利用者がしたいことを実現できるような支援の実施
- 施設の理念や方針に助け合いを重視していることを伝える
- 家族にも利用者の助け合いを大切にしていることを伝える

- 地域で利用者が参加できる活動情報等を伝える
- 地域の組織・グループ等との交流を持てるような支援
- 利用者が入居前にかかわっていた組織・グループ等とのかかわりを継続できるような支援
- 法人内の他の高齢者施設等の活動情報を伝える
- 法人内の他の高齢者施設等の高齢者等との交流ができるようにする
- その他()

2-5)施設内外での利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)の中で、職員の意図的な支援(かかわり)がなく自然発生的に生まれる理由・背景として該当すると思われるものを選んでください。(複数回答可)

- 利用者の中に世話好きな人がいること
- 利用者の中に人の役に立ちたいと思っている人がいること
- 利用者の中に助け合おうという風土が以前からある
- 利用者の中に助け合いに関してリーダーシップを発揮する人がいること
- 施設の理念や方針に助け合いを重視していることを利用者が理解している
- 施設の職員の負担軽減などに役立てればよいと思ってくれている
- 地域に役立つことができればよいと思っている
- 利用者が入居以前から地域で支援をしていた
- その他()

2-6)施設内外の高齢者同士の支え合い(ピアサポート)をしている利用者による支援の中で、役割として(有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て)行っている利用者はいますか。

いる→2-7)・8)へ いない→2-9)へ わからない→2-9)へ

2-7)施設内外の高齢者同士の支え合い(ピアサポート)をしている利用者による支援の中で、役割として(有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て)行っているものを回答してください。(複数回答可)

- 高齢者の食事の配膳・下膳
- 高齢者のカフェ等の運営補助
- 高齢者のお部屋等の清掃活動
- 高齢者の話し相手
- 高齢者の相談相手
- 高齢者の趣味活動の補助
- 高齢者の外出支援
- 高齢者の買い物代行
- その他()

2-8)施設内外の高齢者同士の支え合い(ピアサポート)をしている利用者の支援の中で、役割として(有償、現物付与、ポイント付与のような形で対価を得て)、行っている利用者の人数を回答してください。

1人 2人~3人 4人~5人 6人~7人 その他()

2-9)すべての方にお聞きします。施設内外で高齢者同士の支え合い(ピアサポート)をする利用者が増えるための支援として有効だと思うものを選んでください。(複数回答可)

- 利用者が強みを活かして役割をしたいと思えるようにエンパワメント支援を行う
- 利用者の強みを把握して役割として活かせるような活動を紹介する
- 利用者が以前に行っていた役割を継続できるような支援をする
- 利用者ができると思われている役割を施設内で増やす
- 利用者ができると思われている役割を施設内でできるような規定を作る
- 利用者が安心して役割ができるような体制(保険等)を作る
- 利用者が役割を果たすことに対する職員の理解を深める
- 利用者が役割を果たすことに対する家族の理解を深める
- その他()

3)すべての方にお聞きします。高齢者同士の支え合い(ピアサポート)は、利用者にとっての効果(メリット)にはどのようなことがあると思いますか。(複数回答可)

- 支援する側の利用者の自己効力感が高まる
- 支援する側の利用者の自立支援につながる
- 支援する側の利用者が施設にいることへの意義をより感じられる
- 支援する側の利用者の経験や知識等が役立つ場が出来る
- 支援を受ける側の利用者の生活の安定に寄与する
- 支援を受ける側の利用者の不安や孤独が減る
- 支援を受ける側の安心感が高まる
- 利用者同士の人間関係がよくなる
- 利用者同士の助け合いの精神が涵養される
- 利用者同士での活動が活性化する
- 職員には話せないことが話せる
- 利用者が地域に出ることで人間関係が広がる
- 利用者が地域に出ることで身体面・精神面においても活性化する
- その他()

4) すべての方にお聞きします。利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)が職員・施設にもたらす効果(メリット)にはどのようなことがあると思いますか。(複数回答可)

- 利用者の強み・もつ力などの点からの利用者理解が深まる
- 利用者の可能性(潜在的なものを含む)についての理解が深まる
- 職員よりも利用者同士の方がよい支援があることがわかる
- 利用者同士の関係性がよくなることで、仕事がしやすくなる
- 利用者同士が助け合うことで、ほかの専門業務に集中できる
- 利用者の強みを引き出したり、エンパワメント支援に対する効果を実感できる
- 利用者が地域の高齢者を支援することで、施設と地域の関係が広がる
- 利用者が地域に出ることで施設の社会的認知が広まる
- その他()

5) すべての方にお聞きします。利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)が地域の高齢者との間で展開することの効果(メリット)にはどのようなことがあると思いますか。(複数回答可)

- 施設の利用者に対する地域(住民)の理解が深まる
- 施設の利用者に対する関連機関(社協・包括・行政)の理解が深まる
- 地域の高齢者が利用者とのかかわりを通して施設への理解を深める
- 地域の高齢者や家族が何かあったときに相談先として施設を認知することにつながる
- 地域の高齢者や家族が施設に入居することへのハードルが下がる
- 地域住民が施設の利用者との交流へのハードルが下がる
- 地域共生社会の実現(例えば利用者の参加支援等)に寄与する
- その他()

6) すべての方にお聞きします。貴施設で利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)を実施ないしは広めるための課題として該当するものを選んでください。特に課題がない場合は✓を付けずに進んでください。(複数回答可)

- どのようにしたらピアサポートが広がるのかがわからない
- 利用者の人間関係の問題があり、ピアサポートが展開しにくい
- 利用者が人の支援をするという意識がない
- 利用者が人の支援をする力がない
- 利用者のもつ力をエンパワメントする方法がわからない
- 利用者にかかわる時間があまりもてない
- 利用者のリスク回避が重視される
- 利用者同士がかかわることで転倒等のトラブルの可能性が高い

- 利用者が他の利用者にかかわることを利用者家族が望んでいない
- 施設の理念や方針から、利用者が支援にかかわることが難しい
- 施設の職員がピアサポートについて理解がない
- その他()

7) すべての方にお聞きします。貴施設の利用者がかかわる高齢者同士の支え合い(ピアサポート)で今後もできたり、広めたりするとよいと思う事例(過去の事例も可)をいくつでも書いてください。(どのような利用者がどのような高齢者にどのような支援等を行い、どのような反応や効果があったなど)

8-1) すべての方にお聞きします。貴施設の利用者が高齢者に対するピアサポート以外に支援する側になったことがある事例はこれまでにありましたか。

ある→8-2)へ ない→9)へ

8-2) 貴施設の利用者が高齢者に対するピアサポート以外に支援する側になった事例の対象等で当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

- 施設の職員のお手伝い
- 地域の子ども(小学生まで)へのかかわり(昔話、特技の披露、子ども食堂、その他)
- 地域の中高生とのかかわり(昔話、特技の披露、子ども食堂、その他)
- 地域住民とのかかわり(母親支援、特技の披露、その他)
- 地域課題に関するかかわり(防災訓練、美化活動、交通安全等)
- 地域の高齢者以外で課題をもつ方への支援(障がい者支援、生活困窮者支援等)
- その他()

9) 本調査に関する感想・期待・質問等、なんでも自由にご記入ください。

10)アンケートへのご協力ありがとうございました。心より感謝申し上げます。ご回答者様の情報を記入してください。

10-1)施設名称

10-2)氏名

10-3)職種

10-4)施設電話番号

10-5)メールアドレス

資料 自由回答記述一覧

問7 今後もできたり、広めたりするとよいと思う事例

- ・入居者同士で買い物に行く日を決めタクシーを手配し、比較のお元気な方が移動に不安を抱えている方を誘い一緒に出掛ける。そのことでタクシー代の割勘も行い、浮いた分で喫茶店などへ行ってお話をしていた。
- ・入居者自身が配膳をする場面で、一緒に並んでいる入居者が認知症のある入居者へやさしい声掛けで配膳方法を伝える事で、後ろに並んでいる他入居者も配膳がスムーズに出来るようになる。
- ・趣味が合う人達が声を掛け合って、コーラスや手芸など自然に行っている。
- ・ピアノ伴奏をする人もいて自由に歌っている。
- ・当施設は風呂が大きいため、高齢者は不安な方も多い。現在入浴中の人の部屋番号を掲示しているが、それを確認して（一人ではない事の確認）入浴することで安心して入っている方もいる。
- ・畑を持っていて、野菜などを作っている入居者がおり、みんなで頂いている。先日、数人で芋掘りをして皆で焼き芋を食べ講評でした。
- ・入居者自治会があり、自主的にスポーツ行事などを計画し実行している。今後も活動は継続してほしい。
- ・高齢者施設対抗輪投げ大会に参加し、協力、団結し賞をとった。応援団も含め盛り上がった。コロナで3年開催しなかったが、開催の時に備え、3年間欠かさず毎週自主的に練習していた。
- ・かわり方によっては関係性がこじれることがあり。職員はなるべく介入しないようにしているが、時にはアドバイスしている。
- ・東日本大震災の被災者もいるため、震災後10年の時に当時の状況を皆で語り合う機会をもった。
- ・サークル活動の実施、話し相手としての支えあい
- ・認知症の入居者への声掛けや見守りをしてくれる。不安な様子があると声を掛けて落ち着かせてくれたり、一緒に過ごしてくれている。
- ・入居者の有志で年数回の学習会や交流イベントを開催していた。悩みや生活課題などを相談しやすい関係づくり、孤独の解消につながっていた。
- ・当時はリーダーがおり、会として成り立っていたが、高齢となり次のリーダーも不在で消滅した。
- ・地域のコーラスグループへの参加・散歩のメンバーから自然発生した施設外の交友関係
- ・元町内会役員の入居により地元の方の面会者増・入居前よりボランティア活動されていた方の間接的な活動支援
- ・近隣の大学際の見学・他のケアハウスとのレクレーション交流会 今後の支援として 若者の世代交流、健康マージャン、街道ウォーキング、カフェめぐり
- ・新規入居者様への声掛け等をお願いすると早く施設や他の入居者様に慣れ親しむことが出来る。
- ・入居者有志でシトラスリボン作りを1年間行い、完成したリボンを地域の中学校や高校の生徒さんにプレゼントしました。入居者の方は社会貢献しているという達成感を感じられました。
- ・地域の老人会の方々との「おやつ作り」の機会を設けている。
- ・近隣で実施されている地域活動への参加を通して、まだ役に立てる、という自信を感じていただけた。海が近いので、ビーチクリーン活動や海藻干し作業、赤紫蘇の洗浄作業など。地域と繋がることのメリットを感じていただくことで、よりお元気に活力に満ちた生活を送れる。対価で鎌倉市の地域通貨を利用している。
- ・個々の利用者の特性に合わせた活動の場を設けるため、選択肢を増やす必要性がありますが、その分職員の負担も少なからず増えます。職員はきっかけづくりを中心に運用の継続は、利用者が引き継ぐような体制づくりを意識しています。
- ・利用者のハマリ具合で継続しているものと数回で断念する企画もあります。”
- ・地域サロンへの参加
- ・体調不良などの訴えの協力体制は整っており効果が高い

- ・普段、職員との関りしかない認知症の方やパーキンソン病で体の動きが悪くなっている方を誘って毎週定期的に麻雀をしてくださる方がいて、みなさん楽しみにされています。
- ・施設利用者の対人関係の中で期待されるピアサポートについては、利用者個人の一定の自立した生活能力が必要だと思いますが、先に例示された事項に まずは取り組めると良いと思います。
- ・主に精神的なサポートで怪我や事故につながらないようにする。
- ・地域のイベントや自治会の役割に参加出来れば良いと思う。
- ・非常災害時に健脚なご利用者が職員と共に点呼や安否確認、物資の運搬などマンパワーとして活躍していただける
- ・コロナ禍になる前は、地域の高齢者の方を対象とした食堂を5年ほど実施していました。
- ・1日30食限定で、1食300円の昼食を提供していました（現在食堂はコロナ以降閉鎖）。そこでは、入居者の方が配膳や下膳、水の提供など対応して下さっていました。90歳前後の男性の方2名（A様とB様）が、担って下さっていました。きっかけは、職員からのお声掛けからでしたが、意欲的に取り組まれていました。・お客様（地域の高齢者様）からも、「よく頑張ってるね！元気もらえるわ！」や「いつもありがとう！私も、頑張らなあかんね！」のお声掛けを戴いたり、ちょっとした相談事や世間話などもされ、お互いに良い時間を過ごされていたように思います。・A様、B様からは、配膳下膳の効率性をあげるにはどうすれば良いかなど、アイデアを出して下さったり、「お客さんの〇〇さんが、入居先を探していると言ってたよ。」と、相談内容を報告して下さる事もありました。食堂開催時間以外の場所（道端など）で出会ったときには、立ち話をされるなど、地域・社会交流へと発展していきました。施設からは、A様とB様に、『功労賞』としまして表彰状とささやかな贈り物をさせて頂き、大変喜んで下さいました。
- ・食事の配膳・下膳の援助、施設内外の清掃活動
- ・視力の低下したご利用者に対する、お食事の配膳に関してすすんでお手伝いをして下さった方がいたが、その方も支援されても良いくらいのレベルだった。職員のスタンスとしてはリスクが低い方が良いが、結果お互いの関係や周りに暖かい気持ちになる出来事となった。
- ・館内放送時（食事・集合案内等）耳の遠い方への声掛けを行って頂き、サポートを受けられている方は聞こえないことへの不安が軽減されているようです。
- ・時間の感覚がない認知症の高齢者の部屋へ、食事やデイサービスの時間になったら声かけをして下さるのはとても助かりました。
- ・認知症の方への声掛け
- ・認知症があり、一人で外出すると迷ってしまう方と一緒に散歩へ行く。
- ・外出に自信がない方が仲間に買い物依頼し有難く感謝の意を示し、依頼者は人助けをした達成感を得られている様子が見られます。
- ・複数人でのエレベーター利用時にエレベーターボーイ役をしてくださる方がいて、自動にドアが閉まらないように配慮してくれています。皆さんも有難く安心して乗っています。
- ・ADLなど障害がないかたに、災害時の見守りや声掛け、リーダー的な立ち位置
- ・元気な入居者が体を痛めた入居者に対して、掃除、洗濯等の家事援助、買物等を支援する。
- ・元気な入居者が外出困難な入居者の買物を代行する。
- ・背の高い入居者が背の低い入居者の居室の電球をかえる。”
- ・身体が不自由な入居者に対し、健常な入居者が、食事の配膳や階段の昇降等をサポート。見ず知らずの関係から、交流が育まれる関係に繋がり、互いの施設生活の充実に繋がった。
- ・食事の時間に誘いあえる。
当施設では、月曜から土曜の午後、自由に入浴できます。その際、入居者様同士で声を掛け合い、一緒に入られて、お互いを見守り、見守られることが多くみられます。転倒リスクを減らすことに繋がっている反面、見守る行為が自体重荷に感じておられる方もいるようです。
- ・職員から利用者さんはピアサポートをお願いや促すのではなく利用者さんの間で自然に行われていると思う。
例えば食事の時、足腰の悪い人や目の見えない人のたまにお茶を注いであげたり自分のゴミ捨てをする時に一緒に

ゴミ置き場に持って行ってあげることなど。”

- ・買い物に同行する・ゴミ出しの支援・通院に同行する・入院の準備の支援・入院している利用者の植木や花に水をやる
- ・認知症の利用者が自分の部屋がわからないときに一緒に部屋まで付き添ってくれる。
- ・予定を説明してくれる。”
- ・配膳・テーブル清掃・誘導・ゴミ出し・エレベーター乗降サポート等、手伝ってもらった時、スタッフは率先して称える。
- ・今後広めたいのは、お散歩同行、複数で散歩する事により万が一の場合に備えられる。
- ・男性入居者で最近奥様を病気で急に亡くされた方Aさん（施設におふたりで入居していた）に対して、他の男性入居者（かつて奥様を亡くされた方）Bさんが相談にのっている。人生の先輩として同じ辛い体験をされた方同士でなければわからない心の葛藤、回復への道筋、やるべきことを共に歩んでくださっています。お部屋の片付け、遺品整理などに追われている最中です。食事の席を隣同士になるように配慮しました。（当施設では食事の席は毎月変更になります。席は職員が決めます。いろいろな方と知り合ってほしいという思いからそうしています。もちろん人間関係を考えると配置が難しい事も多いです。しかし開所以来のやり方を続けていることと、入居者が不満に思っても1か月のことなので我慢していただいています。）おかげさまでAさんは前向きに毎日を過ごされています。Bさんだけでなく他の男性入居者も支えてくださっていると思います。地域でふたりだけで暮らされていたら、途方にくれていたと思います。施設に入居していたからのメリットと思います。
- ・認知症傾向がある方への見守りや声掛けで精神的な安定につながっている。認知症に対する理解にもつながり、支え合いという意識がひろがる効果となる。
- ・利用者の性格や育った環境で心の優しい方もおられる為、そういった他者の傍で過ごすことによって利用者間の助け合いが広がればと思う。
- ・利用者の話し相手や相談相手になることで、支援をする側は役割を感じることができ、支援を受ける側は同年代の高齢者だからこそ話せることを相談することができると感じる。職員ではすぐに時間が取れない場合もあるが、利用者同士であれば、すぐに話をする事ができ、不安の軽減や解消につながる。また、話し相手や相談相手などは、場合によって支援をする側が受ける側になることや支援を受ける側が支援をする側にもなり得るため、広まっていくと良いと考える。
- ・毎朝の礼拝時、自立の利用者が歩行器で移動される利用者を椅子へ導くなどの介助をしてくださっている。本来職員がするところだが、この時にはお願いしている。他の人への支えをすることで、支援する側の方は心豊かに、また支援される側の方も優しく接して下さることで穏やかなお顔でお礼を言っておられる。施設としては、危険を回避するため、介助は職員がすることにしているが、人に優しくすることでオキシトシンが出て、精神的にも充実すると言われているので、見守りながらピアサポートを進めていきたいとは思っている。
- ・自立の方同士、自立の方が要支援の方の居室へなど入居者同士が居室を行き来し、体調不良や変化について職員へ報告してもらっている。
- ・自立の方が要支援の方の買い物代行や生活支援（ゴミ出しなど）をお手伝い頂いている。”
- ・新しく入居した方に、バス停やバスの乗り方、近隣のお店を一緒に外出して教えたり、行事などに誘ってくれる（気にかけてくれたことに喜ばれる）
- ・体操への参加をしぶる方に対して、他入居者が声掛けると参加される（一緒にいきましょう、が嬉しい）
- ・ケガをして食事の配膳に手間取る方に対して「いつも助けてもらっているから」と手伝ってあげる
- ・認知症の方で淋しさを訴える方に、顔を合わせるたびに優しい言葉をかけている（名前はわからないが、認識している）
- ・高齢で看取り期に入った方に対して、部屋に顔を出して一緒に過ごしてくれた”
- ・話し相手
- ・過去事例：元看護師の利用者が、併設する特別養護老人ホームへ傾聴ボランティアに行かれていた。
- ・今年6月に入居されました女性Aさん。入居時は、とても険しいお顔が多く、性格も少し神経質ではあり施設への

不満などを口にされることが多い方でした。入居時から同じテーブルでお食事をされていた女性Bさんは、Aさんのお話をよく聞いてくださり、アドバイスをしてくださるようになりました。10月にBさんが、転倒され入退院がありました。退院はされましたが、本調子ではないBさんをAさんは、とても心配されており、良く声掛けをされていました。ある時Aさんが外出され戻られた時にBさんに頼まれたという買い物をして帰宅されました。以前Aさんは、自分の事ばかりで不満を口にすることが多かったのですが、それも少なくなり、話し方も穏やかになり笑顔も増え、精神的に安定した様に見えます。今後も良好な関係を続けて頂けたらと願っています。

- ・自立のご利用者が、認知症で時間の認識が難しくなってきたご利用者を毎日食事の時間に声を掛け、一緒に食堂へ来ていただけている。
- ・支援を受けたご利用者は「友達と呼んでくれる」と言われ、職員が声を掛けていた時と比べ、すんなりと食堂へ来ていただけている様子。
- ・自家用車を運転されるご利用者が、昨年運転免許証を返納されたご利用者の水(2L×6本の箱)など大きな物の買い物を代行している。遠方に住む家族が施設に直送で手配されたりもしたが、ご本人が遠慮してしまい、水を飲む量を減らしてしまった。居室が隣同士で仲も良く、職員がきっかけ(免許証と水の事を伝える)を与えると、ご自身の外出時に支援をしてくださっている。支援を受けたご利用者も、ご家族に対する気兼ねが無くなり、水分もしっかり摂取されるようになった。ご家族に報告し、ご家族も感謝し喜んでいる。職員は自家用車への同乗は控えるように声を掛けている。また、金銭トラブルにならない様に気を付けていく必要がある。
- ・利用者間で通院等の付き添い(車での送迎含む)を行う事例あり。家族に頼れない利用者にとり、他者の支援を受けられたことが安心感に繋がった。施設職員が対応できないことに手が行き届く効果あり。
- ・利用者の中には施設(職員)の介入を望まないケースあり。そういう状況下で自然発生的にピアサポートが実現している。但し、本来の共助という意識で実施されている訳ではなく、人間関係の維持が目的。本来的なピアサポートの展開には施設・関係者からの事例紹介と共にリスク・効果の十分な説明が欠かせない。
- ・入居者同士のお茶会は自然に広まりやすい。感染症の影響が懸念されるがカラオケも好まれる方が多い。(カラオケ機器は簡単なものが良いが職員が操作をしてあげるほうが良い。)
- ・浴室等の危険な場所で高齢者や転倒等で普段の歩行が困難な方が見守られる事でリスク回避に繋がる。
- ・時間帯や季節の変化で不安を感じる方の話し相手になる事で精神が安定する。
- ・引きこもりになる方と一緒に外出等する事で気分転換や精神面に役立つ。”
- ・カフェの庭の手入れ・給仕補助、外出支援、買い物代行、サークル活動の補助
- ・お世話好きで、手料理を振る舞うことが好きな利用者が、気の合う利用者を居室へ呼んで、利用者同士で、ほぼ毎日、お茶会をしている。呼ばれるほうの利用者も、お茶会を楽しみにしており、利用者同士の憩いの場となっている。
- ・食後の服薬を忘れてしまう認知症の入居者がいたが、その方を気に掛ける入居者が複数いた。食事の席替えの際、毎回アンケート調査をするのだが、「認知症の方をサポートできる方」を募集し、服薬のサポートが必要な認知症の方の隣に座っていただき、食後の服薬を補助していただいた。その認知症の方の薬を、サポートをする入居者の机の上にセットし、薬を飲ませていただいていた。
- ・グラウンドゴルフサークルの方々で、日帰り旅行に行かれた。職員に付き添いをしてほしいと懇願されたが、「皆さんなら、職員無しでも大丈夫。万が一何かがあれば必ず駆けつける。」とお話しし、入居者だけで旅行に行かれた。認知症の方のお世話もお願いをしたが、皆で協力してお世話をして充実した旅行になったと言っていた。
- ・入居者に入居者のサポートをお願いすることが当たり前の文化が醸成されている。もちろんその方のパーソナリティを分かったうえで、お願いをしている。新しく入ってくるスタッフも最初は戸惑いがあるが、慣れると、この文化を気に入ってくれている様子がある。
- ・ご家族がおらず、生活保護受給中でお金もなく、有償ボランティアの利用もできない入居者の病院付き添いを、その入居者の友達(同じ施設の入居者)が買って出してくれる。ドクターの所見もしっかりと聞いてきてくれる。
- ・90代の女性入居者と70代の男性入居者。70代の男性入居者は母親を早く亡くしており、90代の女性入居者と気が合い、母親のようだと感じ、親孝行の代わりにしたいと思い、積極的にお世話をしてくれた。実の息子とも話をし

たうえて、世話をする仲となり、病院付き添いはもちろん、部屋の片付けや、買い物代行等行う。便漏れの後始末まで行う。最終的には、家族の代わりにサービス担当者会議に参加し、ケアマネからもお願いをされるような関係になる。現在は90代女性は亡くなったが、息子さんと思い出話をする仲になった。

- ・60代後半の知的障害の男性入居者。入居当初は、不平不満ばかりを言う、困った入居者であったが、近くの居室の90代女性の認知症の入居者のお世話をするようになる。スタッフも自然にお願いをするようになり、頼られることで、しっかりとってきて、不平不満が無くなっていった。
- ・精神科病院の通院歴のある統合失調症の男性入居者。その後、別の統合失調症の男性入居者が入ってくると、積極的に声を掛けて何か困ったことがないか確認をしてくれるようになった。後から入った男性入居者も、同じ病気であることで安心した様子が見受けられた。その後、施設としても、精神疾患の方の受け入れに対して、寛容になり、精神科病院に長期入院をしていた統合失調症の入居者も複数名受け入れるようになった。”
- ・併設の通所介護事業所へ利用者の入浴後の髪をドライヤーで髪を乾かす。ボランティアに声掛けて自発的に参加協力を行っていた入居者が複数名いた。役割を持つことで活動量が増え明るく楽しそうに生活を送っていた。地域にお住いの利用者の話を聴き、入居者の方へお話をしていた。(現在はコロナ感染症の影響で中止となっている。
- ・日課の散歩で知り合った地域の方に誘われ、グランドゴルフに参加し活動している。
- ・散歩で決まった時間に行くことで顔見知りになり、ドライブ等の外出の機会が増えた。”
- ・利用者同士でカラオケBOX や居酒屋、パークゴルフなど外出を企画している。成功体験がもっと楽しい企画へとつながっている。企画者はチラシ作りのWEB講習を習う予定。
- ・新規入居者に対しては、居室周辺の入居者がサポートするようになっている。(自発的)
- ・病院通勤・買い物支援など仲のよい利用者同士、または心ある利用者が行なっている。
- ・精神的ストレスとしてお互いに話を聞き合って励まし慰め合っている
- ・背中の湿布や軟膏塗布などできない部分をサポートしている”
- ・新規入所者に対し、食事の時間や生活の中でのルールなど進んで教えてくれている。新規の入所者の不安も解消される。
- ・利用者同士、趣味活動(手芸、折り紙、書道他)の教え合い。利用者間の交流が深まる。又、意欲向上につながる。
- ・食堂等までの移動時の見守り、自立の方、歩行に不安のある方に寄り添い見守ることで自然とその行動に参動する方が一人・二人と増えた。
- ・米寿や100歳のお祝いを有志の利用者さんと企画しました。15年位前のことです。以降利用者さんの入れ替わりがありながら毎月のお誕生日は職員・利用者一緒に企画しています。
- ・お食事の時間になると放送を流して食堂へ来ていただきますが、居室でぐっすり休まれていたり、耳が遠い方は遅れてしまいます。ですが利用者様同士が「ご飯だよー!一緒に行くよー」などと声をかけて、食堂まで案内されています。声をかけられた側の利用者様も、ありがたうの〜と明るい表情で食堂へこられ皆さんと一緒に食事をいただくことができています。そんなピアサポートのおかげで、職員の私たちも別の支援にうつることができ非常に助かっています。
- ・エレベーターが苦手な方の食事の行き帰りを、隣人の入居者が行っており、互いに気にかける存在になっていること
- ・お互いに声をかけあって、体操等に参加している。
- ・職員の気付かぬ所で、何かあった利用者様にどのように対応したらいいか、アドバイスしてくれる。”
- ・健全な利用者が、近くの席の足の悪い利用者への配膳や片付けの支援など行い、人間関係が良好に保たれている。
- ・認知症症状がある入居者同士がロビーで会話することで持て余す時間が減少。
- ・会話や相談をする。同じ目的をもって作品作りをする。作物や花壇を作り地域に活用する。
- ・食事時の見守りや、服薬確認 入浴時の見守り合い、普段の声かけ合い、災害発生時
- ・ひな祭り行事で着物を着たい入居者を募り、着付けの心得がある方に着付けて頂き記念撮影した
- ・おやつ作りにて、調理の心得がある方に他の方へ助言頂くようお願いした。
- ・部屋で寝過ぎて食事に遅れてないように待ち合わせをして食堂に来られている

- ・連れ立って外出・外食をされている。
- ・ケアハウス内で同席の方のお茶を入れて差し上げる
- ・皆様のパンを配る、焼く等、積極的に行っている
- ・お買い物ツアーでは 車イスの方のお手伝いをして押して下さる
- ・悩みを良く傾聴して下さる お互い支え合っている
- ・日常的に皆様仲良く暮していますが、職員は無理のないように見守っています
- ・敷地内に地下水（飲用）を汲める場所があり、足の元気な利用者（80歳代）が歩行困難になってきた利用者（90歳代）の水汲みを日常的に行なっている。
- ・入居者同士で一緒にお風呂に入り、背中を洗い合ったり入浴後に軟膏の塗布（届かない部分へ）を行なっている。
- ・ご夫婦で入居している夫が全盲で移動時は妻の肩に手を合せて施設内を歩いている。
時間がわからない事、声かけをし、行事、食事等へ連れてきてくれる
- ・得意な趣味等を教える。（余暇の過ごし方）
- ・歩行不安定な方の手助け、ゴミ捨て、エレベーターでの移動
- ・散歩の声かけ、同行
- ・隣接する高令者施設（グループホーム）に、尺八やオカリナなどの演奏の音楽ボランティアをされ喜ばれた。
- ・畑や花の水くれ、草むしりなどの環境整備を行い、感謝の言葉をかけて頂き、やりがいとなった。
- ・ごみ集積場の整理、そうじを気が付いた人が行ってくれている。（決まった人ではあるが...）
- ・行事（法人内の別施設のものに参加）がある時に、声を掛けたり、当日誘って、一緒に参加して下さる方がいる。
- ・誘われる方は安心して生活されている。
- ・背の小さい方に対する、洗濯物干しは、職員の知らない所で干せる背丈のある人が干していると聞いたことがあります。
- ・新規入居者様に対し、食堂や行事などの参加をさそっている。
さそわれる（声かけがある）と、新規入居者様からも声をかけやすいとお話しありました。”
- ・対価を求めないピアサポートは、支援する側とされる側もお互いの理解が深まり、満足感とコドク感の解消につながり、安心した生活が送れるように職員は、お互いに声かけをし、できない時のサポートを行なうことが重要である。
- ・職員は、ピアサポートの状況を把握して、両者への声かけは、感謝の気持ちを込めて、「役立っている」「安心した暮らしにつながっている」「不安感の解消等」をその利用者が理解する言葉で伝える。
- ・体調不安な方とHp や買物と一緒に外出
- ・不在時の生協あずかりや、取りにこない方がいると声かけ
- ・体調不良時、職員に伝える、よりそう、声かけ
- ・食事に来ない方の声かけ、心配
- ・話を聞いてあげる
- ・職員にこっそり相談（他の人のことでも）
- ・常日頃より、あいさつや声かけ、お互いの状態や事情をある程度把握しながら、生活する。
- ・出来ない所をそっと手助け、見守り
などなど自然に皆が助け合ったり、声を掛け合う環境はあり、一人ではない安心感にはなっている様子。
- ・毎朝8時30分からラジオ体操を実施している。
- ・ここ2~3年前までは3~4名の参加であったが、コロナ禍で居室で過ごすことが多くなった中、お誕生日会等を通じて、身体を動かす重要性をお伝えし、お世話好きの入居者様が発起人となって他入居者に声をかけて下さったことで、現在では、14~15名が参加してくれるようになった。
- ”・比較的若手の入居者が、高齢入居者が虫が嫌いであることを知り、虫が寄りつかないように、居室周辺の清掃をしてあげていた。
- ・少し物忘れのある入居者に、食事時間の前に「一緒に食堂に行きましょう」と必ず声をかけている方がおりました。

毎日続けているうちに、声を掛けられていた方が、食事時間をきちんと覚えられて、ご自分から声を掛けるようになった。

- ・ほとんどの入居者のことですが、体調を崩された方がおられた時、心配したり、元気付けたりする言葉を掛けている姿が見られた。
- ・職員による支援もありますが、入居者同士で自然に支え合いながら生活されている。”
- ・日頃から声かけ合える関係があると、地震等の非常時の行動が、職員だけでなく入居者皆んなで助け合える環境になると期待しています。
- ・同じ話を繰り返す認知症利用者の話し相手
- ・施設共有部分の掃除”
- ・行事の時や食事の時の声かけをして、一緒に食堂まで連れてきてくれる。
- ・食事の膳（食べ終わったもの）を食堂まで運んで来てくれる。”
- ・利用者が高齢者に毎食時の声掛けを行ったことで、時間感覚が形成され、迷わなくなった。（日課になった）
- ・（食事間、道、部屋等）協同作業として農園の作業や施設内の除草や整備、美化活動を出来るだけ多くの方に参加してもらおう働きかける。
- ・比較的小さいご利用者の方が、ご高齢のご利用者の方々を集め、レクリエーションされ、楽しい輪が広がり職員も勉強になっています。
- ・以前、食後の食器片づけや配膳を手伝ってくれた入居者がいましたが、他の入居者から「入居者の配膳はさせるべきでない（労働を強制されてるように感じる）「手の衛生状態が信用できないので食事にさわらないで欲しい」などの意見があがり、やむなく中止したという経緯がありました。それ以来、施設の日常業務に入居者を参加させる事はなく、「やりたい」という人には自分の身の回りだけとお話ししています。ネガティブな話で申し訳ないのですが、地域性なのかもしれません。「やってもらって当たり前」「自分でできないから入居した」という意識が、当施設では強いように感じます。
- ・認知症の女性90代息子の年代の男性70代
- ・ロビーでの話し相手から発展して居室に泊まり込んでしまった事例
- ・良い事例とはならないが、本当は互いの気持ちはわかる。男性は入居前に母親を亡くした。女性は最近息子を亡くした。女性は認知症はあるが、特定の介護をうけて、日常生活は行なえている。男性は、その女性を母のように慕い、いつも母の面影を見ている。ある日、夜勤者が女性の部屋を巡回に行くと、夜間帯にもかかわらず、床にその男性がズボンも脱いでくつろいだ姿で寝てしまっていた。息子を亡くして落ち込んでいた女性をなぐさめるため、訪問しているうち、自分の部屋のようにくつろいでしまったと。女性は翌日にはその事も忘れてしまっていたが、周囲の入居者が、「〇〇さん（女性）の部屋から男性が出て来るのをしょっちゅう見ると、変なうわさになった。日中の話の相手は今も皆で見守っているが、夜間帯はドアの前に、「夜勤の職員が訪問して安否を確認しています」と夜だけ札を下げることにした。今も続いている。”
- ・朝ご飯の際、職員が遅刻し、朝食の支援（お茶を入れる）が出来なかった時に、入居者の方々が協力し行ってくれた。
- ・足に装具をし歩行器でエレベーターに乗った入居者さんがエレベーターから降りる時なかなか降りれずエレベーターが閉まらないように支援してくれる入居者さんがいる。
- ・停電になり、エレベーターの使用ができず食事を各部屋へ配るのを手伝ってくれる。
- ・声掛けをし合う事で、認知症による能力低下があっても生活が維持出来る。
- ・助け合いが行われる事で、職員が気づかない本人の困り事や課題を教えてもらう事が出来き、支援の展開や改善につなが事が出来る。”
- ・いわゆる世話やき入居者がおられる（仮にA様とする）。その方とは別にご夫婦が入居されておられるが、奥様が認知症である。夫は奥様の介護を行っているが、十分でなく介護疲れがみられる。A様はその事に気付いており、ご主人の話を聞いてあげたり、奥様に施設内の簡単な運動機具を用い、一緒に体操したり、散歩に出かける事もあった。奥様の表情が入居時より明るくなったように思われた。

- ・利用者さん同士での声掛け合いで体調変化等の発見、気づきにつながった。またいっしょに散歩したり趣味でのつながりができた
- ・視力障害の入居者様が他入居者様に手をひかれて施設内を散歩したり、自販機にて買物をされている。支援している入居者様は時間を持てあましていたもので、活動性が増した。お互いに困り事等相談する等人間関係がよい。
- ・お互いに声をかけあって、体操等に参加している。
- ・職員の気づかぬ所で、何かあった利用者様にどのように対応したらいいか、アドバイスしてくれる。
- ・一部の利用者が主体となり職員がバッグアップすることで、手作りのお菓子(柏もち・栗まんじゅう)を作って、喫茶(カフェ)を開くことができた。コロナの感染対策が長期化し、交流の機会が限られていたため、楽しい時となった。
- ・コロナ前は、地域の高齢者と施設の利用者が友人となったことから、地域の方がお菓子作り施設は場所と飲み物を提供するカフェを行い、地域の子どもの落語の披露を行ったこともあった→利用者も喜び子ども達の親御さんも施設に来ることができた”
- ・地域活動の活発なご利用者の方が新規入所の方へ生活面で案内をして下さったり、相談に乗ったりして下さっている。また、すでに入居されている方の体調面での変化にいち早く気づかれて、職員に報告して下さったりしている。
- ・レクリエーションの一環で施設内の掲示物を作成して下さっている方が、興味を持って集まった他の利用者に対して個々ができる範囲に作業を分担して作成する場を設けて下さっている。
- ・施設内の行事に参加した際に職員の補助の様に他のご利用者に目配りしていただいている。
- ・利用者間の生活のしやすさに繋がりが見られている。
- ・特定施設では、介護事故の予防から利用者同士の支援は難しい場合がある。その中でも施設の手伝いで、洗濯物を畳んでいただいたり、テーブル拭き、喫茶の手伝いなどをしていただくことで、活動的になり元気になっている利用者もおられます。
- ・視力低下により、エレベーター操作や食事時間の把握がだんだんと難しくなってきた入居者の方を、同階の複数名の入居者の方がおのおので出来る支援を行い、毎食、食堂に来ることができています。少しずつ気にかけてくださる入居者の人数が増えているように感じ、また職員にも「あそこに座っていたから行ってあげて」と伝えて下さるなど、みんなで助け合っている雰囲気を感じられます。
- ・今後も継続していきたい事例：自立している方が、認知力が少し下がって来た方の散歩、外出に同行する。
- ・お裁縫の得意な方に裾上げ、ボタン付け、つくろい物等をして頂く。
- ・取り入れていきたい事例：穏やかな性格の方に、傾聴ボランティアのような役割をして頂く。
- ・サポートできそうな内容を検討し、ご利用者様に募集をかけてみる。
- ・A様 73歳女性 躁鬱病の既往歴有り通院服薬で現在は落ち着いている。B様 84歳男性 アルコール中毒、歩行困難、A様は元々面倒見が良い性格で何かとB様に気を掛けている。食事の配膳下膳や居室の整理整頓、洗濯、買い物等B様の日常生活全般を自発的にサポートしている。A様はB様のサポートをする事で充足感を覚え精神的にも安定した日々を送っています。しかしながら、至れり尽くせりにB様に係わり過ぎるとB様の廃用症候群も懸念される事態に陥り兼ねないので、適度に職員が介入してバランスをとっています。
- ・C様 90歳男性 施設に入居中 近隣に住居を借りて趣味の畑で農作物を作っている。D様 79歳男性 近隣に住む農家 C様の趣味の耕作を通じて近隣住民との交流が始まる。C様から適切な植物の植える時期、剪定、市場価格の相場から農作物の価格決定等を農家の方々が学びその豊富な知識と経験から深い尊敬を集めている。交流を通じて施設に対しても親近感や理解を深めたD様からの申し出で、出荷しない農作物を頂く事もあります。”
- ・自立されている入居者様がシルバーカーを利用する入居者様にさりげなく近くにシルバーカーを置いてくださり、スムーズな移動へとつながりお互いの信頼関係も深まった。
自立されている先輩入居者様が、新しく入居された入居者様に一般浴の仕方(使い方)やルールなどを自発的に教えてくれて、新しい入居者様も不安なく新しい生活にとけこめるきっかけにつながった。

- ・ 工作を” やりたい” と話す入居者様の声をきっかけに、場所と道具を準備しました。他にも興味のある入居者様が自然と集まるようになって、お互いのできる事をやったり、手伝ったりしながら、交流が深まるきっかけとなり、日常生活でも声かけあったり支えあったりする姿を見られるようになった。
- ・ 「食事に行きましょう」と誘い合う事で、互いの自立支援につながる。
- ・ パズルや折り紙など趣味活動の準備、片付けを、できる人が行う。
- ・ 仲の良い少人数に限られていたが活動性の向上、余暇の充実につながる。”
- ・ 視力と聴力の低下がある入居者に対し、他の入居者がエアコンのリモコンが使えるようシールを貼ったり、洗濯機の操作ボタンに触ったらわかるように凹凸のシールを貼っておられた。また、館内アナウンスが聞き取れない為、アナウンスがあった時には、居室に行き、内容を伝えている。

この方は住み替えも考えておられたが他の入居者からの支援を受けながら施設での生活を継続されている。

- ・ 食事 配膳、片付け支援
- ・ 入浴 見守り（自立の方（※ほぼ自立者）とペアを組み、シャワーの使用方法などを助言）
- ・ 夜間の他入居者の状態を職員に報告
- ・ 洗濯の手伝い（洗濯たたみ、選択、乾燥機終了の声かけ）
- ・ 食事の声かけ 食堂まで付き添いをされる ※転倒の危険もあり、支えず付き添いのお願いを行っている（共倒れ）
- ・ 廊下のモップがけ
- ・ 自主的にされる、手伝いをされている姿を見て「私も」と言われる方もでてきた。職員からではなく、入居者同士で取り組んだ事を何気ない世間話の中で話されたことから浸透されたものもある。
- ・ 入浴時、複数で入り、見守りし合う。何かあった時に助けを呼んでもらえる。
- ・ 食事のお膳の片付けの際、身体の不自由な方のお膳を、片づけてもらう。
- ・ 買い物に行く際に、他の方の希望する物をついでに買ってきてもらう。
- ・ 仲の良い利用者同士、集ってお茶会を行い、おしゃべり等で気分転換する。”
- ・ 車イスや歩行器を使用する入居者への支援を（食事時間の配膳や下膳 通院日、デイサービス利用日の玄関までの送迎）周りの入居者が見て、同じようなことをしてくれるようになった。
- ・ 自衛消防訓練の参加への呼びかけ
- ・ 納涼祭行事への地域開放
- ・ 連合町内会関連行事への参加

資料 自由回答記述一覧

問9 本調査に関する感想・期待・質問等

- ・研究調査内容にていろいろな事柄がみられ、再度見つめなおしや、今後このようなこともあるだろうと思えることがあり、良かったと思います。
- ・何でも良いので施設の収入が増加する方法なら大歓迎です。入居者様の生活の質を上げていくために使える原資がほしいです
- ・ケアハウス入居者が施設外での人間関係を作っていく方法・事例の調査結果があれば参考にさせて頂きたいと思います。
- ・ケアハウスの意義を見直すきっかけにしたい
- ・これまでも入居者が自主的に関わろうとしてくれたこと(食事の配下膳、歩行への手引き)に対して、職員側がリスク回避のために「止めて下さい」という否定的な声掛けになることが多くあった。できることに目を向ける前向きになる支援により、施設内が前向きな方向になることは結果として職員にプラスで戻ってくることを改めて考え、取り組んでいきたい。
- ・高齢者同士の支えあいや、生き甲斐を支援するのもケアハウス役割ではと思っております。地域との繋がりが希薄化して、SNS等で繋がる“個族”が当たり前のようになっていると思います。「繋がり」をどのように活かしていくかを考えさせられる調査であると思いました。
- ・非常に意義のある設問が多数あり、結果の情報公開に期待しております。
- ・アンケートを通じてピアサポートの重要性を理解する事が出来ました。ありがとうございます。
- ・このような観点を持ち、入居者処遇に関わり、入居者が生き生きと生活する事が出来るよう取り組んでいきたいと思えます。”
- ・これまで老人会を中心に関係構築を行ってきたが、高齢化が進んでおり老人会が機能しない好況となってきている。
- ・項目が多すぎて答え方に困る内容が多く感じた。もっと端的に少ない情報を回答する形の方が回答しやすいと思う。
- ・職員の中には入居者の相互の関わりを都合の悪いものと捉える傾向がある。もののやり取りやもの金銭の貸し借りがトラブルのもととなるなどがおこってしまった結果と思われるが、職員による制御が最大の阻害要因となっている。
- ・年齢を重ねても出来ることを大事に、ともに活動したり、地域と関わることで、より可能性が広がり、新たな出会いや、今後の意欲に繋がることを実感している。支援者の立場では、新たな発見や、もっとこんなことも可能なのではと、仕事へのモチベーションもアップする。良質なサービスに繋がり、好循環が生まれると思う。
- ・ピアサポートについての多くの事例を知る機会を頂けることを期待します。
- ・役割を持つ事で社会性を維持する事に繋がるなどのメリットも多く感じるが「利用者間で事実ではない憶測の話が広まる」「現金の授受があっても事実が分からずご家族からのクレームに繋がった」「お金を払ってるのに働かせるのかとのクレームになる」などトラブルが絶えないのが現実。
- ・他施設では、どのようなピアサポートが行われているのか関心がある。
- ・職員以外の人に干渉される事が嫌いな方もおり、相互理解には時間をかけていく必要があると考える。
高齢者同士が同年代にしか分からない事を相談出来る事は良いと思うが、近年の利用者、その家族は、よりプライベート、個人情報保護を重要視して他者との交流を避ける傾向が強く、そのためサポート体制作りが非常に困難になってきていると思われる。
- ・当施設利用者の日常生活においては、偶発的に善意としてサポート的な行為が行われることは散見されますが、役割のルール化、ルーチン化はされてはいません。
- ・施設利用に当たっては、自立した生活を送れることが基本的な条件となっていますが、現状では利用者の半数以上が、介護認定を受けており、外部の福祉サービス（ヘルパー、デイサービス等）を利用しています。また、介護認定を受けていない場合でも、軽度の認知症であったり、身体的機能の低下が認められたりと、サポートする側になれる利用者が少ないのが実情です。サポートされる側の立場の利用者が多いと、仮にルール化、定型化をしてもサ

ポートが特定の利用者に限られてしまうことも想定され、バランスが難しいように思われます。また、年間10人ほどの利用者の入れ替わりがありますので、個性の強い利用者もいて、その都度人間関係が変化し、様々な課題が生じてきます。しかし、利用者それぞれに日々の生活の中で、自分の存在価値が高められ、他の人の役に立てるという充実感を得ていくためには、ピアサポートという取り組みも極めて有用なものと考えますので、実情に応じてどのようなことが可能か検討していきたいと思います。

- ・最近では新型コロナウイルス感染予防の為、出来ていないが以前は市内の小中学校からの職場体験等で実際に入居者のお部屋で昔の話を聞いたり、一緒にお茶を飲んだりする機会があった。
- ・ますみんカフェと称し地域住民と入居者との交流が出来る場を土曜日にしていた。
- ・地域の校区地域協働協議会の福祉部会で役員を施設長がして活動している。
- ・入居者が他の入居者を支援することはリスク管理や入居者同士の感情的なもつれ（支援することをよく思わない人がいる）、入居者間の力関係発生の一因となるため、施設として推奨できない実情があります。災害時にはお元気な方に限定して協力を要請することは避けられませんが。
- ・お元気でパワフルなご入居者は常々何か役に立ちたいとおっしゃり、その活躍の場を提案することにいつも難儀しています。施設の外、地域で傾聴ボランティアや外国人に向けた日本語教室などされた方は、施設から離れたところで活動することで他の入居者からの悪い影響を受けにくいと助言したこともあります。また自発的に頭の体操のクラブを立ち上げてくださった方も、ネガティブなことを言うご入居者が現れる可能性についてお伝えしたことで、心づもりができ、始める事と続けることの大変さを共有し同時に職員もフォローしてきました。
- ・お年寄りの活躍の場と支え合いの形は将来の人手不足などの観点からも大変重要な資源であると認識しています。一方で発生する人間関係や感情的なもつれへの対応もなかなか複雑で難しいと感じています。”
- ・ADLの高い方が生活されている軽費老人ホームA型では、個々に、『誰かの役に立ちたい』、『何かやれることがあればやりたい』と考え、行動に移される方が多いように思います。延命荘においては、入居者様同士の支え合いは、自然な流れで起こる事が多いです。職員がある程度の距離間を保ちながら、様子を見させていただいております。
- ・ご本人ではできにくい事で、職員がやれることは職員が行うという動きが定着している点や、事故や苦情を予防する観点から、意図的に入居者様同士のサポートの機会を作ることはほとんどございません。本調査において、ピアサポートの必要性や意図的に関わる事の根拠を知るきっかけになれば良いと思います。”
- ・ピアサポートという言葉を初めて知った
- ・コロナ感染への不安が解消されるまで地域の方々との交流に思い切って踏み出すことが出来ずにいます。
- ・高齢者同士のトラブルが日常茶飯事なので、取って代わってピアサポートを勧めるのは難しいですが、自然発生によるものはあたたかく支援していきたいと思います。
- ・ピアサポートが当たり前になることで、職員が支え合いが当たり前と思うようになり、職員としての役割を勘違いしないよう指導していくことが必要と感じる。
- ・アンケートで、ピアサポートの理想について思い知らされ、そこにも手間と労力を割かないといけなかったのかと省みた。社会福祉士、すでに十分がんばっています。もっと介護に明るい未来がほしい。
- ・入所者の体調に幅がある現状に苦戦する毎日です。常時介護が必要になってきた方と、自由に活動を行える方の考えが違い統制を取るのに四苦八苦です。ピアサポートが機能すれば生活の質も上がると思うので皆さんの意見をお聞かせいただき前進できればと期待しております。多数の実例・アドバイスを楽しみにしています。
- ・車椅子を押していて、相手の方が車いすから落ちてケガをしてしまいました。今まで親切心で、積極的に介助やお手伝いをされていた方ですが、これをきっかけに自信を失い、お手伝い等すべてから手を引かれました。考えさせられる事例でした。
- ・今後、相互扶助は重要だと思いますので、それぞれの地域課題を抽出しこういったものから対応策や地域での理解の広がりにつながると思います。
- ・支え合いは大切なことだと思います。
- ・利用者さんの間で行われることは良いですが出来る利用者さんが出来ない利用者さんを手伝う事で良い関係では済まず、それを見ている他の利用者さんが妬きもちをやいたりしてトラブルになる事があるので慎重に考えたいかな

いでもあります。

- ・アンケートの内容は大変参考になりました。”
- ・うまくいった事例などを多く知りたい。
- ・たくさんの事例が知りたい。そこから自施設でも可能性を探りたい。
- ・高齢者同士のピアサポートではないが、利用者に声をかけて、ハーブの苗を作って、沿道でドライバーに交通安全の呼びかけをして苗を配る運動を実施した事があった。
- ・また、昔学校の教師をしていた利用者が、中学生までの子供さんに数学と英語を教えていた事があった。最近では元気な利用者が、介護を受けている利用者のゴミ（リハビリパンツ）新聞紙に包んで集積場に集めるといったサポートを行っていた。
- ・回答が大変遅くなりすみません。施設中での人間関係の作り方、有りようはその法人、施設の方針とそれに職員がどれだけ理解して同じ方向へ進むことをよしとして一緒に努力しているかで大きく違います。それぞれが、それぞれの家庭のようなものだと思います。この調査で施設の中で暮らすメリット、良さを入居者も職員も再認識していただけるとよいと思います。
- ・長い人生を背景にして、福祉の潮流になって来ているピアサポートと、いわば老々サポートにより起こり得る事故やトラブル等との折り合いのつけ方、そのためのリスク低減の難しさをあらためて考える機会になりました。
また、ピアサポートに関わって頂いても心配のない入居者の少なさや、ピアサポートへの意欲は持ちつつ、他の入居者への関りが逆に問題を起こしてしまうことなど、難しいことも多いと思いました。
- ・入居者間の関係性が希薄化、複雑化しています。ピアサポートに対する理解がひろがり、お互いを支え合う気持ちを職員が紹介しながら、広めていくことで施設全体の雰囲気がよくなり、交流を通してエンパワーメントにつながる支援ができると思います。まずは職員がピアサポートに対しての理解やつなげるスキルをつけていくことから始めなければならぬですね。
- ・事例検討などがあり、実践しているケースなどを知る機会があると実践につなげられると思います。
- ・ピアサポートで対価を得ることはないですが、アンケートには対価を得る回答しかなかった。選択できなかったが無理に回答した。
- ・職員が業務の中でできる、ピアサポートを行える環境づくりや声掛け等を知りたい。また、実施してみたい。
- ・ケアハウスで自立している方が入居されているが、皆さんご自分のことが精いっぱいな感じがあります。
- ・高齢者への支援というより、1人の方がグランドゴルフや老人会等の参加を行っている
- ・コロナ禍以降は、感染予防の為に利用者間の距離を取るように対応しており、食事の配膳や下膳に関しても利用者同士のサポートをお断りするようになりました。また、基本的に自分の事は自分で、出来ない所は職員へ伝えて貰い、必要に応じて介護サービスを利用する方向で対応しております。
- ・個人差はありますが、地域との関わりを持たれている方はいらっしゃいます。ただ、具体的に職員が把握出来ないのが現状で、ピアサポートにあたるような活動をされているかは分かりません。
- ・今年度、生活相談員の異動があり、過去の事例等、十分な回答が出来ず申し訳ありません。”
- ・アンケートを見ていて当施設でのピアサポートを見直すことができました。当施設は、小規模で、平均年齢が85歳となります。高齢の方は、101歳となりますので、なかなか他の方をサポートする環境にないようには思いましたが、話し相手等のことが実施できている事を確認できました。また、他の施設で若い方がいらっしゃるところにはとても有効なものであると思います。
- ・私自身勉強不足で、聞ききれない「ピアサポート」でしたが、とても勉強になりました、有難うございました。
- ・施設が介入して高齢者同士の支えあいを実行するなら、高齢者同士の活動によるリスクマネジメントの体制整備が重要だと思われる。また、入居者様、ご家族様へのご理解も必要だと思われる。
- ・今回の調査で、高齢者にしかわからない苦しみや生きづらさを同じ境遇に置かれている人と体験を共有する事で、生活の安定や不安、孤独感を和らげる効果があると感じました。
- ・利用者の人間関係の問題が多くなっていることや利用者が、ご自分の生活をするのが、精一杯となっていて、他者への支援をすることが難しい方が多くなっていたりして、高齢者同士の支え合いを展開をしたいが、難しくなっ

いる。また、職員数が、限られているため、サポートも、難しい。やりがいや生きがいを持てるような、支援を模索している状況にある。

- ・軽費老人ホームでの見えない機能であるソーシャルワーク機能に焦点を当てたとても良い調査であると思う。これを機に、軽費老人ホームのような、多様性のある入居施設のメリットを見える化し、価値の再発見をしてほしいと切に願う。
- ・ピアサポートは、高齢者にとってプラスとなる面もあるが、逆に事故に繋がったりマイナスになる面もあるので、施設側としては慎重になってしまう面もある。
- ・軽費老人ホームに多く見られる事象についてフォーカスしてもらえたように感じる。
- ・他施設の取り組みも聞いてみたいです。”
- ・利用者様が、誰かの役に立てる事で生きがいを感じていただけるようになればと思いますが、方法もわからず、リスク面も心配です。
- ・50人みえるケアハウスの入居者と地域住民とのコミュニケーションを図り、地域の人々が主催する喫茶、祭り等も参加しましたが、「よそ者」と言うことで交流は生まれませんでした。社協が開く「福祉ふれあいまつり」、公民館活動などにも行かれる人が減って来ているのが現状です。田舎では、疎外感があるのです。それに、コロナが拍車をかけました。県は地域住民との連繫をよく監査などで言いますが、何もわかってないのです。建前だけです。やった公務員の声は聞こえてこない。
- ・利用者様同士の支え合いでも、やりたい気持ちはあるが、身体が付いて行かれない方については発見した時点で職員が止めてる。(事故が起こらないようにしている)
- ・実現できそうで、なかなか難しい。(人間関係等)
- ・個人主義的な考えが多い中、ピアサポートが実現できれば良いと思いました。
- ・会員施設の様々な事例を取り入れたいと考えているので、この調査を通して事例の収集を期待している。
軽費は自立者の施設ではあるが、現状は職員やヘルパーの支援なしで生活できる方が少ない。ピアサポートができるレベルの人がおられたとしても、その仕組み造りが難しと思われるので、現状に照らし合わせたそれぞれの施設での対応が必要と思います。
- ・非常に興味深い着眼と感じます。
- ・ピアサポートにより支援される入居者は生活が助かり、支援する方は自分の社会的役割の実感を取り戻すことにつながり双方にとってメリットがあると思います。
- ・実際をみている私としては多くのメリットを微笑ましくみる反面、入居者同士のかかわりであるが故に感情的なトラブルにもつながることも目にしますがそこは職員が公平な観点から介入し良い関係を継続頂ければと努めている次第です。
- ・「誰かのためになっている」という実感はよりよく生きる上で大事なことと感じます。”
- ・当施設は建物の老朽化により、新規の方の受入れは行っておらず、今居る方への支援を行うのみとして、事業を継続しているところです。
- ・生活保護の方、家を処分して入居された方、身寄りのない方等、事情のある方ばかりとなっています。
- ・軽費B型のため、入居者の生活については十分把握できていませんが、週1回、一緒に買物に車で出掛ける時、いろいろな話を聞くことができ、その時、その時で、目の前の課題には対応できていると思います。(職員が調整役になることも...)
- ・自然な流れの中で、隣人としての支え合いができています。
- ・利用者の能力を引き出すことにつながり生活満足感の向上になる。
- ・ピアサポートは、より多くの方の安心した暮らしにつながります。
- ・職員不在の時間もあるため
- ・高齢者同士の支援は、とても大事で、日頃より声かけも行なっているが、それが、個々の精神的、肉体的負担にならないように気をつけ、気を配りつつ、介入している。
- ・介護度が高くなってきているため、決まって行く役割(もちまわり)は、全員参加はむずかしい現状にあるため、

個々の役割（自然発生を主に）関わりを支援している。

地域との関わりは コロナ禍もあり、又、虐待避難、介護度高く高年齢あり、現在は出来ていない。

入居者同士の相乗効果につなげていくことができれば良いと思います。

- ・同じ仲間として社会参加や地域での交流、問題の解決等を支援したりする活動の実現に向け、大変良い事と思います。
- ・2022, 10, 3, 和歌山市六十谷の水管橋が破断し、1週間断水しました。この間、入浴設備は使用しませんでした。トイレや生活用水のため、貯水槽へ水補給する作業、入居者2名～4名積極的に職員と同等レベルで手伝ってくれました。入居者の方からは、一つの目的に向けて、やることははっきりしていたから、楽しかったと話がありました。朝8時～夜10時までおつき合い、本当にうれしかったし、他府県から応援で来てくれた給水車の人も野次馬はいても、協力してくれる入居者はいないということが聞いて、特別感がより強く感じた経験でした。
- ・入居される方も御高齢のため自分のことで精一杯なところが見受けられ元気な方もボランティアやサポートより有給の就労傾向などがある。
- ・長期入所や入所段階での高齢化による運動機能面の問題や認知症要因が増化している利用者様も少なくない。その様な状況の中でも地域や他者とのつながりを持ちつつ、自分らしさや自分自身の存在価値が発揮できるシーンはとても必要だと感じています。
- ・施設も老老介護となるぐらいの働き手不足が深刻となった、良い結果と感じます。
- ・悩みます。施設の中でも、開設当初は、食堂の配膳や下膳、時には居室配膳までも入居者同志が助けあっていた頃。あの時代は、「出来ることはお互い様」でしたし、施設としても明確なルール作りはしていなかった。しかし、入居者同志でうまいこと話を合わせたり、体調不良があっても事務所に知らせず隠したりして…。結果、職員が介入するようになり、配膳などもいちいち伝票に書いて、どういう理由かを把握できるようにした。知っておかなければならない事、知らせてほしい事（特に現在はコロナ等のこともあり）を入居者が判断してお知らせして下されば、特別な制限はいらないのかも？しかし、認知症の問題もあり、課題はある。一応、入居者同志でおみやげや差し入れのやりとりに関してまでは目くじらをたてていない。いつも、どの場面で「片目をつむる」かが、考えどころだ
- ・施設の元気な入居者さんには役割をお願いしたいが、入居者同志の人間関係もありなかなか実行するのが難しい。
- ・利用者様が誰かの役に立てる事で生きがいを感じていただけるようになればと思いますが、方法もわからず、リスク面も心配です。
- ・ケアハウスは60才以上の方なら入れますが、現実的には80代・90代の方がほとんどです。ピアサポートなど、うちの施設では関係ないかも・・・と思いながらアンケートを読み進めていくと、助け合っているやることがありました。配膳をしてあげたり、お茶を入れてあげたり、移動スーパーへの買い物頼まれたりしていらっやいます。職員としては、足元が危ないと思う反面、助かる面もありますので、入居者様同士のピアサポートを見守っていきたいと思います。
- ・今後の施設外活動における課題をいくつか実感できた。
- ・介護保険の特定施設では、入居者同士のピアサポートへの理解が必要だと感じます。
- ・今回、ピアサポートについて知る機会をいただきました。施設では、利用者の方によっては、利用者が利用者の手助けをすることについて注意する方もおられる中、今の時代にあったサポートの形を当施設でも考えていかなければならないと思いました。また、規定や保険のことなどどうしていったらいいのか利用している施設があれば、教えていただきたいと思いました。
- ・これまでもピアサポートについて興味はありましたが、職員がどのようにつなぎ、支援していくか考察や支援計画が追いつかない現状です。これを機会に取り組んでいければと思います。
- ・職員の見えないところで、入居者様同士でたくさんの支え合いが行われていると思いますが、”ピアサポート”という視点が職員に不足しているような気がしました。あらためて、入居者様のもっている力、強みを把握してピアサポートが実現できるような関わり方を意識して業務にあたりたいと思います。ありがとうございました
- ・利用者同士で助け合っている姿は見られるが、職員が積極的にすすめている状態ではない。有償やポイント付与などでどう効果があるのか、具体的な取り組み例を知りたいです。

令和5年度
地域共生社会の実現に向けたピアサポート
(高齢者の支え合い)に関する研究調査報告書

発行日：令和6年3月

編者：昭和女子大学 人間社会学部
福祉社会学科 北本 佳子

調査協力：一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会

研究助成：昭和女子大学研究助成金

